4-082-131-**03** (2)

フラットパネル カラーテレビ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

KZ-42HS500

見る

テレビを見る 4

画質を選ぶ（お好み画質） 6

サウンドフィールド（音場効果）を選ぶ 7

シネマサウンドフィールドを選ぶ 7
ミュージックサウンドフィールドを選ぶ 9
音場効果を加えない音声を楽しむ 9
ドラマやニュースの人の声をより明瞭にする 10
デジタル音声について 11

ワイド画面を楽しむ 12

自動でワイド画面にする（オートワイド） 12
手動でワイド画面に切り換える（ワイド切換） 13

2画面で見る（2画面） 14

画面サイズを変える（左拡大/右拡大） 15
操作する画面を選ぶ（左操作/右操作） 16

チャンネルを一覧表示する（インデックス） 17

メモするために画面を静止させる（メモ） 19

画像を消して音だけを楽しむ（消画モード） 20

他機を操作する

他機を操作するための設置のしかた 21

本機のリモコンで他機を操作するための設定をする 23

手順1:　メーカー設定をする 24
手順2:　入力設定をする 26
コントロールSコードやAVマウスをつなぐ 27

本機のリモコンで他機を操作する 29

ビデオを見る 29
DVDを見る 30
BSデジタル放送を見る 31
デジタルCS放送を見る 32

テレビにつないだ機器の画像を見る 33

パソコンの画像を見る（PC） 34

調整する／設定する

画質を調整する 45

シネマドライブモード 47

画面の上下位置/縦サイズを調整する 48

音質を調整する 49

サテライトスピーカーの位置を設定する 50

音声を切り換える（二重音声） 51

オートワイドの設定を変える 52

オートワイドの設定について 52
オートワイドを設定する/切る 54

テレビの接続と準備

手順1：付属品を確かめる 56
手順2：ディスプレイユニットに電源映像ケーブルをつなぐ 58
手順3：ディスプレイユニットをスタンドに設置する 59
手順4：デジタルAVユニットに電源映像ケーブルをつなぐ 59
手順5：サテライトスピーカーとサブウーファーをつなぐ 60
手順6：テレビアンテナをデジタルAVユニットにつなぐ 62
手順7：電源コードとアース線をつなぐ 63
手順8：チャンネルを設定する ... 63
自動設定する 63
手動設定する 65
数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ（10キー選局） 67
ゴーストの少ない画像にする（ゴースト・リダクション） 69

他機との接続

接続端子の名前とはたらき 71
ビデオをつなぐ 74
BSデジタルチューナーをつなぐ 76
デジタルCSチューナーをつなぐ 78
DVDプレーヤーをつなぐ 80
"プレイステーション 2"や"プレイステーション"(PS one)および"プレイステーション"をつなぐ 82
その他のテレビゲームなどをつなぐ 84
オーディオ機器をつなぐ 84
ドルビーデジタルやDTS対応のオーディオ機器をつなぐ 84
MDデッキなどをつなぐ 85
その他のオーディオ機器（2ch入力対応）をつなぐ 85
パソコンをつなぐ 86
IBM PC/ATコンピューターまたは互換機をつなぐ 86
Macintoshコンピューターまたは互換機をつなぐ 86
ハイビジョンビデオデッキ（ベースバンド）をつなぐ 87

その他

故障かな？と思ったら 88
自己診断表示－画面が消え、電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプが点滅したら 89
本機の症状と対処のしかた 90
ディスプレイユニットのお手入れについて 95
保証書とアフターサービス 95
主な仕様 96
用語集 98
各部の名前/Identifying parts and controls................................... 100
メニュー一覧 104
索引 105

この取扱説明書でのBS放送の表記について

BSアナログ

従来からのBSアナログチューナー内蔵テレビやビデオで受信できるBSアナログ放送の4チャンネル（NHK衛星第一/第二、NHKハイビジョン、WOWOW）と、独立音声ラジオ放送（St.GIGA）です。

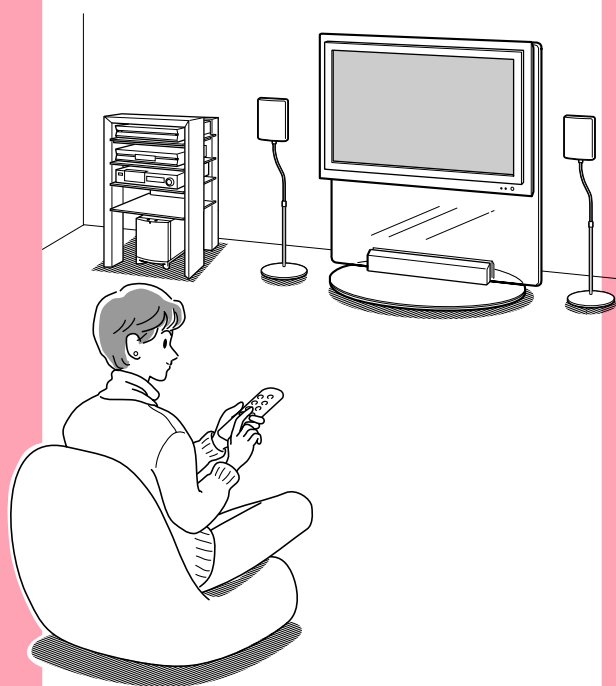
例：BSアナログ放送、BSアナログチューナー内蔵テレビ、BSアナログチューナー内蔵ビデオなど

BS（またはBSデジタル）

2000年12月に本放送が開始されたBSデジタル放送です。

例：BS放送、BSチャンネル、BSデジタルチューナーなど

見る

ここでは、テレビを見るときの操作を説明しています。
画質や音場効果を選んだり、ワイド画面や2画面・多画面で見たり、画面を消して音だけを聞いたりするなど、多彩な機能の操作も説明しています。

テレビを見る

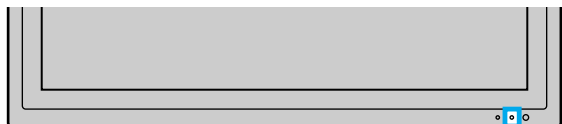
消音ボタン
一時的に音を消すときに押します。
もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出ます。

画面表示ボタン
チャンネル表示を出すときに押します。
もう1度押すと表示は消えます。

テレビが操作できないときは
リモコンのテレビボタンを押してください。

ちょっと一言
- 電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプが赤く点灯していて、リモコンモード（☞23ページ）がテレビになっているときは、リモコンのチャンネル数字ボタンやチャンネル+/−ボタン、インデックスボタンを押すと自動的にテレビの電源が入ります。
- 省電力のため、放送終了後、または放送のないチャンネルにしたままの状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて自動的にスタンバイモードになります。

テレビの電源を入れる。

ちょっと一言
- 本機は、非常に高性能なデジタルシステムを搭載しています。このシステムを初期化するために、電源を入れてから映像/音声が出るまでに、10秒くらいかかりますが、故障ではありません。
- 電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプがオレンジ色に点灯しているときは、PCパワーセーブモードになっています。

電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプが赤く点灯しているときは
リモコンの電源スイッチを押す。

電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプが消えているときは
デジタルAVユニットの電源スイッチを押す。

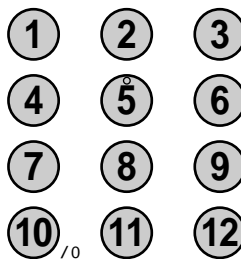
2 テレビボタンを押して、リモコンモードを「テレビ」にする。

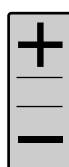
ご注意
リモコンモードを変更しないかぎり、この操作を毎回行う必要はありません。
リモコンのボタンを押したときに、テレビボタンが赤く点灯するときはリモコンで本機を操作できます。

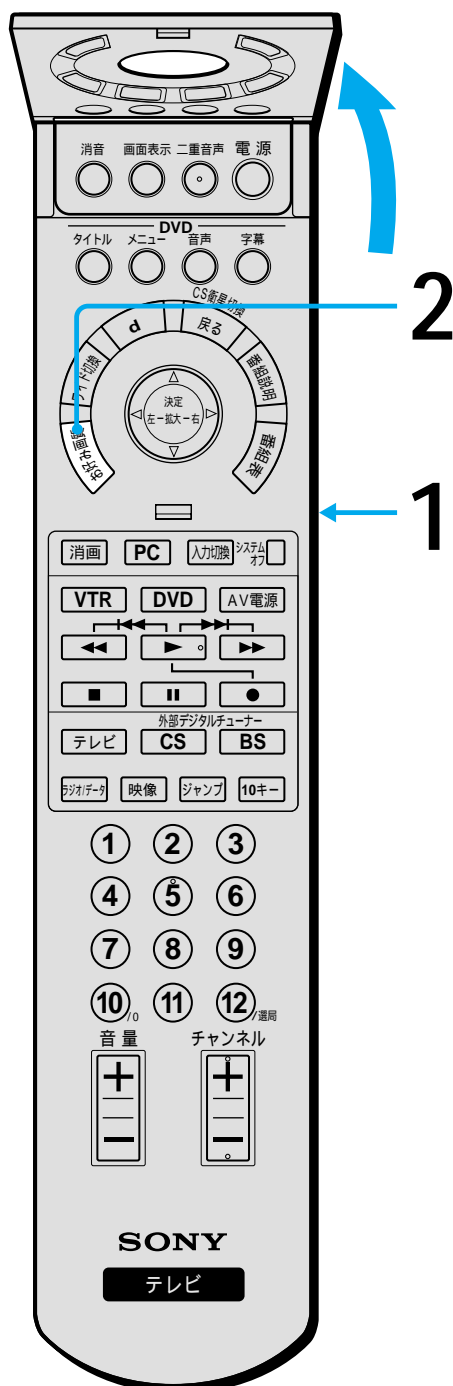
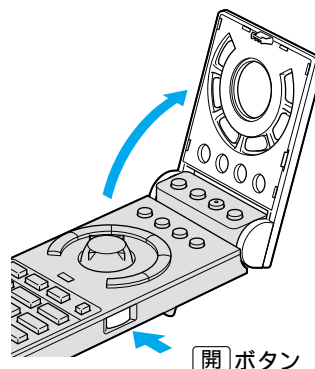
3 チャンネル数字ボタンでチャンネルを選ぶ。

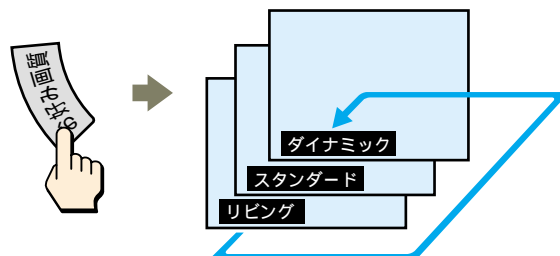
チャンネル+/−ボタンでもチャンネルを選べます。

1 2 3
4 5 6
7 8 9
10/0 11 12/選局

または

4 音量+/−ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言
音量表示の横にある数値も調節の目安になります。

画質を選ぶ
（お好み画質）

お好み画質ボタンを押すだけで、部屋の明るさや映像の内容に合わせた画質設定を選べます。また、「リビング」を選ぶと、画質をより細かく調整できます（☞45ページ）。
ご家庭で通常ご覧になるときは、「リビング」を選ぶことをおすすめします。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 お好み画質ボタンをくり返し押す。

1回押すと、現在の画質設定が表示されます。その後、押すたびに、次のように変わります。

ダイナミック
映像の輪郭とコントラストを最大限に上げたメリハリの非常に強い画質になります。

スタンダード
明るめの部屋に合わせたコントラスト感のある画質になります。

リビング
明るさや色あい、色の濃さなど基本的な調整ができます（☞45ページ）。「標準」では、標準的な部屋の明るさに合わせた、適度なコントラストのある画質になります。

ご注意
映像ボタンを押しても、画質は切り換わりません。
映像ボタンは、BSデジタルチューナーをつないでBSのマルチビュー放送を見るときや、BSの降雨時対応放送のときに使います。（☞31ページ）

サウンドフィールド（音場効果）を選ぶ

本機ではテレビ番組やDVDソフトに合わせた、いろいろな音場効果を選ぶことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。

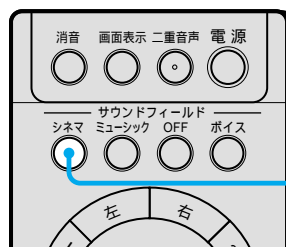
シネマサウンドフィールド
ドルビーデジタルなどのマルチチャンネルのサラウンド効果や、ドルビープロロジックが記録されている映画ソフト（DVDやレーザーディスク）を再生するときに適しています。実際に配置されたスピーカーから出る音で複数の仮想スピーカーを作り出すような効果があります。
シネマサウンドフィールドには、次の4つの音場効果があります。
　シネマスタジオEX、
　バーチャルエンハンスド、モノムービー、
　ステレオムービー

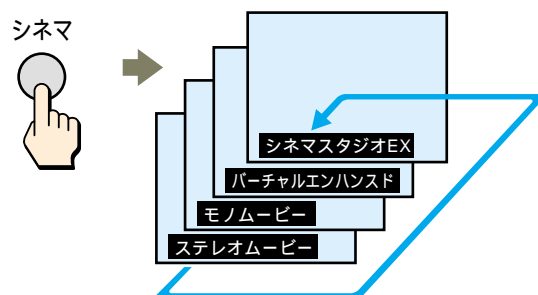
ミュージックサウンドフィールド（☞9ページ）
CDや音楽番組などのステレオ放送をご覧になるときに適しています。もとの音声信号に残響を加えて、あたかもコンサートホールやアリーナなどにいるような臨場感が味わえます。
シネマサウンドフィールドには、次の5つの音場効果があります。
　ホール、オペラハウス、ジャズクラブ、
　ライブハウス、アリーナ

OFF **（☞9ページ）**
本機に入力された音声信号形式を判別し最適な音声に変換します。残響音などの音場効果を新たに加えずに記録されたままの音になります。

ボイス（☞10ページ）
重低音を減らし、ドラマやニュース番組などで人の声がより明瞭に聞こえるようになります。

お買い上げ時はOFFに設定されています。

シネマサウンドフィールドを選ぶ

シネマボタンを押して選ぶ。

シネマボタンを押すたびに、次のように切り換わります。

シネマスタジオEX
左/右フロントスピーカーから、5組の仮想リアスピーカーの音声を生成する、バーチャルマルチディメンジョンの3D音響処理を採用しています。
ハリウッドの中でも最先端クラスの音響設備を備えたソニー・ピクチャーズエンターテインメントのミキシングスタジオの音響特性を再現します。

バーチャルエンハンスド
3D立体音像処理により、左/右フロントスピーカーの音から、1組の仮想リアスピーカーを再現します。
音楽番組などをこの3D立体音像処理で楽しむこともできます。

モノムービー
モノラル音声の映画を、映画館で見るときの雰囲気に再現します。

ステレオムービー
ステレオ音声の映画を、映画館で見るときの音響特性に再現します。

次のページにつづく

サウンドフィールド（音場効果）を選ぶ（つづき）

ちょっと一言

「シネマスタジオEX」や「バーチャルエンハンスド」の3D音響効果を十分に楽しんでいただくために、左右のスピーカーに対して真ん中になる位置で視聴していただくことをおすすめします。

ヘッドホンをつないでいるときは

- シネマサウンドフィールドの中の「シネマスタジオEX」を選んでいるときに、ヘッドホンをつなぐと「ヘッドホンシアター」に切り換わります。2CHに変換された音声がヘッドホンから聞こえ、「ヘッドホンシアター」と表示されます。
  ヘッドホンで映画館にいるような雰囲気を再現します。ドルビーデジタルやDTSなどの音声に効果的です。
- ヘッドホンをつないでいるときに、シネマボタンを押すと、シネマサウンドフィールドは次のように切り換わります。

ヘッドホンシアター → バーチャルエンハンスド → モノムービー → ステレオムービー（→ 最初に戻る）

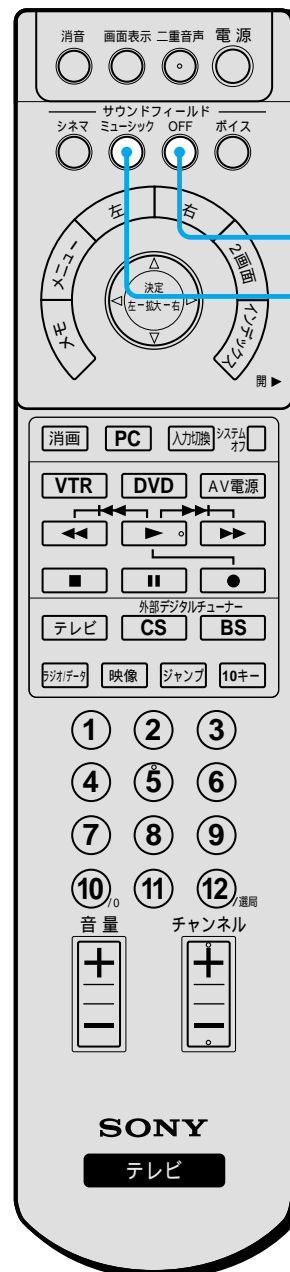
ご注意

- シネマサウンドフィールドとミュージックサウンドフィールドを同時に選ぶことはできません。
- PC入力のときはOFF（☞9ページ）に固定されますので、サウンドフィールドを選ぶことはできません。
- 「シネマスタジオEX」は放送されている音声信号の状態により、音場効果が低くなることがあります。このようなときは「バーチャルエンハンスド」を選ぶと音場効果を楽しめます。

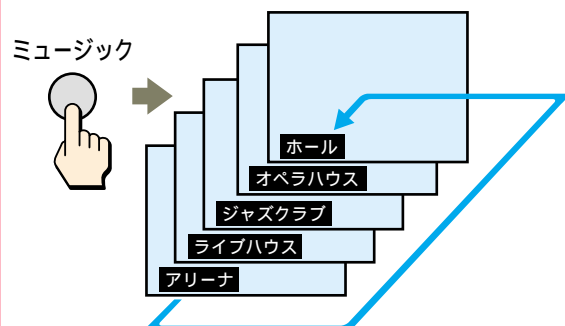
ちょっと一言

チャンネルや入力を切り換えると、サウンドフィールドは解除され、標準設定の「OFF」または「ボイス」になります。（☞10ページ）

ご注意

赤外線コードレスヘッドホンなどの赤外線通信機器を本機の近くで使用すると通信障害が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。

ミュージックサウンドフィールドを選ぶ

ミュージックボタンを押して選ぶ。

ミュージックボタンを押すたびに、次のように切り換わります。

ホール
コンサートホールの音響を再現します。アコースティックサウンドに適しています。

オペラハウス
オペラハウスの音響を再現します。ミュージカルやオペラに適しています。

ジャズクラブ
ジャズクラブの音響を再現します。

ライブハウス
300席くらいのライブハウスの音響を再現します。
ロックやポップミュージックに適しています。

アリーナ
1000席くらいのコンサートホールの音響を再現します。

ご注意
- シネマサウンドフィールドとミュージックサウンドフィールドを同時に選ぶことはできません。
- PC入力のときはOFFに固定されますので、サウンドフィールドを選ぶことはできません。

ちょっと一言
チャンネルや入力を切り換えると、サウンドフィールドは解除され、標準設定の「OFF」または「ボイス」になります。
(☞10ページ)

音場効果を加えない音声を楽しむ

OFFボタンを押す。

「サウンドフィールドOFF」と表示されます。
音声信号の種類によって次のように処理します。

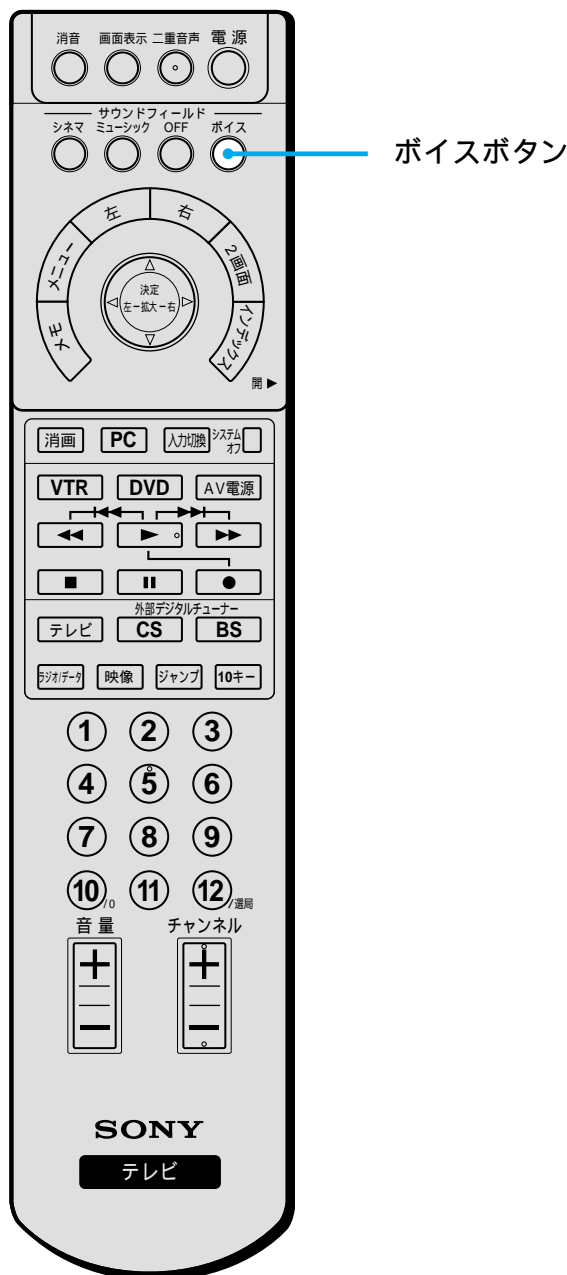
デジタル音声信号(光デジタル音声1、2入力端子からの音声信号)

音声信号の種類	出力
5.1ch(チャンネル)(ドルビーデジタルやDTSなど)	2.1chサラウンドに変換して出力
2chドルビープロロジック	2.1chサラウンドに変換して出力
2ch PCM ステレオ	2.1chに変換して出力

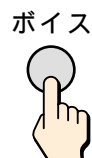
アナログ音声信号(テレビまたはビデオ1~4入力、コンポーネント1~3入力端子からの音声信号)

音声信号の種類	出力
2chステレオ	2.1chに変換して出力

次のページにつづく

サウンドフィールド（音場効果）を選ぶ（つづき）

ドラマやニュースの人の声をより明瞭にする

サウンドフィールドの効果が消え、一部の低音域を除いた音声が聞こえます。
ニュースやドラマの登場人物の声が画面の方角からのみ聞こえるので、より明瞭になります。

ボイスボタンを押す。

「ボイス」と表示されます。

ご注意
ヘッドホンをつないでいるときはボイスにはなりません。

サウンドフィールドの標準設定を変更するには

リモコンのシネマボタンやミュージックボタン、OFFボタン、ボイスボタンを押して切り換えたときは、入力やチャンネルを切り換えると、メニュー画面で設定した標準状態（「OFF」または「ボイス」）に戻ります。
メニュー画面で、OFFやボイスを選ぶことで、常にOFFやボイスになるよう、標準状態として設定できます。
入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます。

1. **メニューボタンを押す。**
2. **△/▽で「（各種切換）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
3. **△/▽で「サウンドフィールド標準設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
4. **△/▽で「OFF」または「ボイス」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
5. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

デジタル音声について

DVDソフトやBS/CSのデジタル音声には1つの音声に数種類の音声信号が含まれていることがあります。
数種類の音声信号を同時に聞くことによって効果が出るステレオやサラウンド音声などと、切り換えて聞く多国語音声などがあります。
2ch（チャンネル）や5.1chというのはそれらの音声信号の数を表しています。

5.1ch
5種類の音声信号（左/右フロントスピーカー、フロントセンタースピーカー、左/右リアスピーカーからの音声）とサブウーファーの音声信号からなるサラウンド音声です。

2ch
通常のステレオや2カ国語（左/右フロントスピーカーからの音声）音声です。

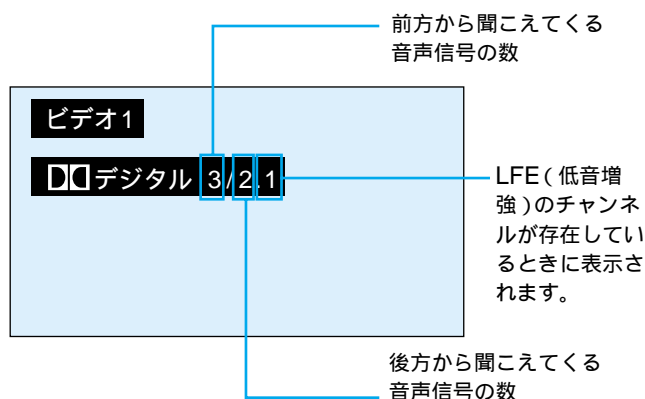
本機では5.1chや2chの音声を2.1chの音声に変換して付属のスピーカーとサブウーファーから出力します。

5.1chなどのサラウンド音声を効果的にお楽しみいただくには

ドルビーデジタルなどで記録されているDVDソフトなどの音声を、効果的なサラウンド音声で楽しむためには、光デジタル音声入力端子から音声を入力することをおすすめします。
その場合には、光デジタル音声入力端子に5.1ch光デジタル音声出力付きのDVDプレーヤーやMDデッキなどををつなぎ（☞80〜81、84〜85ページ）、入力設定で「光デジタル音声」を「入力1」または「入力2」に設定してください（☞26〜27ページ）。

ちょっと一言
本機はBSデジタル出力のAAC5.1chデコードには対応していません。BSデジタルチューナーをご利用の際は、光デジタル音声出力をPCM（2ch）に設定してください。

デジタル音声の画面表示

光デジタル音声1、2入力端子から入力される音声を聞いているときは、画面表示ボタンを押すと下の表のように音声信号の種類が表示されます。
「DDデジタル[3/2.1]」や「DTS[3/2.1]」などの数字は音声信号の数を示しています。

音声信号の種類	画面表示
ドルビーデジタル	DD デジタル[1/0]
	DD デジタル[2/0]*1
	DD デジタル[3/0]
	DD デジタル[2/1]
	DD デジタル[3/1]
	DD デジタル[2/2]
	DD デジタル[3/2.1]
DTS	DTS[1/0]
	DTS[2/0]
	DTS[3/0]
	DTS[2/1]
	DTS[3/1]
	DTS[2/2]
	DTS[3/2.1]
PCM	PCM

*1 ドルビープロロジック音声信号のときもこの表示になります。

本機はドルビーデジタル*2（AC-3）デコーダー、ドルビープロロジックデコーダー、およびDTS*3デコーダーを搭載しています。

*2 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、AC-3、PRO LOGIC、およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

*3 Digital theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital theater Systems, Incの商標です。

ワイド画面を楽しむ

自動でワイド画面にする（オートワイド）

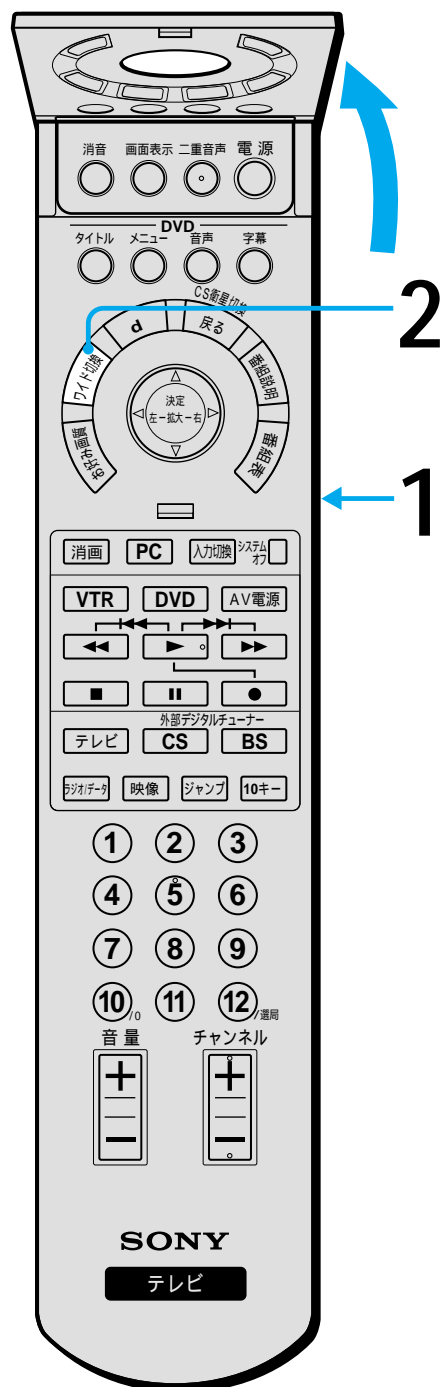
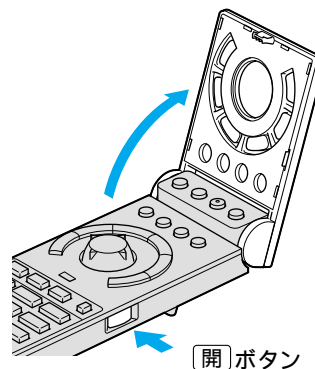
通常のテレビ放送も、ワイドクリアビジョン放送や映画など横長サイズの映像も、下のイラストのように、本機が最適な画面モードを選び、横縦比16:9のワイド画面いっぱいに自動的に拡大します。これをオートワイド機能と言います。下の例では、お買い上げ時の設定*を示しています。

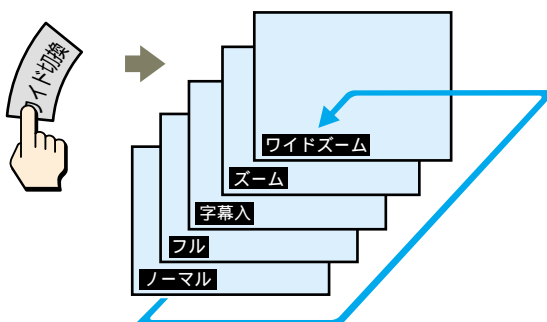
* お買い上げ時は、オートワイドの「2」で、「4:3映像」が「ワイドズーム」に設定されています（☞52ページ）。

ちょっと一言
ディスプレイの焼き付きを避けるために、ワイドズームまたはフルで使用することをお奨めします。

オリジナルの映像（映像の種類）	画面モード	オートワイドの映像	
• **通常のテレビやBS放送（画面横縦比4:3）**			違和感少なく画面いっぱいに拡大します。
• **ワイドクリアビジョン放送（横縦比16:9）** • **ビスタビジョンなど映像中に字幕が入った横長の映画（横縦比1.85:1）** • **横縦比情報の入ったDVDソフトの映像（ID-1方式）**			画面の左右に合わせていっぱいに拡大します。（映像の種類によって、上下に黒い帯が残ることがあります。）
• **シネマビジョンなど映像の外に字幕のある横長の映画（横縦比2.35:1）**			画面の左右に合わせていっぱいに拡大しながら、字幕部分をより圧縮して画面に入れるようにします。
• **横縦比情報の入ったビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS1方式）**			天地はそのままで、左右を画面いっぱいに引き伸ばします。
• **オートワイドの「2」で、「4:3映像」を「ノーマル」（お買い上げ時は「ワイドズーム」）に設定したとき（☞54～55ページ）**			拡大せずに、横縦比4:3のままの映像になります。

手動でワイド画面に切り換える（ワイド切換）

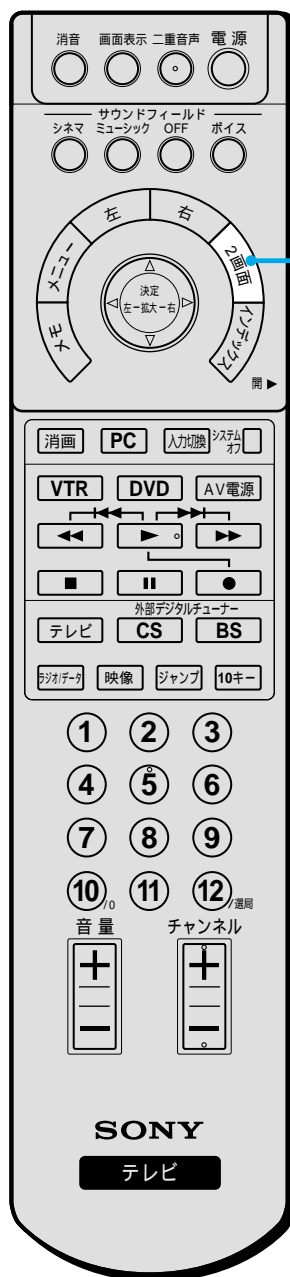
オートワイド機能とは別に好きな画面モードを手動でも選べます。また、電波の受信状態が悪いときや暗い映像のときは、オートワイドが正しく働かないことがあります。このときも、手動で画面モードを切り換えてください。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 ワイド切換ボタンをくり返し押す。

1回押すと、映像のサイズや種類に応じて、本機が最適な画面モードをすばやく選んで表示します*。その後、押すたびに、次のように画面モードが変わります。画面モードの詳しい説明については、☞12ページをご覧ください。

* オートワイド「2」で、「4:3映像」を「ノーマル」に設定しているとき（☞54ページ）は、ワイド画面にならないで、画面横縦比4:3の映像のまま（「ノーマル」のまま）になります。

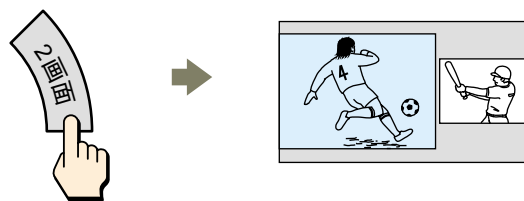
ちょっと一言

手動でワイド画面を楽しむときは、あらかじめ、オートワイドを切っておいてください（☞54ページ）。

2画面で見る（2画面）

左右の画面サイズを変えて、2つのチャンネルを同時に見ることができます。また、通常のテレビと、テレビにつないだビデオなどの画像も同時に見ることができます。

2画面ボタン

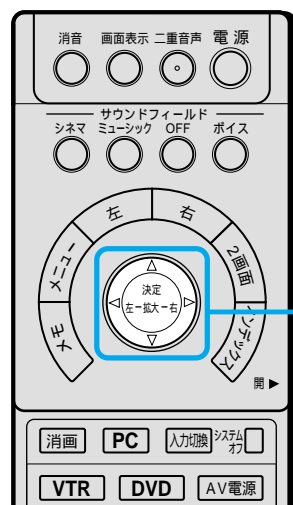
2画面ボタンを押す。

もう1度押すと、1画面に戻ります。

ご注意

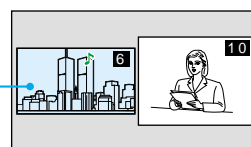
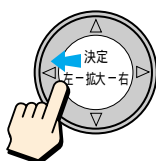
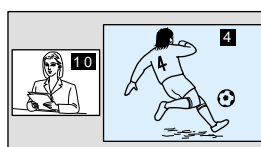
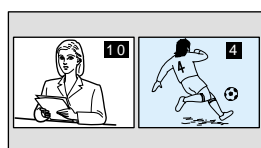
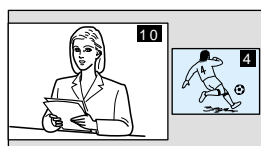
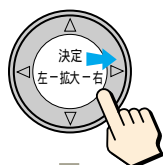
- 次の画像は、2画面で同時に見ることができません。
  – 同じテレビ（VHF/UHF）チャンネル
  – 同じ入力の画像（ビデオ1とビデオ1など）
  – コンポーネント入力同士の画像の組み合わせ
  – コンポーネント入力とAVマルチ入力の画像の組み合わせ
- コンポーネント入力端子やD映像入力端子、AVマルチ入力端子からの映像は左画面にのみ表示されます。
  これらの入力端子の映像を映すときは、左ボタンを押して、左画面を操作画面にしてから、入力切換ボタンを繰り返し押して、表示してください。
- PC入力を選んでいるときは2画面にはなりません。

画面サイズを変える（左拡大/右拡大）

左拡大（◁）/
右拡大（▷）

大きくする側に◁/▷を押し続け、希望のサイズになったら指を離す。

ご注意

- 操作画面で放送が終了すると、自動的に消音します。1画面に戻してから、終了していないチャンネルを選ぶと音が出ます。また、省電力のため、操作画面で放送が終了して（または放送のないチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイモードになります。
- 2画面のまま電源を切り、再び電源を入れると1画面に戻ります。
- 2画面では、オートワイド機能は働きません。ただし識別制御信号のある画像は判別してワイド画像のまま表示されます。

識別制御信号のある画像

- 2画面は、左右それぞれ別々の回路で信号処理しています。そのため、映像や音質など左右画面の間に多少の差があります。

ちょっと一言

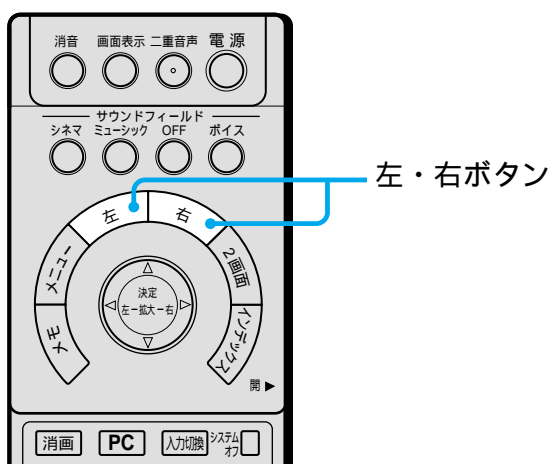
左右の画面サイズを変えたときは、その大きさを本体が記憶するため、再び2画面にしたときに、その大きさで表示します。

次のページにつづく

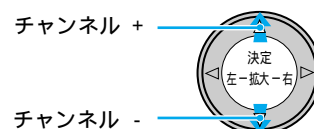
2画面で見る（つづき）

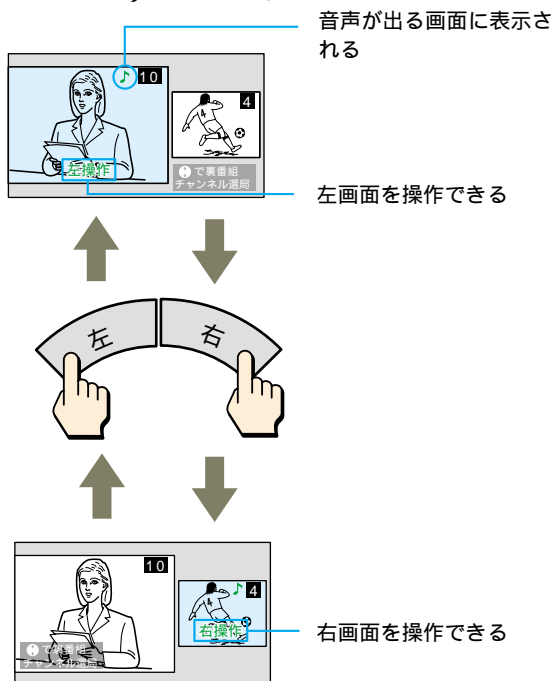
操作する画面を選ぶ（左操作/右操作）

チャンネルや入力を選んだり、音量を調節できる画面（操作画面）を選びます。
2画面を表示した直後は、左画面が操作画面になっています。また、操作画面の音声が出ます。

操作したい側のボタン（左・右ボタン）を押す。

2画面でチャンネルを選ぶには

どちらの画面もそれぞれ別々にチャンネルを選べます。

チャンネルを切り換えたい画面	押すボタン
操作画面 （「左操作」または「右操作」と表示される画面）	
操作画面でない画面	チャンネル ＋ 決定 左−拡大−右 チャンネル －

ちょっと一言
メニュー画面でも操作できます。メニュー画面の「（2画面）」から、「操作入替」を選び、「左操作」か「右操作」を選んでください。

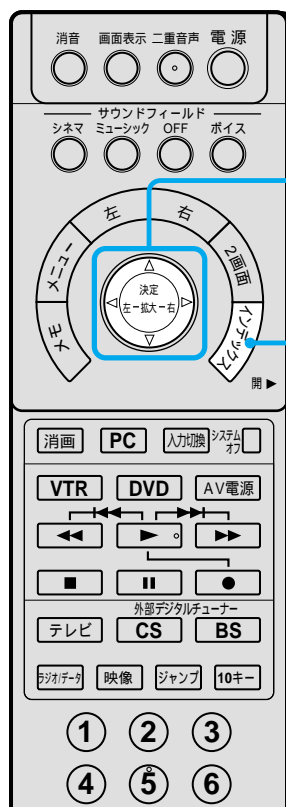
ご注意
本機につないだ機器の映像をご覧になっているときは、メニュー画面の「入力設定」の「光デジタル音声」で「入力1」または「入力2」を選んでいると、操作画面の音声は光デジタル音声1または2入力端子からの音声になります。（☞26～27ページ）

チャンネルを一覧表示する（インデックス）

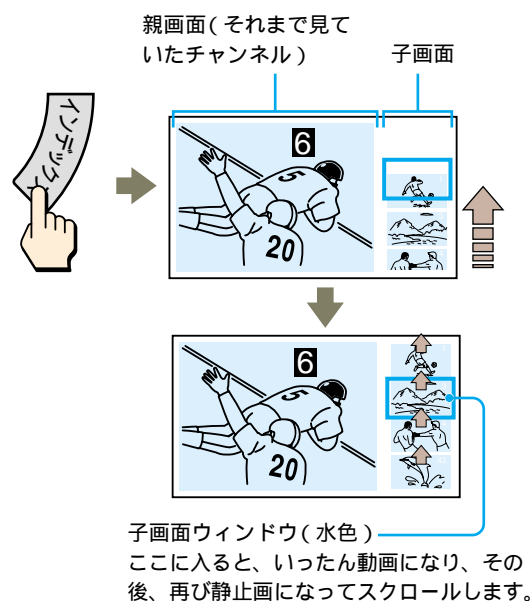
見ているチャンネルを高画質で大きく表示したまま、あらかじめ受信設定したすべてのチャンネルが下から上へ（または上から下へ）順々にゆっくり動いて表示されます（スクロール表示）。スクロールしている小さい画面から、見たいチャンネルを選べます。番組内容のチェックやチャンネル選びが、よりスムーズに楽しくできます。

ご注意

- インデックスボタンを押す前に、チャンネルを設定しておいてください（☞63ページ）。受信設定されたチャンネルのみがインデックス画面に出るためです。
- PC入力を選んでいるときは、インデックスはできません。

ちょっと一言

電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプが赤く点灯しているときにインデックスボタンを押すと、電源が入り、インデックス画面が表示されます。見たい番組が決まっていないときに便利です。

1 インデックスボタンを押す。

見ていたチャンネルが左側に表示され、右側に受信設定されているチャンネルが自動的に下から上にスクロールして表示されます。

スクロールの向きを上から下に変えるには

∇を押します。

すばやくスクロールするには

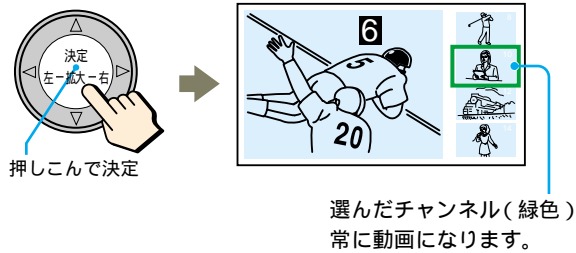
△/∇を押したままにします。

次のページにつづく

チャンネルを一覧表示する（つづき）

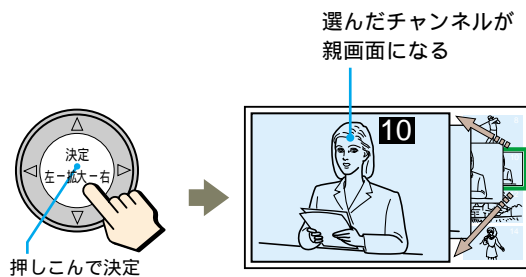
2 **見たいチャンネルが子画面ウィンドウに入ったら、真ん中を押し込んで決定する。**

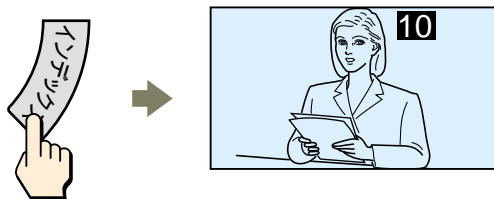
子画面ウィンドウの枠が水色から緑色に変わり、スクロールが止まります。

選んだチャンネル（緑色）
常に動画になります。

再びスクロールしたいときは、△/▽を押します。

3 **選んだ子画面を親画面で見たいときは、もう1度真ん中を押し込んで決定する。**

選んだチャンネルがズームアップして、親画面になります。
音声も切り換わります。

選んだチャンネルが親画面になる

4 **インデックスボタンを押す。**

親画面がテレビ全体に表示されます。

途中でインデックス画面を消すときは

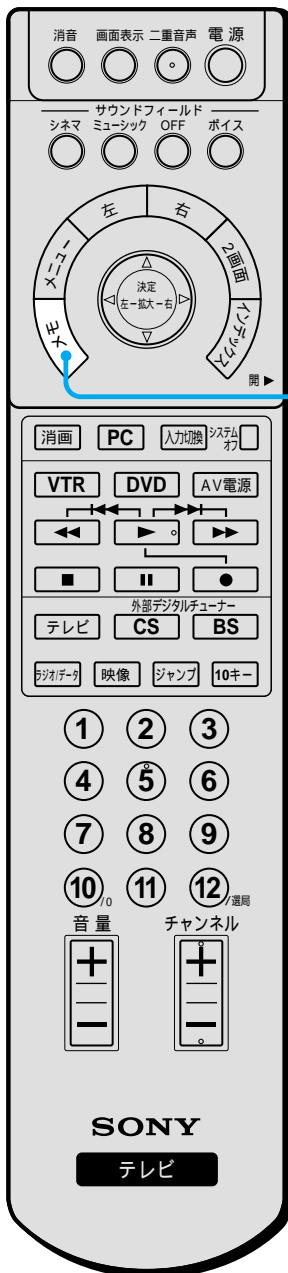
インデックスボタンを押すと、そのとき親画面で見ていたチャンネルの1画面になります。

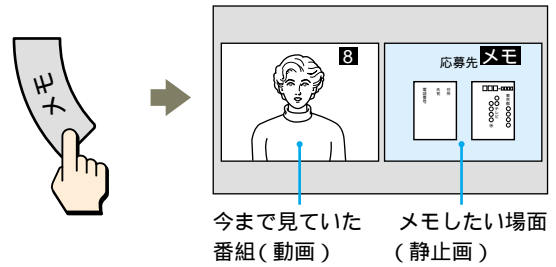
ご注意

- 子画面ウィンドウの枠の色（水色・緑色）は、「色あい」や「ピクチャー」を調節すると、色が変わって見えます。
- インデックス画面表示中に、チャンネルを選んだり、入力を切り換えたりすると、親画面がそのチャンネルまたは入力になります。
- 子画面ウィンドウが緑色のときは、子画面ウィンドウに入っているチャンネル以外は、更新されません。
- 2画面のときにインデックスボタンを押すと、操作画面が親画面になります。また、途中でインデックスボタンを押すと、2画面に再び戻ります。
- 親画面で放送が終了すると、省電力のため、約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイモードになります。

メモするために画面を静止させる

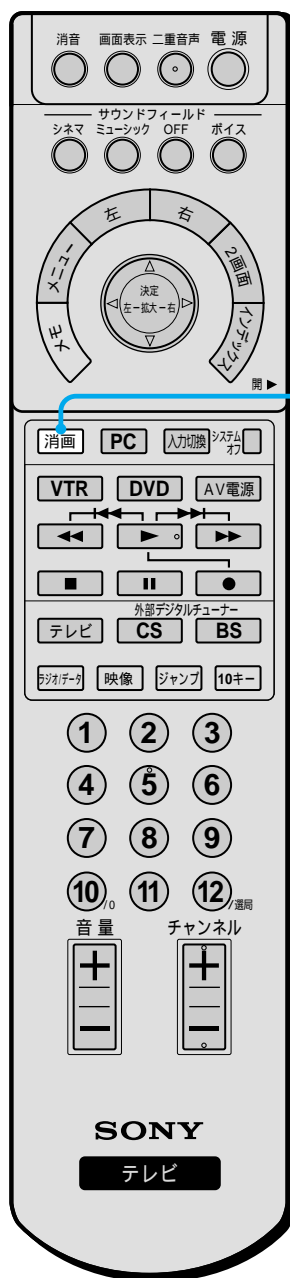
（メモ）

視聴者プレゼントの応募先や料理の材料など、メモしたい場面を静止画で確認できます。同時に今まで見ていた番組もお楽しみいただけます。

メモしたい場面で、メモボタンを押す。

2画面になり、メモしたい場面が右に出ます。もう1度押すと、1画面に戻ります。

ご注意

- 次の場合は、メモはできません。
  - －2画面を見ているとき
  - －インデックス画面を見ているとき
  - －PC入力を選んでいるとき
- メモ中に、本機のテレビのチャンネルや入力を切り換えると、1画面に戻ります。
- 省電力のため、左の通常画面で放送が終了して（または放送のないチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイモードになります。
- 16:9の横長の画面を見ているときにメモボタンを押すと、縦長に圧縮されたメモ画面になります。

画像を消して音だけを楽しむ
（消画モード）

BSデジタル放送やデジタルCS放送のラジオ番組、DVDやCDなどの音楽を聞いているときに、画面を消して音だけを楽しむことができます。

消画ボタンを押す。

ディスプレイユニットの消画ランプが青く点灯し、「消画モードに入ります」という画面表示が出た後、約3秒後に画面が消えます。

消画モードを解除するには

消画ボタンを押す。
約5秒かかります。

ご注意

- 本機の省電消画モードはディスプレイユニットの電源のみを切ります。
- 次の場合は、消画にはなりません。
  －消音ボタンを押して、音声を消しているとき
  －PC入力を選んでいるとき

他機を操作する

ここでは、ビデオやDVDプレーヤー、BSデジタルチューナーなど本機につないだ機器を本機のリモコンで操作するための設置のしかたや操作方法、パソコンの画面を調整したりする方法を説明しています。

他機を操作するための設置のしかた

本機のリモコンで本機につないだ機器を操作することができます。
また、入力設定をしているとVTR、DVD、BS、CSボタンを押すだけで入力が切り換わり、本機のリモコンでその機器を操作できるようになります。
さらに、ソニー製のBSデジタルチューナーやデジタルCSチューナーでは、BS、CSボタンを押したときにつないだ機器の電源を入れる設定ができます。（☞25ページ）
他機の設置場所により、リモコンを向ける機器が異なります。

本機のリモコン信号が届かない場所に、操作したいソニー製の機器を設置しているとき（☞「図1」22ページ）
付属のAVマウスまたはコントロールSコードを使用します。
本機のリモコンをディスプレイユニットのリモコン受光部に向けて、機器を操作します。

本機の近くに、操作したい他機を設置しているとき（☞「図2」22ページ）
本機のリモコン信号が届く範囲内に他機を設置しているときは、直接他機のリモコン受光部に本機のリモコンを向けて他機を操作します。

必ずリモコンのメーカー設定（☞24ページ）と本機の入力設定（☞26ページ）をしてから、他機を操作してください。

ご注意
- リモコンの電池を入れ換えるとメーカー設定はお買い上げ時の状態に戻ります。「メーカー設定メモ」（☞24ページ）をご覧になって設定し直してください。
- ディスプレイユニットの近くにビデオ機器を設置すると、ディスプレイユニットとの相互干渉により、ノイズが発生することがあります。ビデオ機器は最低30cm以上離してしてください。

次のページにつづく

他機を操作するための設置のしかた（つづき）

図1：本機のリモコン信号が届かない場所に、操作したいソニー製の機器を設置しているとき

本機のリモコンをディスプレイユニットのリモコン受光部に向けて、
機器を操作します。

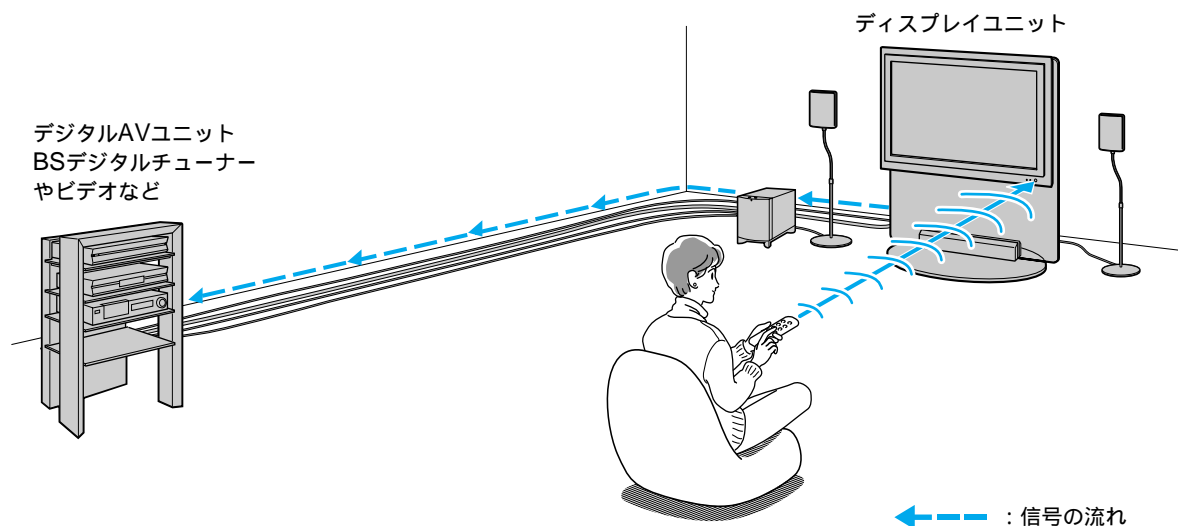
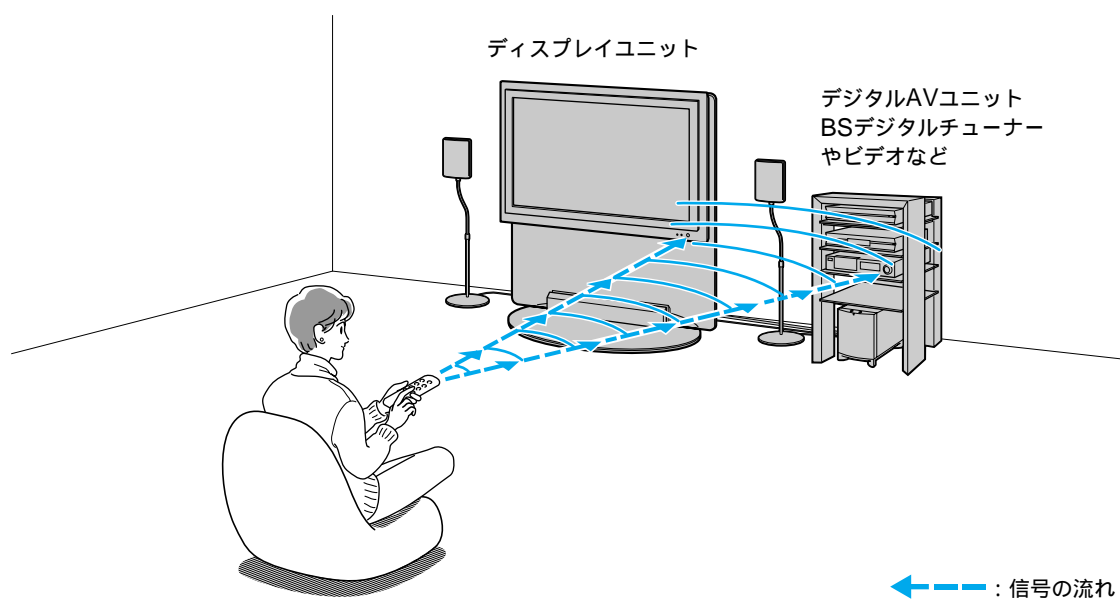



図2：本機の近くに、操作したい他機を設置しているとき

直接他機のリモコン受光部に本機のリモコンを向けて、
他機を操作します。

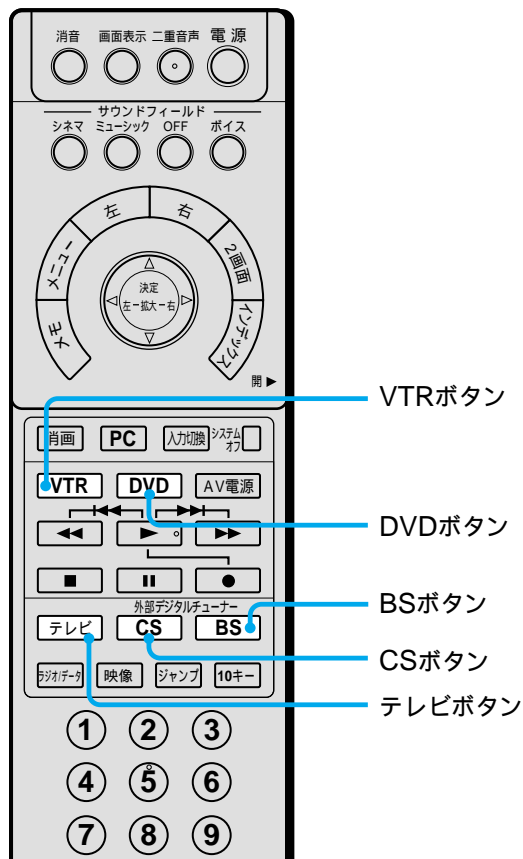
ディスプレイユニット

デジタルAVユニット
BSデジタルチューナー
やビデオなど

：信号の流れ

ご注意

- 本機のリモコンを他機に向けて操作したときは、「入力設定」（☞26ページ）をしていても、本機の入力は切り換わりません。リモコンをディスプレイユニットに向けて入力切換の操作をしてください。
- 他社製のAV機器をつなぐ場合は、この設置方法をおすすめします。

本機のリモコンで他機を操作するための設定をする

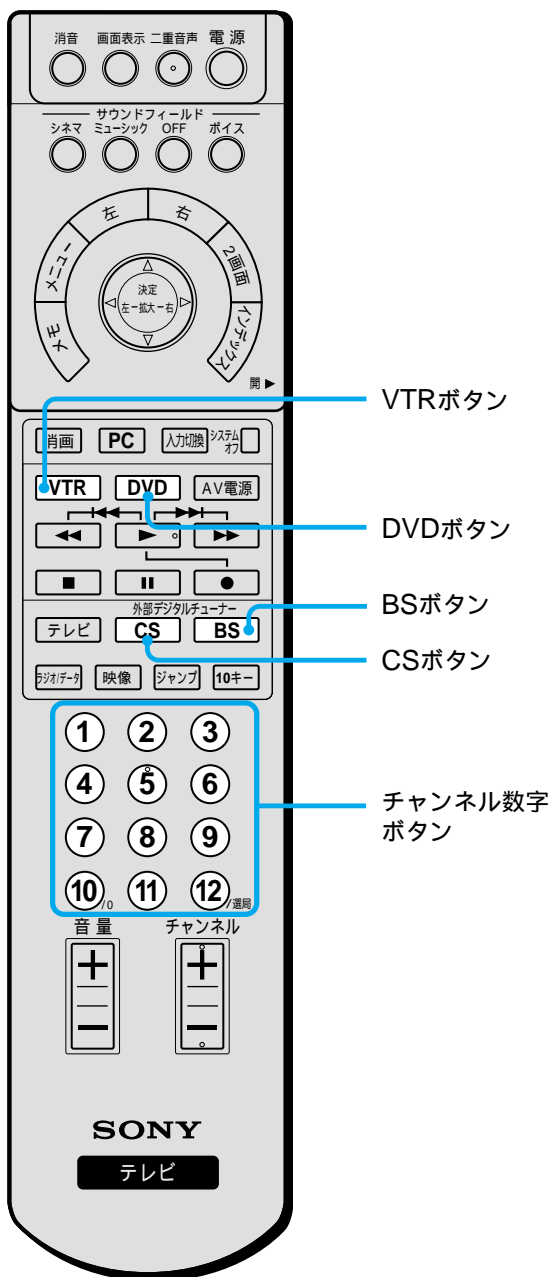
リモコンモードを切り換えて、デジタルAVユニットにつないだ機器を本機のリモコンで操作できます。右記のボタンを押すとリモコンモードが切り換わり、表のように操作できる機器が変わります。操作するたびに現在選ばれているリモコンモードのボタンが点灯します。
リモコンモードを切り換えると、使用できるボタンの機能が変わります。(☞29～32ページ)
あらかじめリモコンのメーカー設定(☞24ページ)と本機の入力設定(☞26ページ)をしてから、他機を操作してください。

リモコンモード	押すボタン	操作できる機器
テレビモード	テレビ	本機
ビデオモード	VTR	ビデオ、ハードディスクビデオレコーダーなど
DVDモード	DVD	DVDプレーヤー
BSモード	BS	BSデジタルチューナー
CSモード	CS	デジタルCSチューナー

ご注意
PC入力のパソコンの画像を見ているときはPCボタンを押して、テレビ画面に戻してから上記のボタンを押してください。

次のページにつづく

本機のリモコンで他機を操作するための設定をする（つづき）

手順1：メーカー設定をする

つないだ機器のメーカーの登録番号を設定します。これで「メーカー登録番号一覧」のメーカーの機器が本機のリモコンで操作できます。本機のリモコンでつないだ機器を操作するときに必要です。

例）ここでは「VTR」を「ソニー1」に設定します。

VTRボタンを押しながら、チャンネル数字ボタンの「1」を2回を押す。

正しく設定されたときは
設定したVTRボタンが数秒間点灯します。

正しく設定されなかったときは
設定したVTRボタンが数秒間点滅します。もう一度設定し直してください。また、同じメーカーで複数のメーカー登録番号がある場合は他の登録番号で設定してみてください。

ご注意
- 接続する機器によっては、使用できない機能があります。また、メーカー登録番号が2つ以上あるときは、登録番号によって使用できる機能が異なることがありますので、操作しやすい登録番号を選んでください。
- ソニー製のBSデジタルチューナーとデジタルCSチューナーのメーカー登録番号によっては、BS、CSボタンを押すと同時にBSデジタルチューナーやデジタルCSチューナーの電源も入るようにできるものがあります。

メーカー設定メモ

設定したメーカー名/メーカー登録番号は画面には表示されませんので、下の「メーカー設定メモ」に記入しておいてください。

ボタン名	メーカー	メーカー登録番号
VTR		
DVD		
CS		
BS		

メーカー登録番号一覧
(●:お買い上げ時の設定)

ビデオ

メーカー	メーカー登録番号
ソニー1	1+1
ソニー2	1+2
● ソニー3	1+3
ソニー4	1+4
ソニー5	1+5
ソニー6	1+6
松下1	1+7
松下2	1+8
松下3	1+9
松下4	1+10
松下5	1+11
東芝1	2+1
東芝2	2+2
日立1	2+3
日立2	2+4
日立3	2+5

メーカー	メーカー登録番号
三菱1	2+6
三菱2	2+7
三菱3	2+8
JVC1	2+9
JVC2	2+10
JVC3	2+11
三洋1	3+1
三洋2	3+2
三洋3	3+3
三洋4	3+4
シャープ1	3+5
シャープ2	3+6
アイワ1	3+7
アイワ2	3+8

ハードディスクビデオレコーダー

メーカー	メーカー登録番号
ソニー	4+1

DVDプレーヤー

メーカー	メーカー登録番号
● ソニー	5+1
松下1	5+2
松下2	5+3
東芝	5+4
JVC	5+5

メーカー	メーカー登録番号
パイオニア1	5+6
パイオニア2	5+7
パイオニア3	5+8
デンオン	5+9

BSデジタルチューナー

メーカー	メーカー登録番号
● ソニー	7+1
ソニー（電源）*	7+2
松下	7+3

* BSボタンを押したときに、本機の入力切換と同時にBSデジタルチューナーの電源も入る設定です。

デジタルCSチューナー

メーカー	メーカー登録番号
● ソニー	8+1
ソニー（電源）*	8+2

* CSボタンを押したときに、本機の入力切換と同時にデジタルCSチューナーの電源も入る設定です。

ご注意

リモコンモードが切り換えられる一部のソニー製デジタルCSチューナーでは、本機のリモコンコードを設定しても、操作できないことがあります。この場合は、デジタルCSチューナーのリモコンモードの設定を「CS1」に切り換えてください。詳しくは、デジタルCSチューナーの取扱説明書をご覧ください。

メーカー設定を変更するには

「メーカー設定をする」（☞24ページ）と同じ手順で新たに設定し直してください。

ご注意

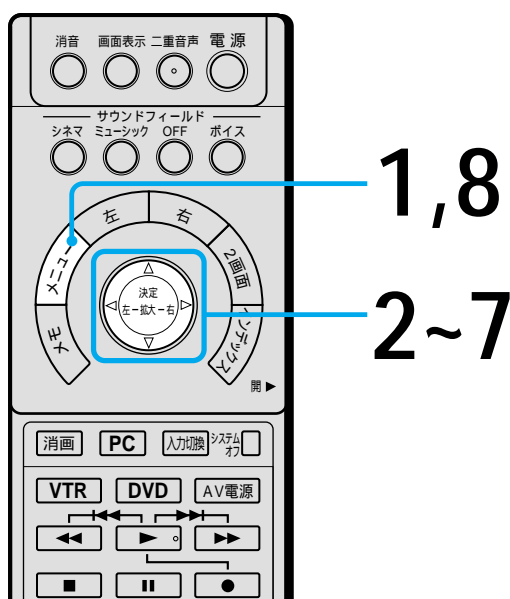
リモコンの電池を入れ換えると、メーカー設定はお買い上げ時の状態（●）に戻ります。「メーカー設定メモ」（☞24ページ）をご覧になって設定し直してください。

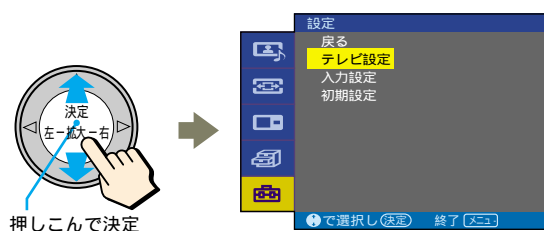
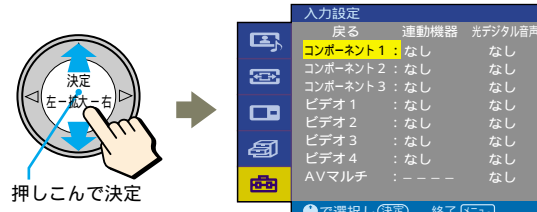
ちょっと一言

- VTRボタン（またはDVDボタン）にはビデオ/ハードディスクビデオレコーダー/DVDプレーヤーのメーカー登録番号を設定することができます。
  例えば、2台目のビデオをDVDボタンに設定したり、2台目のDVDプレーヤーをVTRボタンに設定したりすることができます。
- 同じメーカーの同じカテゴリー（ビデオやDVDなど）の機器をお持ちの場合は、それぞれの機器でリモコンモードを切り換えてください。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

本機のリモコンで他機を操作するための設定をする（つづき）

手順2：入力設定をする

他機を接続した入力端子と他機の種類を設定します。
本機のリモコンで接続した機器を操作するときに必要です。

1 メニューボタンを押す。

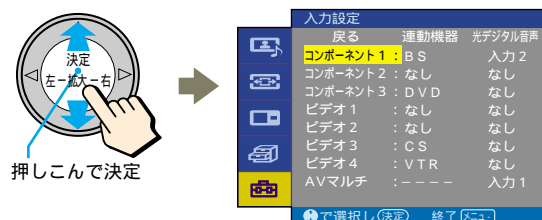
2 △/▽で「(設定)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「入力設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 △/▽で入力端子名（「コンポーネント1」や「ビデオ2」など）を選び、真ん中を押し込んで決定する。

5 △/▽で接続した機器の種類を選び、真ん中を押し込んで決定する。

連動機器（種類）	つないだ機器
BS	BSデジタルチューナー
CS	デジタルCSチューナー
BS/CS	BSデジタル/デジタルCS一体型チューナー
DVD	DVDプレーヤー
VTR	ビデオ、ハイビジョンベースバンドビデオ
なし	その他の機器をつないでいる場合、または何もつないでいない場合

ちょっと一言

ビデオを2台つなぐときは、そのうちの1つで「VTR」を選び、他は「なし」を選んでください。3台以上のビデオには対応していません。
ただし、ボタン名と違う機器（例えばDVDボタンに2台目のビデオを設定している場合）は、そのボタン名を選んでください。

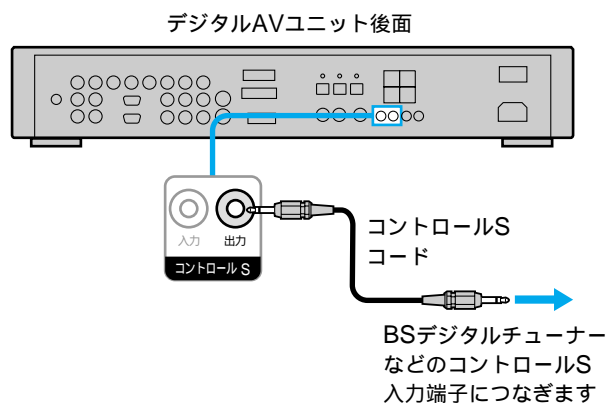
6 △/▽で光デジタル音声入力端子に接続したかどうかを選び、真ん中を押し込んで決定する。

光デジタル音声	説明
入力1	光デジタル音声1入力端子に接続した場合に選びます
入力2	光デジタル音声2入力端子に接続した場合に選びます。
なし	光デジタル音声入力端子には接続していない場合に選びます。

7 手順4~6を繰り返して、他の入力端子についてもすべて設定する。

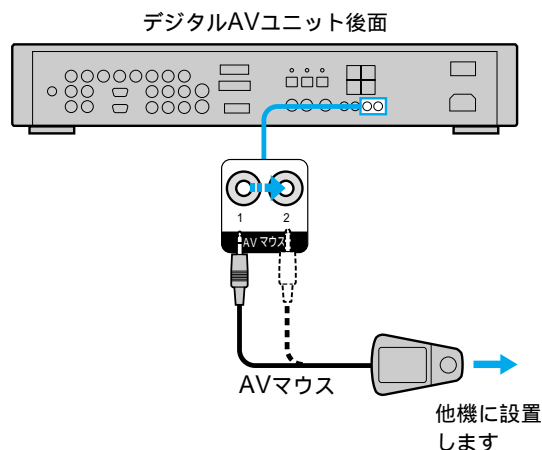
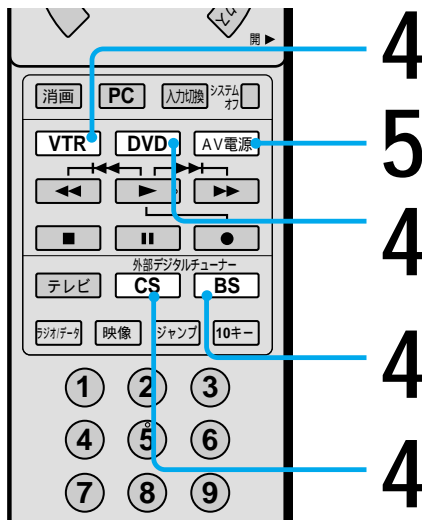
8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

コントロールSコードやAVマウスをつなぐ

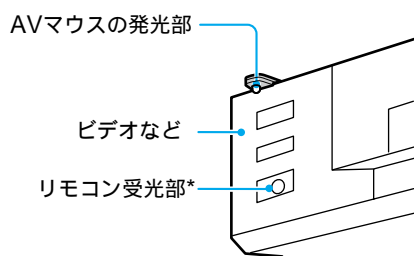
コントロールSコードやAVマウスをつなげるのは、ソニー製の機器だけです。

コントロールSコードをつなぐ

AVマウスをつなぐ

コントロールS入力端子のあるソニー製機器の場合は、コントロールSコードを使って本機とつなぐことをおすすめします。

1 付属のAVマウスをデジタルAVユニットにつなぐ。

本機のリモコンで他機を操作するための設定をする（つづき）

2 AV **マウスの取り付け予定位置を決める。**

他機器の取扱説明書で他機器のリモコン受光部位置*を確認し、リモコン受光部の真上にAVマウスを置きます。

> **ご注意**
> AVマウス裏面のシールは、まだはがさないでください。

＊ソニー製の機器のリモコン受光部には
Ⓡマークが付いています。

ちょっと一言

AVマウスが他機に届かない場合は、別売りの接続コードRK-G131（3 m）で延長してください。

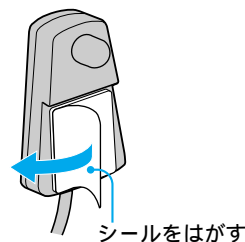
3 **他機器の電源を切っておく。**

4 VTR**または**DVD**、**BS**、**CS**ボタンを押して、接続する機器のリモコンモードに切り換える。**

5 AV**電源ボタンを押す。**

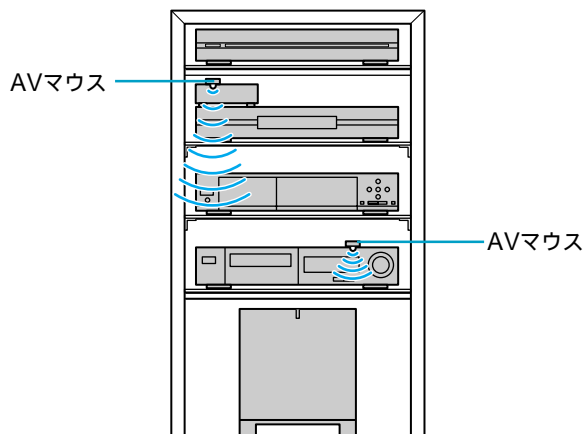
接続した機器の電源が入るか確認する。

6 **動作テストが終わったら、**AV**マウス裏面のシールをはがす。**

AVマウスのテープの代わりに、市販の両面テープも使えます。

7 **手順**1**で決めた取り付け予定位置に**AV**マウスを固定する。**

操作できることをもう一度確かめてから、使うことをおすすめします。

ちょっと一言

１個のAVマウスで2〜3台の機器を操作できます。機器のリモコン受光部が離れているときなどは、AVマウスをもう１個設置してください。

本機のリモコンで他機を操作する

本機のリモコンで接続した機器を操作できます。あらかじめ「メーカー設定をする」（☞24ページ）と「入力設定をする」（☞26ページ）を必ず行ってください。

ビデオを見る

ご注意
ソニー製ハードディスクビデオレコーダーを操作するときは、必ずリモコンのふたをあけてください。ふたを閉めたままだと、ソニー製ハードディスクビデオレコーダーを操作できません。

ディスプレイユニットに向けてVTRボタンを押す。

「本機のリモコンで他機を操作するための設定をする」で設定したビデオの入力に切り換わります。

他社製の機器を操作する場合は、リモコンをその機器に向けて操作してください。
コントロールSコードやAVマウスをつないだソニー製機器を操作する場合は、本機のディスプレイユニットにリモコンを向けて操作してください。

ビデオを操作できるボタン

1 巻き戻しをする/7ボタンと同時に押すと頭出しをする
2 停止する
3 一時停止する
4 リモコンに登録したソニー製の機器の電源を切る
5 ビデオの電源を入/切する*1
6 早送りをする/7ボタンと同時に押すと頭出しをする
7 再生する
8 録画する
9 チャンネルを切り換える

*1 リモコンモードがVTRのときにのみ使えます。
リモコンモードがテレビのときは、テレビの電源が入/切します。

ソニー製ハードディスクビデオレコーダーが設定されているときにのみ操作できるボタン

A 番組表の項目を選ぶ
B 番組説明を表示する
C 番組表を表示する

VTRボタンの働き
入力設定を済ませている場合は、VTRボタンを押すと次のように動作します。
－本機の入力がVTRに設定した入力に切り換わる
－リモコンモードが切り換わり、リモコンの機能がVTRになる
リモコンモードが変わるだけの機能ではないことにご注意ください。

ご注意
- ビデオによっては、メーカー設定をしても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- リモコンの電池を入れ換えるとメーカー設定はお買い上げ時の状態に戻ります。「メーカー設定メモ」（☞24ページ）をご覧になって設定し直してください。
- コントロールSまたはAVマウスを接続しているときは、リモコンをディスプレイユニットのリモコン受光部に向けて操作してください。
- コントロールSまたはAVマウスを接続していないときは、リモコンをビデオのリモコン受光部に向けて操作してください。その場合は、VTRボタンを押しても本機の入力は切り換わりませんので、もう一度ディスプレイユニットにリモコンを向けてVTRボタンを押してください。

次のページにつづく

本機のリモコンで他機を操作する（つづき）

DVDを見る

ディスプレイユニットに向けてDVDボタンを押す。

「本機のリモコンで他機を操作するための設定をする」で設定したDVDプレーヤーの入力に切り換わります。

他社製の機器を操作する場合は、リモコンをその機器に向けて操作してください。
コントロールSコードやAVマウスをつないだソニー製機器を操作する場合は、本機のディスプレイユニットにリモコンを向けて操作してください。

DVDプレーヤーを操作できるボタン

1 巻き戻しをする/2ボタンと同時に押すと前のチャプターに戻る
2 再生する
3 停止する
4 一時停止する
5 DVDタイトルを選ぶ
6 音声を切り換える
7 字幕を表示する
8 DVDメニューを表示する
9 DVDメニュー操作をする
10 リモコンに登録したソニー製の機器の電源を切る
11 DVDプレーヤーの電源を入/切する*1
12 早送りをする/2ボタンと同時に押すと次のチャプターにすすむ

*1 リモコンモードがDVDのときにのみ使えます。
リモコンモードがテレビのときは、テレビの電源が入/切します。

DVDボタンの働き

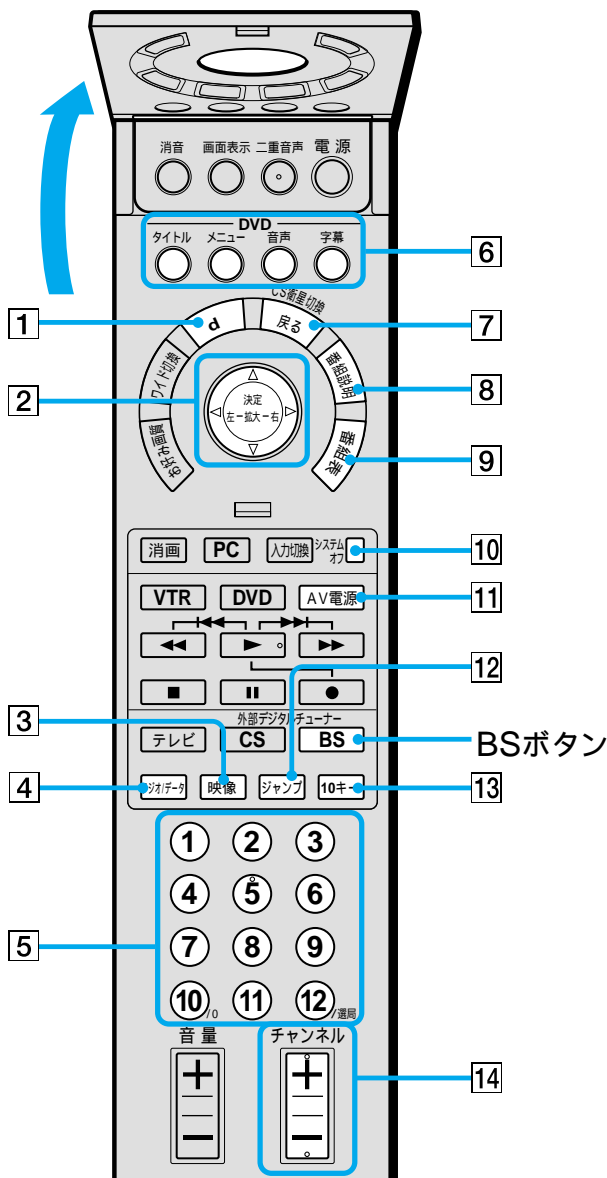
入力設定を済ませている場合は、DVDボタンを押すと次のように動作します。
－本機の入力がDVDに設定した入力に切り換わる
－リモコンモードが切り換わり、リモコンの機能がDVDになる
リモコンモードが変わるだけの機能ではないことにご注意ください。

ご注意

- DVDプレーヤーによっては、メーカー設定をしても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- リモコンの電池を入れ換えるとメーカー設定はお買い上げ時の状態に戻ります。「メーカー設定メモ」（☞24ページ）をご覧になって設定し直してください。
- コントロールSまたはAVマウスを接続しているときは、リモコンをディスプレイユニットのリモコン受光部に向けて操作してください。
- コントロールSまたはAVマウスを接続していないときは、リモコンをDVDプレーヤーのリモコン受光部に向けて操作してください。その場合は、DVDボタンを押しても本機の入力は切り換わりませんので、もう一度ディスプレイユニットにリモコンを向けてDVDボタンを押してください。

ご注意

DVDプレーヤーを操作するときは、必ずリモコンのふたをあけてください。ふたを閉めたままだと、DVDプレーヤーを操作できません。

BSデジタル放送を見る

ご注意
BSデジタルチューナーを操作するときは、必ずリモコンのふたをあけてください。ふたを閉めたままだと、BSデジタルチューナーを操作できません。

ディスプレイユニットに向けてBSボタンを押す。

「本機のリモコンで他機を操作するための設定をする」で設定したBSデジタルチューナーの入力に切り換わります。

他社製の機器を操作する場合は、リモコンをその機器に向けて操作してください。
コントロールSコードやAVマウスをつないだソニー製機器を操作する場合は、本機のディスプレイユニットにリモコンを向けて操作してください。

BSデジタルチューナーを操作できるボタン

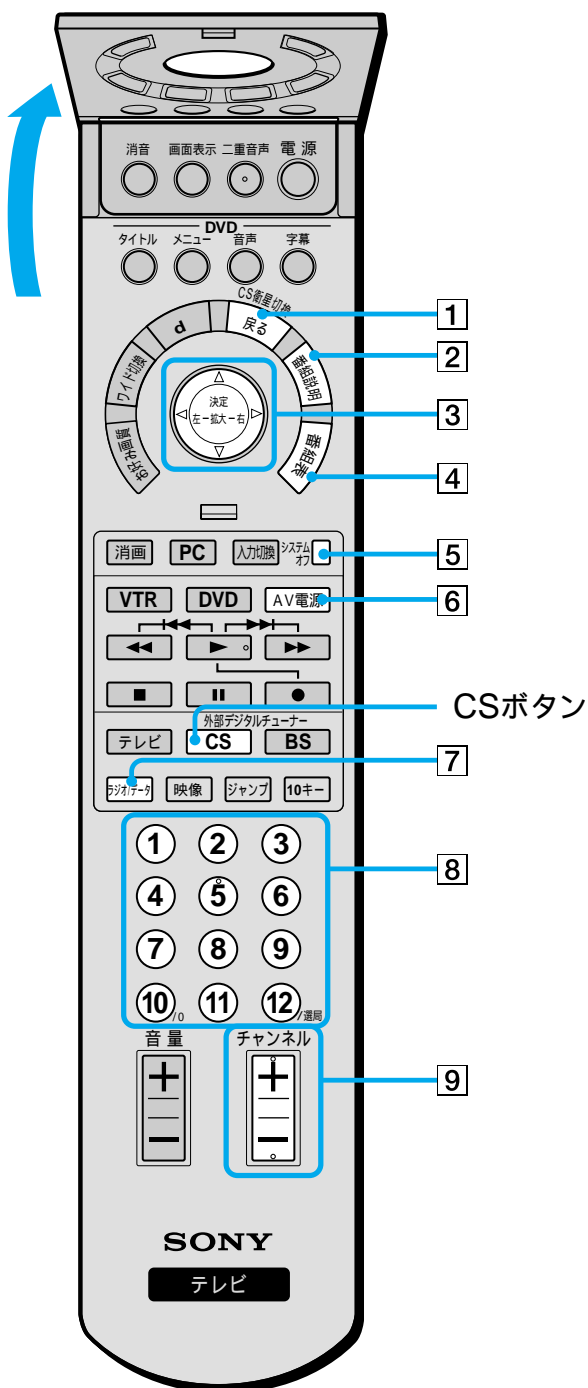
1 番組連動のBSデータを見る
2 番組表の項目を選ぶ
3 マルチビュー放送や降雨時対応放送の画面を切り換える
4 BSラジオまたはBS独立データに切り換える
押すたびに次のように切り換わります。
BSラジオ→BSデータ→BSテレビ
5 チャンネルを切り換える
6 BSデータの画面を操作する（カラーボタン）
7 1つ前の画面に戻る
8 番組説明を表示する
9 番組表を表示する
10 リモコンに登録したソニー製の機器の電源を切る
11 BSデジタルチューナーの電源を入/切する*1
12 1つ前に見ていたチャンネルに切り換える
13 数字ボタンでチャンネルを選ぶ方法を10キー選局に切り換える
14 チャンネルを切り換える

*1 リモコンモードがBSのときにのみ使えます。
リモコンモードがテレビのときは、テレビの電源が入/切します。

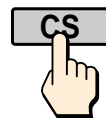
BSボタンの働き
入力設定を済ませている場合は、BSボタンを押すと次のように動作します。
－本機の入力がBSに設定した入力に切り換わる
－リモコンモードが切り換わり、リモコンの機能がBSになる
－リモコンのメーカー登録番号が、ソニー製BSデジタルチューナーの「7+2」を選んでいるときは、BSデジタルチューナーの電源が入る（☞25ページ）
リモコンモードが変わるだけの機能ではないことにご注意ください。

ご注意
- BSデジタルチューナーによっては、メーカー設定をしても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- リモコンの電池を入れ換えるとメーカー設定はお買い上げ時の状態に戻ります。「メーカー設定メモ」（☞24ページ）をご覧になって設定し直してください。
- コントロールSまたはAVマウスを接続しているときは、リモコンをディスプレイユニットのリモコン受光部に向けて操作してください。
- コントロールSまたはAVマウスを接続していないときは、リモコンをBSデジタルチューナーのリモコン受光部に向けて操作してください。その場合は、BSボタンを押しても本機の入力は切り換わりませんので、もう一度ディスプレイユニットにリモコンを向けてBSボタンを押してください。

本機のリモコンで他機を操作する（つづき）

デジタルCS放送を見る

> **ご注意**
> デジタルCSチューナーを操作するときは、必ずリモコンのふたをあけてください。ふたを閉めたままだと、デジタルCSチューナーを操作できません。

ディスプレイユニットに向けてCSボタンを押す。

「本機のリモコンで他機を操作するための設定をする」で設定したデジタルCSチューナーの入力に切り換わります。

デジタルCSチューナーを操作できるボタン

1 CS放送を受信する衛星を切り換える
2 番組説明を表示する
3 番組表の項目を選ぶ
4 番組表を表示する
5 リモコンに登録したソニー製の機器の電源を切る
6 デジタルCSチューナーの電源を入/切する*1
7 CSラジオに切り換える
8 チャンネルを切り換える
9 チャンネルを切り換える

*1 リモコンモードがCSのときにのみ使えます。
リモコンモードがテレビのときは、テレビの電源が入/切します。

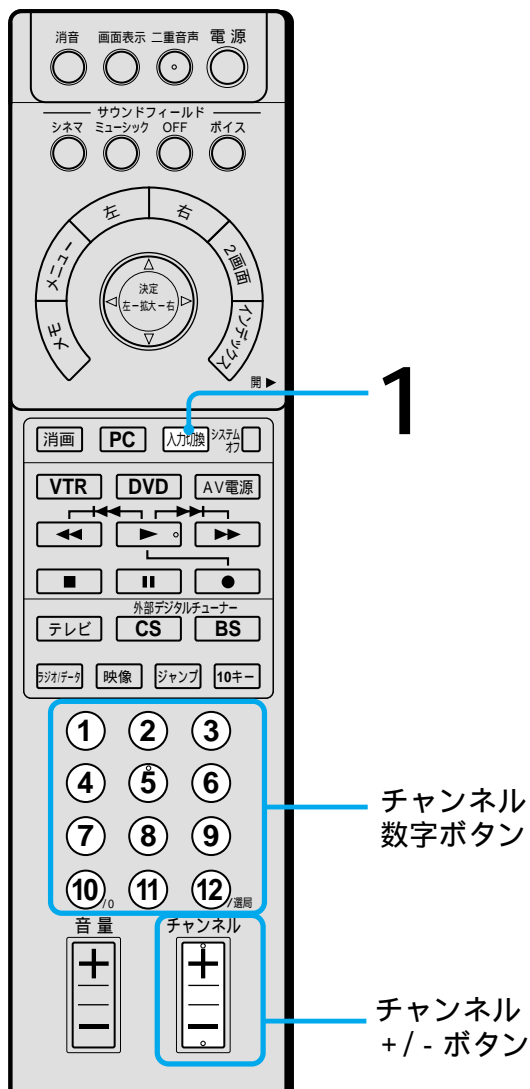
CSボタンの働き

入力設定を済ませている場合は、CSボタンを押すと次のように動作します。
－本機の入力がCSに設定した入力に切り換わる
－リモコンモードが切り換わり、リモコンの機能がCSになる
－リモコンのメーカー登録番号が、ソニー製デジタルCSチューナーの「8+2」を選んでいるときは、デジタルCSチューナーの電源が入る（☞25ページ）
リモコンモードが変わるだけの機能ではないことにご注意ください。

ご注意

- デジタルCSチューナーによっては、メーカー設定をしても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- リモコンの電池を入れ換えるとメーカー設定はお買い上げ時の状態に戻ります。「メーカー設定メモ」（☞24ページ）をご覧になって設定し直してください。
- コントロールSまたはAVマウスを接続しているときは、リモコンをディスプレイユニットのリモコン受光部に向けて操作してください。
- コントロールSまたはAVマウスを接続していないときは、リモコンをデジタルCSチューナーのリモコン受光部に向けて操作してください。その場合は、CSボタンを押しても本機の入力は切り換わりませんので、もう一度ディスプレイユニットにリモコンを向けてCSボタンを押してください。

テレビにつないだ機器の画像を見る

「入力設定」（☞26ページ）を「なし」に設定した入力の画像を見るときは、入力切換ボタンを使います。入力を切り換えて、テレビにつないだビデオ機器やテレビゲームなどの画像を見ることができます。接続のしかたについては、☞71〜87ページをご覧ください。

ちょっと一言

- 入力設定（☞26ページ）をしている入力は、BSボタン、CSボタン、VTRボタン、DVDボタンを押すと入力が切り換わります。
- デジタルAVユニットの入力切換ボタンを押しても、入力を切り換えられます。

1 入力切換ボタンを押して、見たい画面を選ぶ。

入力切換ボタンを押すたびに、それぞれの端子につないだ機器の画像に切り換わります。

押すたびに	以下につないだ機器の画像になります。	画面表示も変わります。
入力切換	• ビデオ1入力端子	ビデオ1*1 ↓
	• ビデオ2入力端子	ビデオ2*1 ↓
	• ビデオ3入力端子	ビデオ3*1 ↓
	• ビデオ4入力端子	ビデオ4 ↓
	• コンポーネント1入力端子	コンポーネント1 ↓
	• コンポーネント2入力端子	コンポーネント2 ↓
	• コンポーネント3入力端子	コンポーネント3 ↓
	• AVマルチ入力端子	AVマルチ ↓
		チャンネル番号（テレビ）

*1 S1映像端子につないでいるときは、「Sビデオ1」〜「Sビデオ3」と表示されます。

2 接続している機器を操作する。

詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

PC入力に切り換えるときは、PCボタンを押してください。

テレビ画面に戻すときは

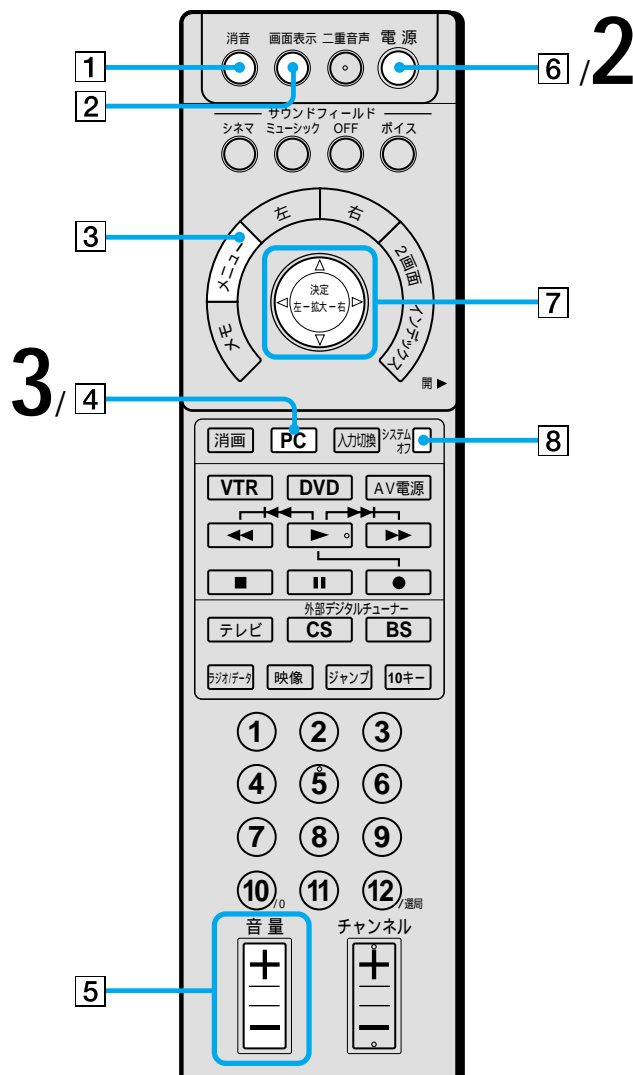
テレビボタンまたはチャンネル数字ボタン、チャンネル＋/－ボタンを押す。

次のページにつづく

テレビにつないだ機器の画像を見る（つづき）

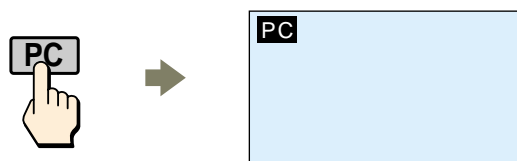
ご注意
- VTRボタンやDVDボタン、BSボタン、CSボタンで入力を切り換えたときは、チャンネル数字ボタンやチャンネル＋/－ボタンを押しても、テレビ画面には戻りません。
- PC入力に切り換えたときは、PC入力に固定され、入力切換ボタンやBSボタン、CSボタン、VTRボタン、DVDボタンを押しても入力は切り換わりません。
  他の入力に切り換えるときは、PCボタンを押してから行ってください。
- AVマルチ入力端子に"プレイステーション 2"をつないでいるときに、入力切換ボタンを押しても、画像が正しく表示されないことがあります。このときは、
  『"プレイステーション 2"や
  "プレイステーション"(PS one) および
  "プレイステーション"をつなぐ』(☞82〜83ページ) をご覧ください。

パソコンの画像を見る（PC）

PC入力端子につないだパソコンの画像を見ることができます。

1 パソコンの電源を入れる。

2 テレビの電源を入れる。

3 PCボタンを押して、PC入力を選ぶ。

パソコンの画面が表示されます。

パソコン画面を操作できるボタン

1 消音にする
2 画面表示を出す
3 PCメニューを表示する
4 PC入力に切り換える/前の入力画面に戻す
5 音量を調節する
6 テレビの電源を入/切する
7 PCメニュー操作をする
8 リモコンに登録したソニー製の機器の電源を切る

前の入力画面に戻す

PCボタンを押す。

PC入力に切り換えているときは、入力切換ボタンや、VTR、DVD、BS、CSボタンを押しても入力は切り換わりません。一度PCボタンを押して、PC入力に切り換える前の入力に戻してから、切り換えたい入力に切り換えてください。

画面の焼き付きや残像についてのご注意

一定時間同じ画面を表示し続けると、部分的に残像（焼き付き）が発生することがあります。

一定時間同じ絵柄を表示し続けるときは、画面の焼き付きを避けるため、フルモードで表示することをお奨めします。

焼き付きが発生したときは、ビデオソフトなどの動きのある映像を映してください。焼きつきが軽度の時は、次第に目立たなくなることがありますが、一度発生した焼き付きは、完全には消えません。

本機で表示できるパソコンの表示モード

解像度640×480または848×480ドットを超える表示モードの場合、画像を簡易表示することになり、細かい文字が十分判読できないことがあります。

また、解像度640×480や848×480ドットの場合の画質とは差が出ることがありますが、故障ではありません。

本機では解像度640×480または848×480ドットをおすすめします。

表示モード一覧

モード	解像度（ドット×ライン）	水平周波数	垂直周波数	グラフィックモード
1	640 × 480	31.5kHz	60Hz	VGA-G
2	640 × 480	35.0kHz	67Hz	Macintosh 13" カラー
3	848 × 480	31.0kHz	60Hz	WIDE
4	848 × 480	35.3kHz	60Hz	WIDE

以下の場合、解像度640 × 480や848 × 480ドットの場合とくらべ、画質に差が出ることがあります。

モード	解像度（ドット×ライン）	水平周波数	垂直周波数	グラフィックモード
5	720 × 400	31.5kHz	70Hz	VGAテキスト
6	800 × 600	37.9kHz	60Hz	SVGA
7	1024 × 768	48.4kHz	60Hz	VESA
8	1280 × 960	60.0kHz	60Hz	VESA
9	1280 ×1024	64.0kHz	60Hz	VESA
10	1280 × 768	48.0kHz	60Hz	WIDE
11	832 × 624	49.7kHz	75Hz	Macintosh 16"カラー
12	1024 × 768	60.2kHz	75Hz	Macintosh 19" カラー
13	1152 × 870	68.7kHz	75Hz	Macintosh 21" カラー

ご注意

上記「表示モード一覧」以外の信号を本機がパソコンから受けた場合、画像が表示されません。

画面に画像が出ないときは

- 正しく接続されているか確認してください。
- 「この周波数には対応していません」と表示されている場合、本機をつなぐ前につないでいたディスプレイがあるときは、それにつなぎ換えてみてください。

詳しくは、「故障かな？と思ったら」（☞88～94ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

パソコンの画像を見る（PC）（つづき）

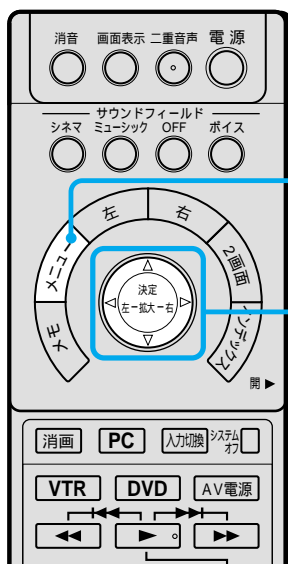
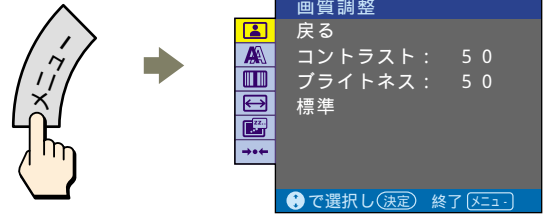
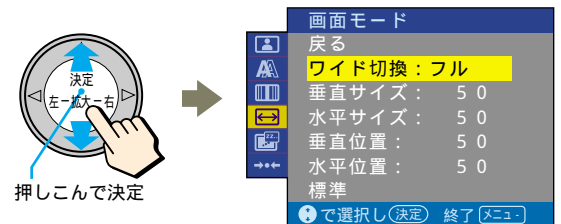
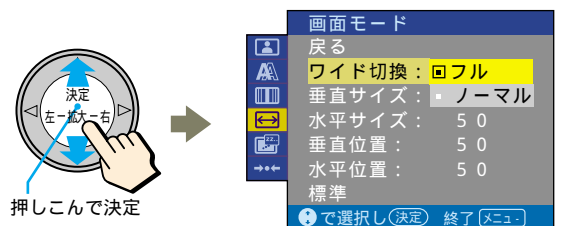
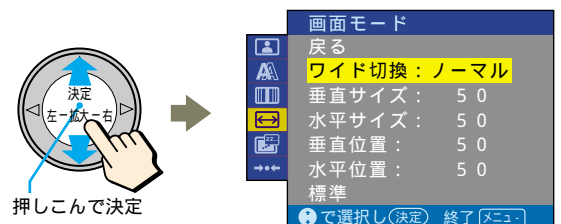
Windows® 95/98をお使いのお客さまは
本機は、プラグ＆プレイ規格である「VESA DDC」に対応しています。お使いのパソコンまたはグラフィックボードがDDCに対応している場合は、パソコンをつないだときに本機が自動認識されます。

解像度と色数を設定するには
パソコンの取扱説明書をご覧ください。
カラーパレットの設定と表示される色数は、以下のとおりです。色数は、パソコンやグラフィックボードの性能によって制限されます。
- High Color（16ビット）→65536色
- True Color（24ビット）→約1677万色

True Color（24ビット）に設定すると、画面の描画速度が少し遅くなります。

画面モード（フル/ノーマル）を切り換える

パソコンの画像を画面いっぱいに広げる（フル）か通常の4:3の画面（ノーマル）にするかを選べます。
画面の焼き付きや残像を避けるため、「フル」で使用することをお薦めします。

ちょっと一言
表示モード一覧（☞35ページ）にある、解像度848×480や1280×768ドットのワイドモードの場合、「ワイド切換」での表示画面は「フル」に固定されます。

1 **メニューボタンを押す。**

2 **△/▽で「⇔（画面モード）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

3 **△/▽で「ワイド切換」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

4 **△/▽で「ノーマル」または「フル」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

5 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

「ワイド切換」をお買い上げ時の設定に戻すには
手順3で「標準」を選び、真ん中を押し込んで決定する。
「⇔（画面モード）」のすべての項目および「ピッチ調整」がお買い上げ時の設定に戻ります。

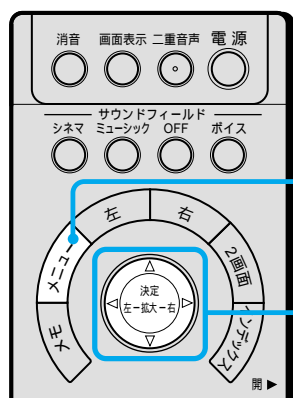
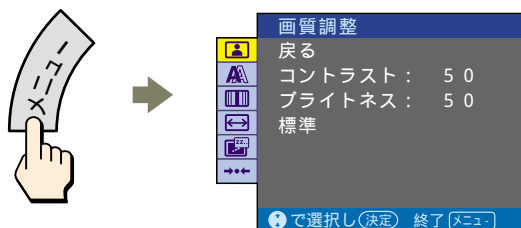
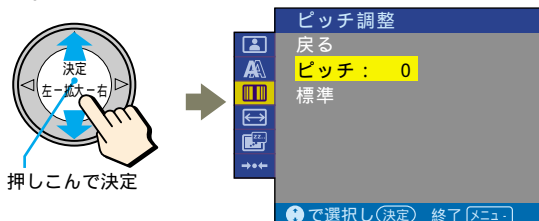
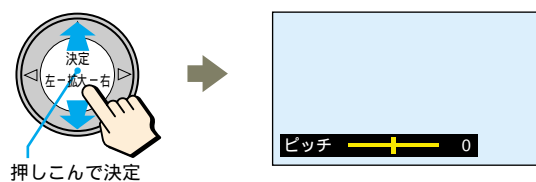
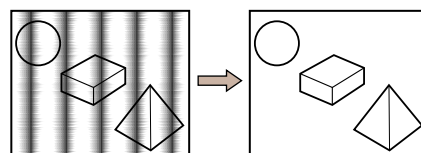
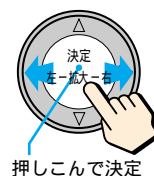
画像をくっきりさせる（ピッチ、フェーズ）

文字や画像が鮮明でないときに調整します。

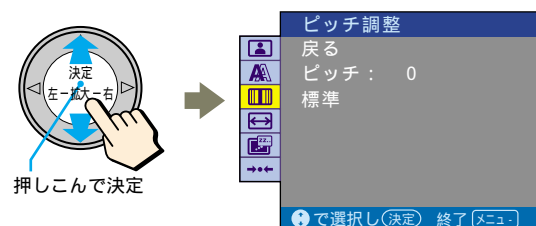
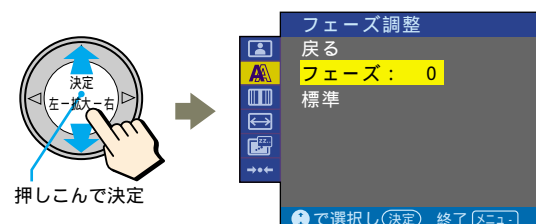
ピッチ調整
文字や画像の一部が鮮明でないときに行います。

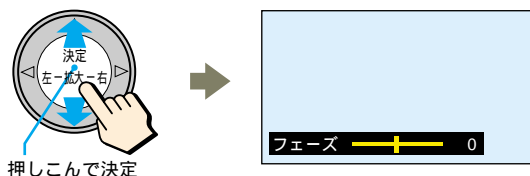
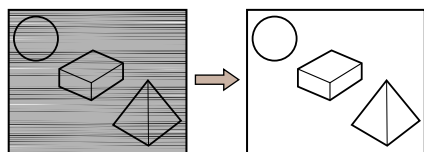
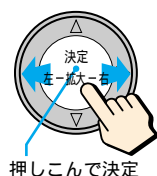
フェーズ調整
文字や画像が全体的にぼんやりし、鮮明でないときに行います。

ピッチを調整した後にフェーズの調整を行ってください。
調整を行うと、調整値が自動的に本機に設定され、同じ信号が入力されるたびに、その調整値が選ばれるようになります。

ご注意
パソコンをつなぎ換えたときなどは、もう一度調整が必要になる場合があります。

1 **メニューボタンを押す。**

2 **△/▽で「▥（ピッチ調整）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

3 **△/▽で「ピッチ」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

4 **◁/▷で、画像の縦縞がなくなるまで調整し、真ん中を押し込んで決定する。**

真ん中を押し込んで決定すると、メニュー画面に戻ります。

ご注意
画素の組み合わせにより、縦縞が完全に消えないことがあります。その場合は、縦縞の本数が最も少なくなるまで調整してください。

5 **△/▽で「戻る」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

6 **△/▽で「A（フェーズ調整）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

次のページにつづく

7 △/▽で「フェーズ」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

8 ◁/▷で、画像の横縞が最少になるように調整し、真ん中を押し込んで決定する。

真ん中を押し込んで決定すると、メニュー画面に戻ります。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

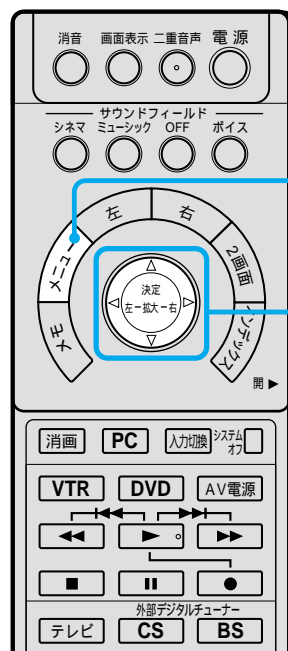
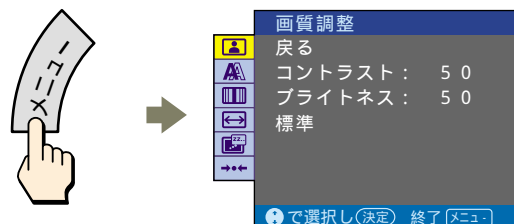
「ピッチ」をお買い上げ時の設定に戻すには
手順3で「標準」を選び、真ん中を押し込んで決定する。
「⇔（画面モード）」の「水平位置」もお買い上げ時の設定に戻ります。

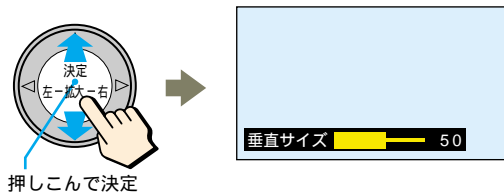
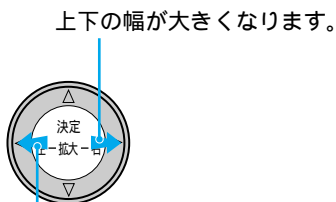
「フェーズ」をお買い上げ時の設定に戻すには
手順7で「標準」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

ご注意
環境条件により、フェーズがずれることがあります。その場合にはもう一度フェーズの調整を行ってください。

画像の大きさを調整する（サイズ）

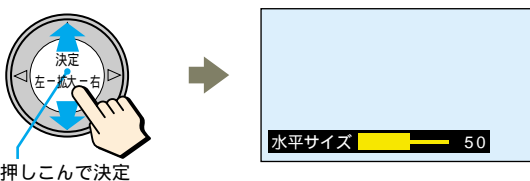
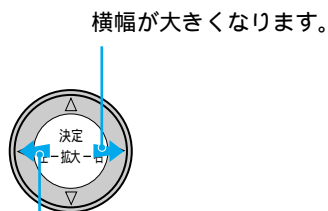
画像が小さいときや、はみ出ているときに、調整します。

ご注意
この調整はピッチ調整のあとに行ってください。サイズ調整のあとにピッチ調整を変えると、もう一度調整が必要になります。

1 メニューボタンを押す。

2 △/▽で「⇔（画面モード）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「垂直サイズ」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 ◁/▷で画面の上下の大きさを調整し、真ん中を押し込んで決定する。

上下の幅が大きくなります。

上下の幅が小さくなります。

真ん中を押し込んで決定すると、メニュー画面に戻ります。

5 △/▽で「水平サイズ」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

6 ◁/▷で画面の左右の大きさを調整し、真ん中を押し込んで決定する。

横幅が大きくなります。

横幅が小さくなります。

真ん中を押し込んで決定すると、メニュー画面に戻ります。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

「垂直サイズ」、「水平サイズ」をお買い上げ時の設定に戻すには

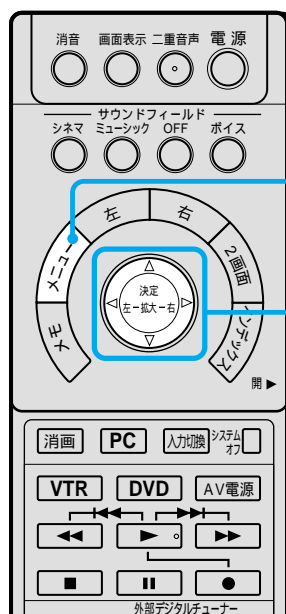
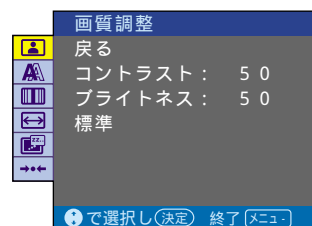
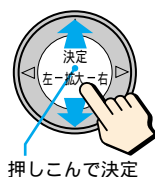
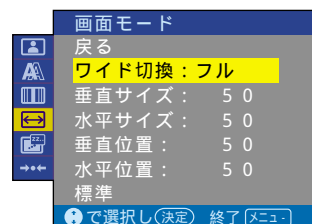
手順3で「標準」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

「⟷(画面モード)」のすべての項目および「ピッチ調整」がお買い上げ時の設定に戻ります。

画像の位置を調整する(位置)

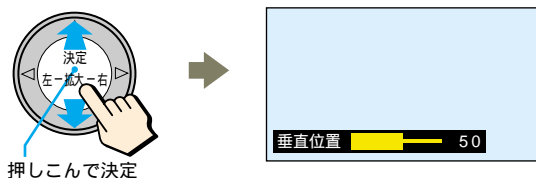
パソコンの画像が画面中央に出ないときに、調整します。

ご注意

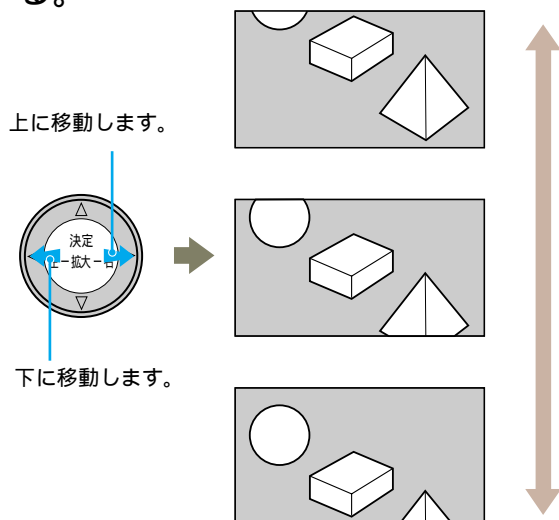
この調整はピッチ調整のあとに行ってください。位置調整のあとにピッチ調整を変えると、もう一度調整が必要になります。

1 メニューボタンを押す。

2 △/▽で「⟷(画面モード)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

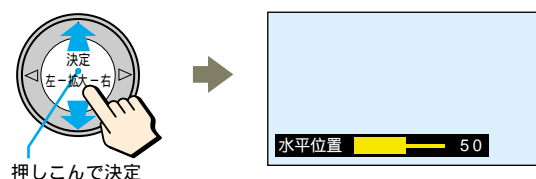
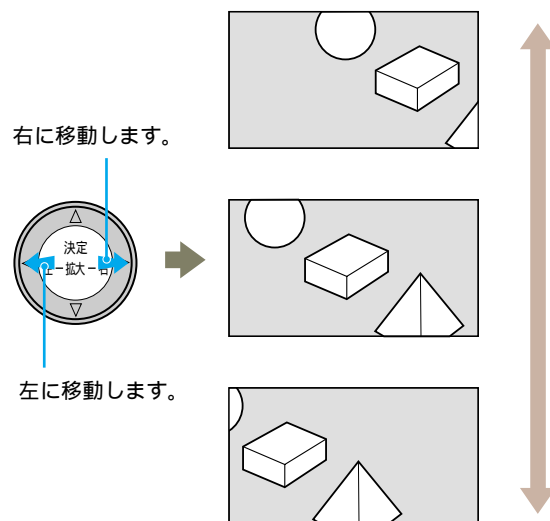
次のページにつづく

他機を操作する

3 △/▽で「垂直位置」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

ご注意

表示モード一覧（☞35ページ）にある解像度800×600や1280×768ドットでは、垂直位置が固定される場合があります。

4 ◁/▷で画面の上下位置を調整し、真ん中を押し込んで決定する。

真ん中を押し込んで決定すると、メニュー画面に戻ります。

5 △/▽で「水平位置」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

6 ◁/▷で画面の左右位置を調整し、真ん中を押し込んで決定する。

真ん中を押し込んで決定すると、メニュー画面に戻ります。

ご注意

「水平位置」が調整できない場合、「ピッチ調整」の調整バーを数ステップ右にずらし、数値を上げてください。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

「垂直位置」、「水平位置」をお買い上げ時の設定に戻すには

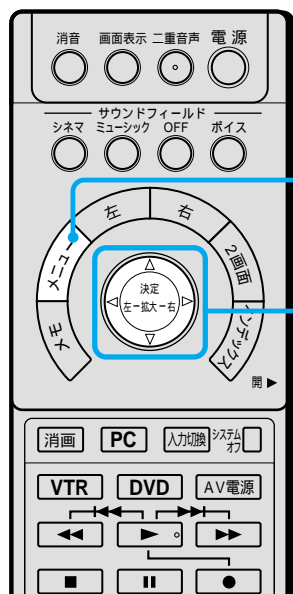
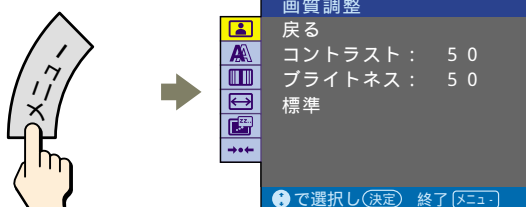
手順3で「標準」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

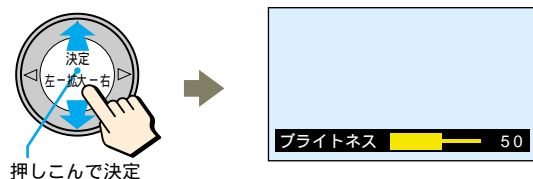
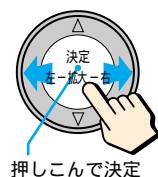
「⟷（画面モード）」のすべての項目および「ピッチ調整」がお買い上げ時の設定に戻ります。

画像の明るさを調整する（ブライトネス）

明るさを調整します。調整を行うと、調整値が自動的に本機に設定されます。

ご注意

PC入力の画面はテレビ画面にくらべ、あらかじめ暗く設定されておりますが焼き付きを避けるためであり、故障ではありません。

1 メニューボタンを押す。

2 △/▽で「（画質調整）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「ブライトネス」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 ◁/▷で調整し、真ん中を押し込んで決定する。

真ん中を押し込んで決定すると、メニュー画面に戻ります。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

「ブライトネス」をお買い上げ時の設定に戻すには

手順3で「標準」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

「（画質調整）」のすべての項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

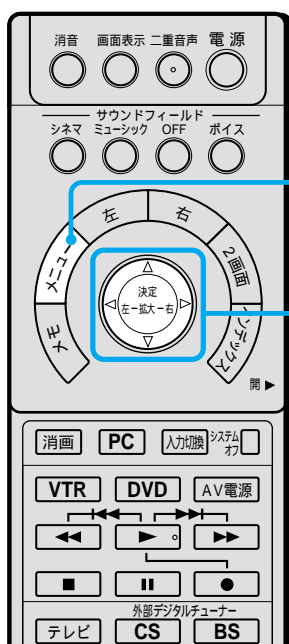
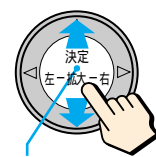
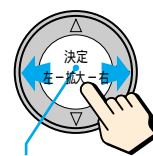
次のページにつづく

パソコンの画像を見る（PC）（つづき）

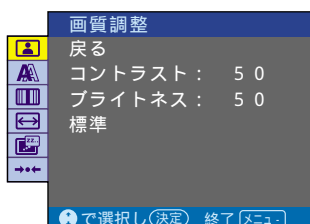
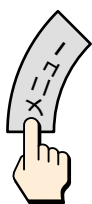
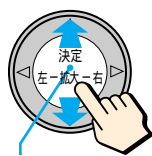
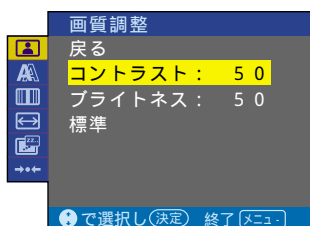
画像のコントラストを調整する

コントラストを調整します。調整を行うと、調整値が自動的に本機に設定されます。

1 メニューボタンを押す。

2 △/▽で「(画質調整)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「コントラスト」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 ◁/▷で調整し、真ん中を押し込んで決定する。

真ん中を押し込んで決定すると、メニュー画面に戻ります。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

「コントラスト」をお買い上げ時の設定に戻すには

手順3で「標準」を選び、真ん中を押し込んで決定する。
「(画質調整)」のすべての項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

省電力機能を設定する（パワーセーブ）

パワーセーブ機能のあるパソコンをつなぐと、パソコンを操作していないときは、「入力信号がありません」と一度表示された後、自動的にパワーセーブモードになり消費電力が減少します。

パワーセーブ機能を働かせるには

1 メニューボタンを押す。

2 △/▽で「(PCパワーセーブ)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「入」を選び、真ん中を押し込んで決定する。
パワーセーブ機能を働かないようにするには、「切」を選んでください。

4 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意
パワーセーブ機能が働くように設定していても、他の入力に切り換えたときはパワーセーブ機能は働かなくなります。PC入力に戻すとパワーセーブ機能が働くようになります。

通常の画面表示に戻すには

パソコンのキーボードのキーをどれか押すか、マウスを動かす。

他機を操作する

ちょっと一言
DPMS（Display Power Management Signaling）に対応しているコンピューターやグラフィックボードにつなぎ、パソコンの省電力機能等が設定されているときに一定時間パソコンを操作しないと自動的に下表のパワーセーブモードに切り換わります。

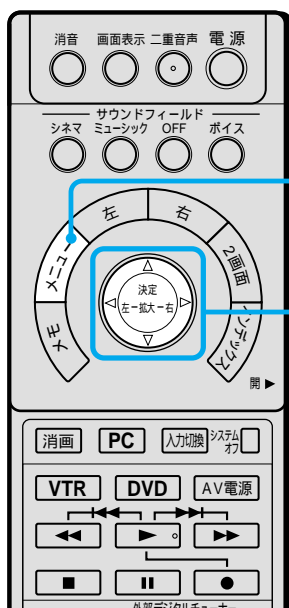
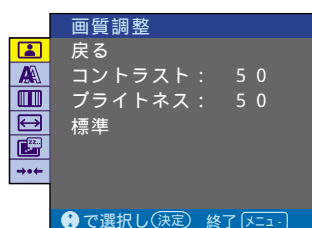
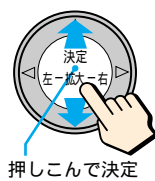
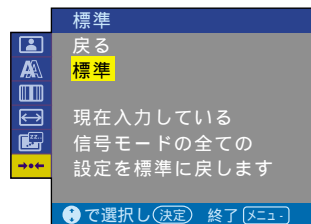
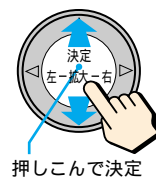
状態	画面	*水平同期信号	*垂直同期信号	消費電力 約（W）	電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプ
通常動作	通常表示	有り	有り	380	緑点灯
パワーセーブモード（アクティブオフ）	画像無し	無し	無し	2.5	オレンジ点灯
スタンバイ	–	–	–	2.5	赤点灯

*上記と異なる同期信号が入力された場合、パワーセーブ機能が正しく働かない場合があります。この場合は、パワーセーブ機能の設定を「切」にしてお使いください。

パソコンの画像を見る（PC）（つづき）

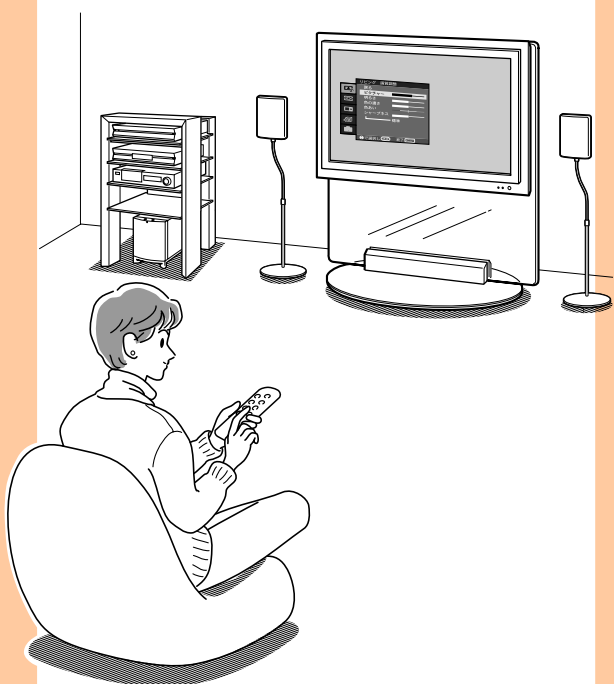
お買い上げ時の設定に戻す

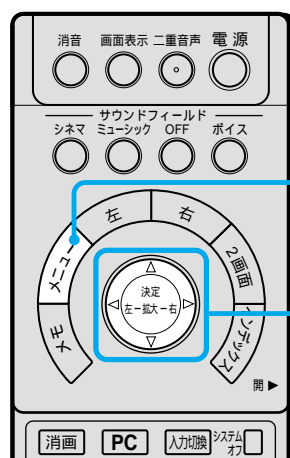
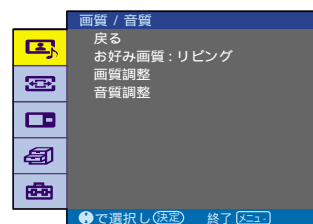
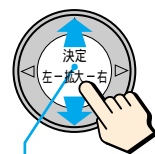
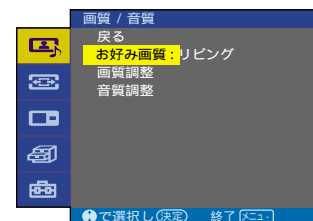
次の各項目を、お買い上げ時の設定に戻します。

PCメニュー画面	項目	設定
フェーズ調整	–	–
ピッチ調整	–	–
画面モード	ワイド切換	ノーマル
	垂直サイズ	50
	水平サイズ	50
	垂直位置	50
	水平位置	50

1 メニューボタンを押す。

2 △/▽で「→•←（標準）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「標準」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

真ん中を押し込んで決定すると、メニュー画面に戻ります。
現在使用している表示モードの設定が標準に戻ります。
再度調整するときは、各調整項目の操作手順（☞37～40ページ）に従って調整してください。

4 メニューボタンを押して、メニューを消す。

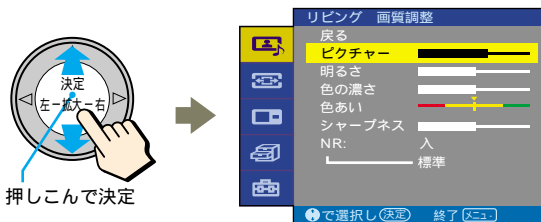
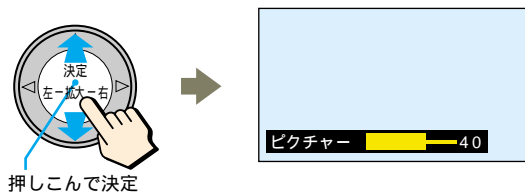
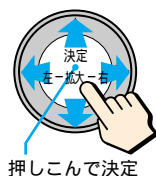
調整する/設定する

ここでは、画質や音質、および画面の位置やサイズなどを調整する応用的な操作を説明しています。

画質を調整する

お好み画質ボタンで「リビング」を選ぶ（☞6ページ）と、画質をより細かく調整できます。画質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます。

1 メニューボタンを押す。

2 △/▽で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

次のページにつづく

画質を調整する（つづき）

3 △/▽で「リビング」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 △/▽で「画質調整」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

5 △/▽で調整したい項目を選び、真ん中を押し込んで決定する。

6 ◁/▷で調整し、真ん中を押し込んで決定する。

調整できる項目

項目	◁を押すと	▷を押すと
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる
明るさ	暗くなる	明るくなる
色の濃さ	薄くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる
シャープネス	映像の輪郭が柔らかくなる	映像の輪郭がくっきりする

ちょっと一言

調整バーの横に表示される数値も調節の目安になります。

ノイズリダクション NR	**通常は「入」にしておいてください。** 「入」:映像のざらつきや色ノイズを軽減する（ゴーストなど電波障害は軽減されない）。 「切」:元の映像信号（処理していないオリジナル信号）の状態を確認するときなどに選ぶ。ただし、映像のざらつきや色ノイズが強調されたり、色にじみが出ることがある。	**選べる設定** 入/切

ご注意

「NR（ノイズリダクション）」は、コンポーネント1、2（D4映像）入力端子、コンポーネント3入力端子、AVマルチ入力端子につないだ機器の映像のときは、調整できません。
通常のテレビ放送、およびビデオ1～4入力端子につないだ機器の映像のときは、調整できます。

7 他の項目を調整するときは、手順5と6をくり返す。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

お買い上げ時の状態に戻すには

手順5で、「標準」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

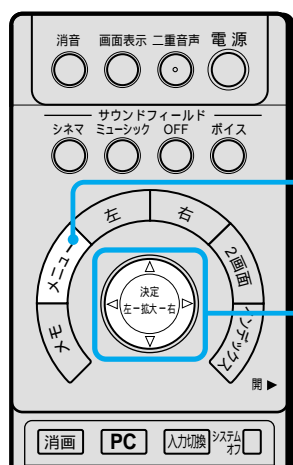
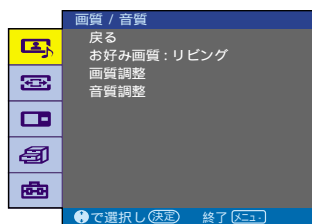
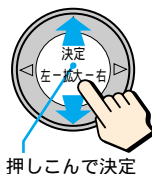
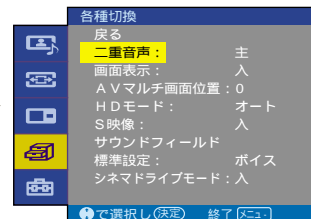
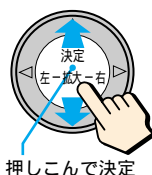
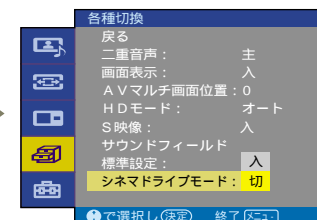
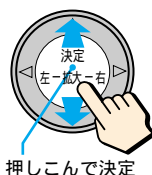
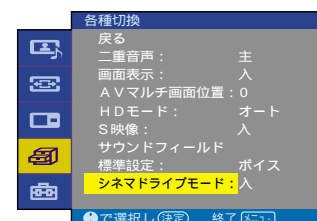
ご注意

「ダイナミック」と「スタンダード」（☞6ページ）では、画質調整できません。

シネマドライブモード

シネマドライブモードを「入」にすると、映画などフィルム（24コマ）で撮影された映像を本機が自動検出し、最適な信号処理を行います。これにより、フィルム映像特有の滑らかな動きのある映像を再現します。

ちょっと一言

- お買い上げ時は、シネマドライブモードは「入」（自動切換）になっています。通常は「入」にしておくことをおすすめします。
- 録画状態が良くない映像をご覧になっているときに、画面がチラつくような場合は、手順4で「切」を選んでください。
- 自動的に切り換わらないようにするには、手順4で「切」を選んでください。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **△/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

3 **△/▽で「シネマドライブモード」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

4 **△/▽で「入」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

5 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

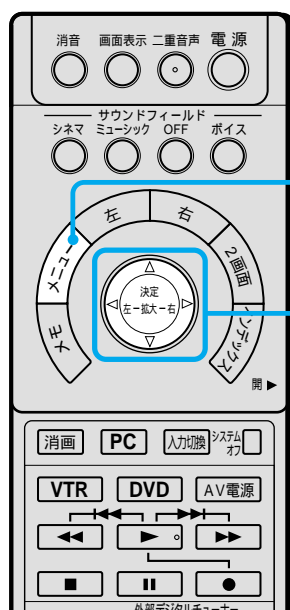
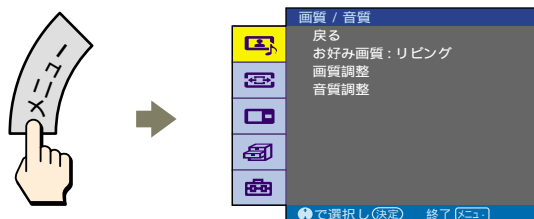
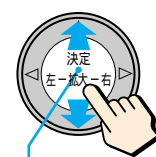
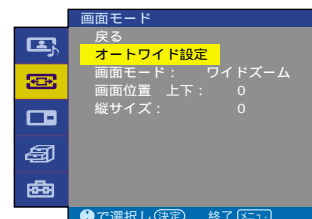
ご注意

映像によっては、シネマドライブモードの設定はできません。

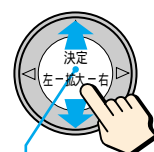
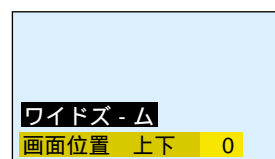
画面の上下位置/縦サイズを調整する

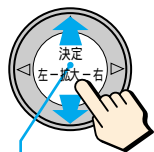
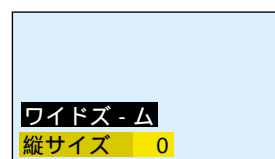
ワイド画像で次のようなときは、画面位置の上下や縦サイズを、画面モード（☞12ページ）ごとに調整できます。

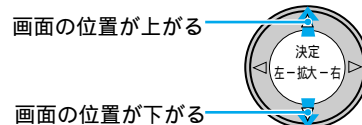
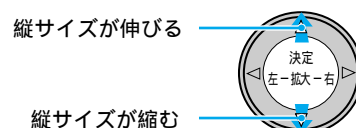
- 「ワイドズーム」や「ズーム」で画面を見やすい位置にしたいとき
- 「字幕入」で字幕が画面に入りきらないとき

「フル」と「ノーマル」の画面モードでは調整できません。

1 調整したい画面を映した状態で、メニューボタンを押す。

2 △/▽で「(画面モード)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で調整したい項目を選ぶ。

画面の上下位置を調整するときは

△/▽で「画面位置　上下」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

サイズを調整するときは

△/▽で「縦サイズ」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 △/▽で調整して、真ん中を押し込んで決定する。

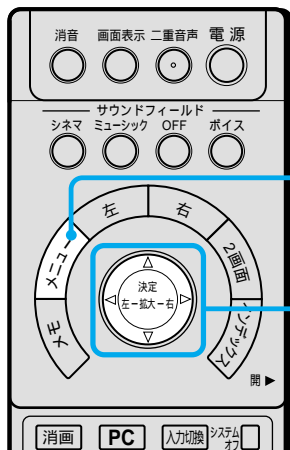
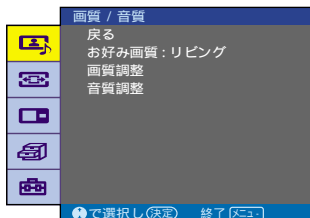
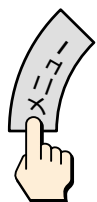
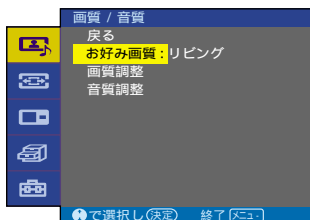
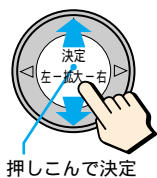
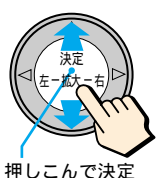
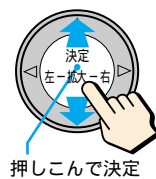
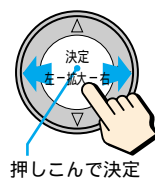
画面の上下位置を調整するときは

縦サイズを調整するときは

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

画面の縦サイズを調整中に、一瞬画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

音質を調整する

音質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます。

1 メニューボタンを押す。

2 △/▽で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「音質調整」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 △/▽で調整したい項目を選び、真ん中を押し込んで決定する。

5 ◁/▷で調整し、真ん中を押し込んで決定する。

項目	◁を押すと	▷を押すと
高音	弱くなる	強くなる
低音	弱くなる	強くなる
バランス	左側の音が強くなる	右側の音が強くなる

ちょっと一言

調整バーの横に表示される数値も調節の目安になります。

6 他の項目を調整するときは、手順4と5をくり返す。

7 メニューボタンを押して、メ

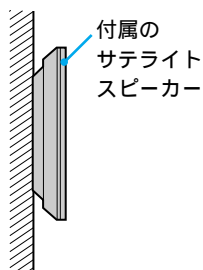
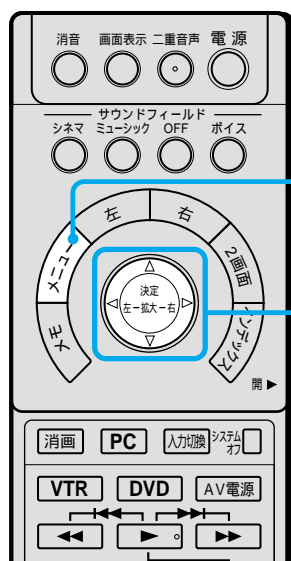
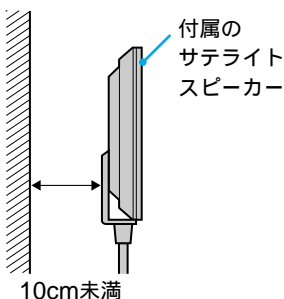
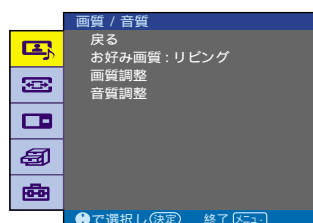
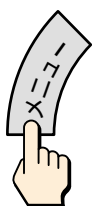
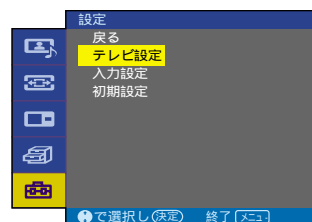
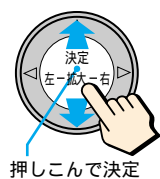
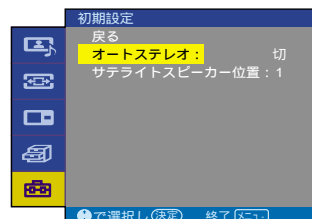
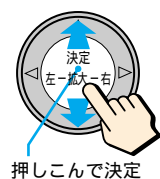
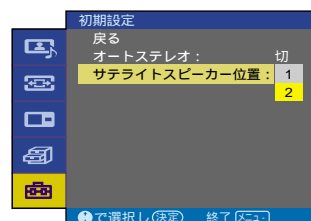
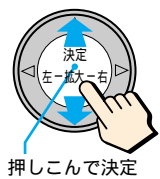
お買い上げ時の状態に戻すには

手順4で、「標準」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

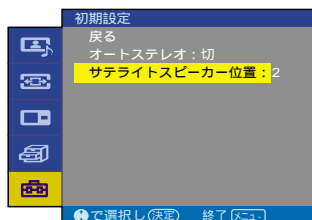
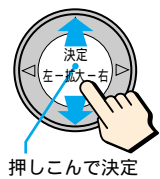
ご注意

ヘッドホンの音質調整はできません。ヘッドホンで聞いているときに音質調整をすると、ヘッドホンを抜いたときに出るスピーカーからの音が調整されます。

サテライトスピーカーの位置を設定する

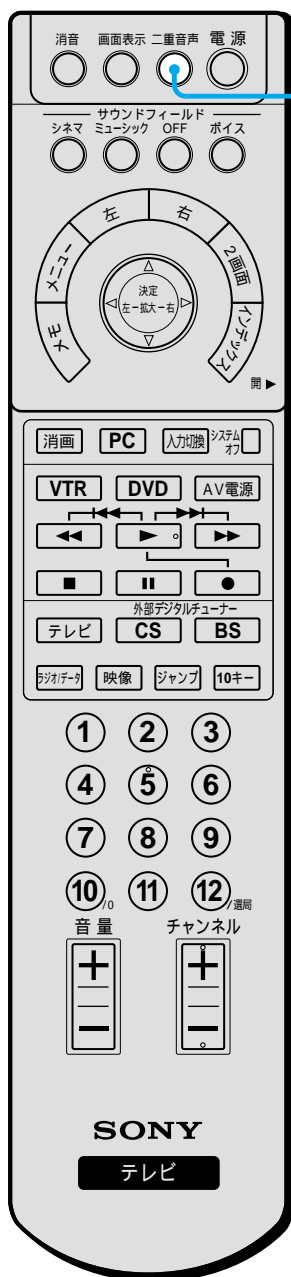
サテライトスピーカーを壁に取り付けたり、またはスピーカースタンドの位置が壁から10cm未満のときは、壁による反射音を考慮した音質に設定します。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 △/▽で「(設定)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「初期設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 △/▽で「サテライトスピーカー位置」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

●設定の目安

壁からサテライトスピーカー背面までの距離	サテライトスピーカー位置の設定
10cm以上	1
10cm未満	2

5 △/▽で「2」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

音声を切り換える
（二重音声）

二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選べます。

ご注意
二重音声放送がないときは、切り換わりません。

二重音声ボタンをくり返し押す。

押すたびに下表のように切り換わります。

画面表示	左側の音声	右側の音声
主	主音声	主音声
副	副音声	副音声
主/副	主音声	副音声

例:「主/副」を選んだとき

ちょっと一言
2画面のときは操作画面の音声が切り換わります。

VHF/UHFのステレオ放送で雑音が気になるときは

音声をモノラルにして、チャンネルごとに雑音を軽減できます。

1. **雑音の多いチャンネルを映した状態で、メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **△/▽で「(設定)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
3. **△/▽で「初期設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
4. **△/▽で「オートステレオ」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
5. **△/▽で「切」にして、真ん中を押し込んで決定する。**
6. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

オートワイドの設定を変える

オートワイドの設定について

オートワイドの設定には、「1」と「2」があります。

オートワイド「1」
テレビ放送では、ワイドクリアビジョン放送や一部の放送局の通常放送（4:3映像）には、映像を判別するための識別制御信号*1が、映像信号に重なって送られています。また、ビデオカメラなど一部のビデオ機器でも同様の識別制御信号が出力されています。
このような識別制御信号を判断して、**忠実に再現する**のが、オートワイドの「1」です。ただし、識別制御信号がないときに、手動で選んだ画面モードによっては、画面の周囲が黒くなったり、映像の一部が欠けたりすることがあります。

オートワイド「2」
次ページのように、識別制御信号の有無に関係なく、最適な画面モードに切り換えるのが、オートワイドの「2」です。

お買い上げ時はオートワイドの「2」（「4:3映像」の設定も「ワイドズーム」）に設定されています。

*1 識別制御信号とは、オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。
－ワイドクリアビジョン放送
－横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS1方式）
－横縦比を4:3にする信号が入ったテレビ放送
－D4入力端子からの横縦比情報の入った映像

画面が一瞬暗くなるときは

テレビのコマーシャルが放送されているときや番組が変わるときなどに、突然画面が真っ暗になったり、画像の大きさが変わったりする場合などがありますが、故障ではありません。オートワイドを「1」または「2」に設定している場合、番組に最適なワイド画面を本機が自動的に判断し、画像の大きさを調整します。画像がどうしても気になるときは、オートワイドを「切」にすることをお薦めします。オートワイドを「切」に設定するには、「オートワイドを設定する/切る」（☞54ページ）をご覧ください。

映像の種類による「1」と「2」の画面モードの違い

映像の種類	画面モード	
	オートワイド「1」	オートワイド「2」
通常のテレビやBS放送	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2
横縦比を4:3(「ノーマル」)にする信号が入ったテレビ放送*3	「ノーマル」	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2
映像中に字幕が入った横長の映画	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「ズーム」
映像の外に字幕のある横長の映画	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「字幕入」
ワイドクリアビジョン放送*3	「ズーム」	
横縦比を16:9(「ズーム」または「フル」)にする信号が入ったビデオカメラやDVDプレーヤーなどの映像(ID-1方式やS1方式)*3	「ズーム」または「フル」	
横縦比を4:3(「ノーマル」)にする信号が入ったビデオカメラやDVDプレーヤーなどの映像(ID-1方式やS1方式)*3	「ノーマル」	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2

*2 メニューで設定します(☞54ページ)。お買い上げ時は「ワイドズーム」になっています。
*3 識別制御信号(☞52ページ)の入った映像です。

ちょっと一言

- ワイド切換ボタンで切り換えたあと(☞13ページ)などは、表のようにならないことがあります。
- オートワイドが働いているときにワイド切換ボタンを1回押すと(☞13ページ)、上記のオートワイド「1」、「2」にしたがって、オートワイドが働き続けます。
  その後、くり返し押すと、識別制御信号の有無により、次のようになります。
  - 識別制御信号のある映像を受信すると、信号に応じた画面モードに切り換わります。
  - 識別制御信号のない映像のときは、オートワイドを「2」に設定していても、オートワイドが働かなくなります。ただし、チャンネルや入力を変えたり電源を入/切したりすると、再び働きます。

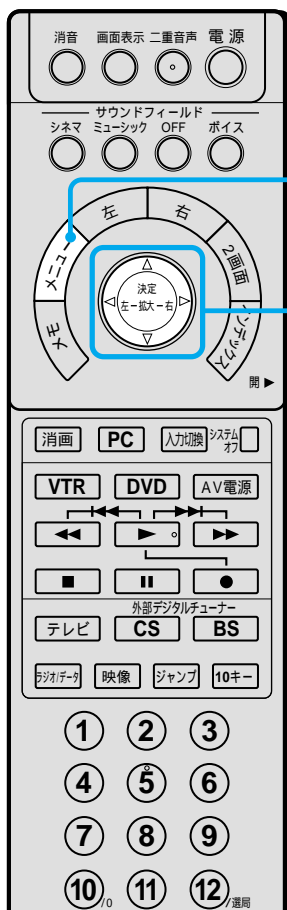
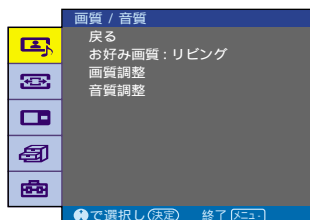
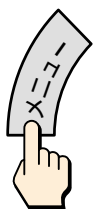
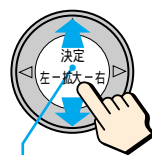
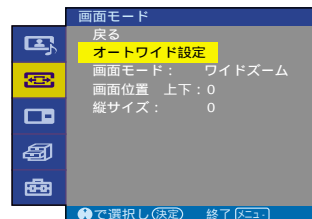
ワイド画面についてのご注意

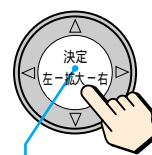
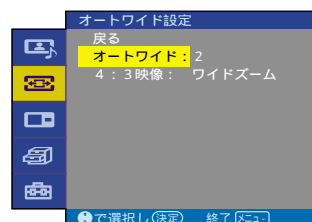
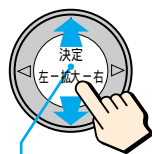
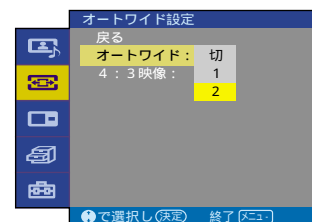
- このテレビは、各種の画面モード切り換え機能を備えています。テレビ番組などソフトの映像比率と異なるモードを選択されますと、オリジナルの映像とは見え方に差が出ます。この点にご留意の上、画面モードをお選びください。
- このテレビを営利目的、または公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどに置き、画面モード切り換え機能等を利用して画面の圧縮や引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。
- ワイド映像でない従来の4:3の映像を、ワイドズームモードを利用してテレビの画面いっぱいに表示してご覧になると、周辺画像が一部見えなくなったり変形して見えたりします。制作者の意図を尊重したオリジナルな映像はノーマルモードでご覧になれます。
- オリジナル映像のサイズや種類によっては、画面の上下が欠けたり、字幕が入りきらないことがあります。このときは、上下位置や縦サイズを調整してください(☞48ページ)。ただし、画面モードが「フル」と「ノーマル」のときは調整できません。

次のページにつづく

オートワイドの設定を変える（つづき）

オートワイドを設定する/切る

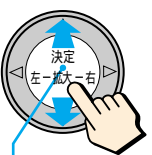
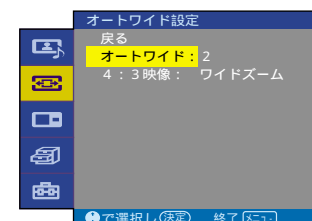
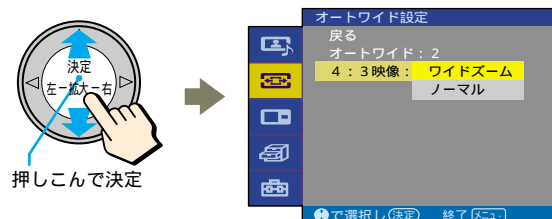
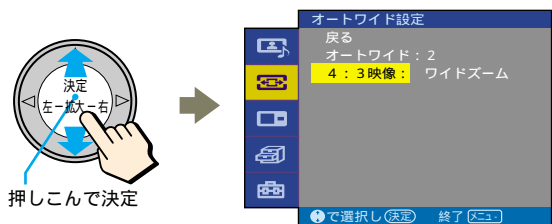
オートワイドについての詳しい説明は、☞12ページをご覧ください。

1 **メニューボタンを押す。**

2 **△/▽で「(画面モード)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

3 **「オートワイド設定」を選んでいることを確認して、真ん中を押し込んで決定する。**

選ばれていないときは、△/▽で選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 **△/▽で「オートワイド」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

5 **オートワイドを切るときは**

△/▽で「切」を選び、真ん中を押し込んで決定する（手順8へ進んでください）。

オートワイドを「1」に設定するときは

△/▽で「1」を選び、真ん中を押し込んで決定する（手順8へ進んでください）。

オートワイドを「2」に設定するときは

△/▽で「2」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

6 オートワイド「2」のときは、△/▽で「4:3映像」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

7 △/▽で「ノーマル」か「ワイドズーム」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

テレビの接続と準備

ここでは、テレビアンテナのつなぎかた、およびチャンネル設定を説明しています。
手順1〜8（☞56〜64ページ）まで済ませれば、テレビを見ることができます。
他の機器をつないでお使いになるときは、「他機との接続」（☞71〜87ページ）をご覧ください。
また、ケーブルテレビをつなぐときは、ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。ケーブルシステムによって接続や準備のしかたが異なります。

（スタンドは別売りです。）

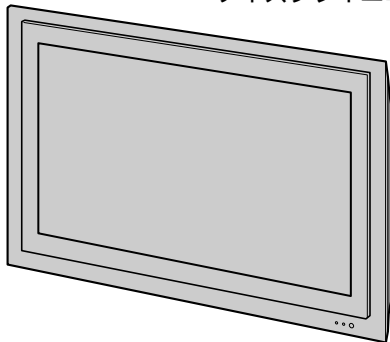
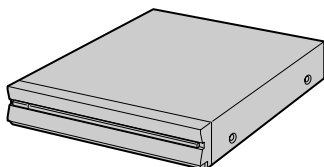
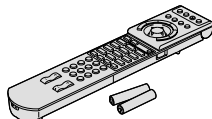
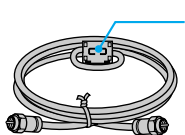
手順1:
付属品を確かめる

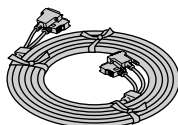
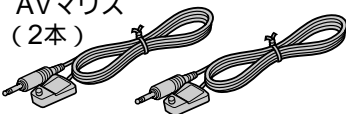
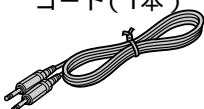
ご注意

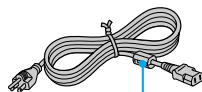
- ディスプレイユニット、デジタルAVユニット、サブウーファーの電源は接続が終了するまで切っておいてください。
- デジタルAVユニットの電源コードはすべての接続が終了してから、コンセントにつないでください。

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。フラットパネルカラーテレビの同梱品とスピーカーシステムの同梱品は、それぞれ別の箱に梱包されています。

フラットパネルカラーテレビ本体に同梱されている物

ディスプレイユニット（1個）

デジタルAVユニット（1個）

リモコン（1個）と単4形乾電池（2個）

アンテナ接続ケーブル（1本）

フェライトコアを取りはずさないでください。

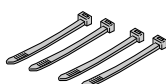
電源映像ケーブル（1本）

AVマウス（2本）

コントロールSコード（1本）

D映像コード（1本）

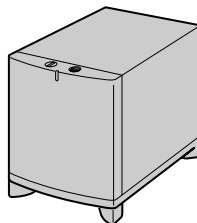
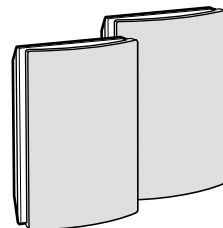
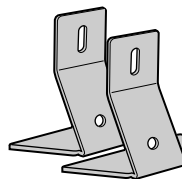
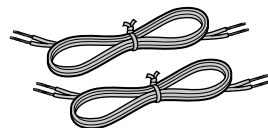
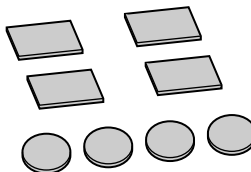
電源コード（1本）

フェライトコアを取りはずさないでください。

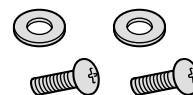
クリーニングクロス（1枚）

取扱説明書
安全のために/安全点検のおすすめ
ソニーご相談窓口のご案内
ご愛用者カード
保証書
接続手順早わかりガイド
（各1部）

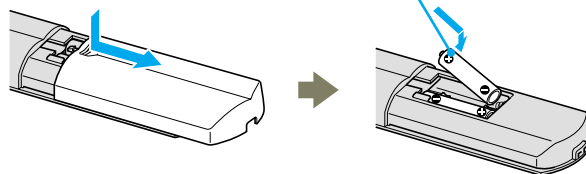
変換プラグアダプター（1個）

ケーブル留め（4本）

スピーカーシステムに同梱されている物

サブウーファー（1個）

サテライトスピーカー（2個）

スピーカースタンド（2個）

スピーカーコード（2本）

スピーカーパッド（4×2個）

サブウーファー用ラインケーブル（1本）

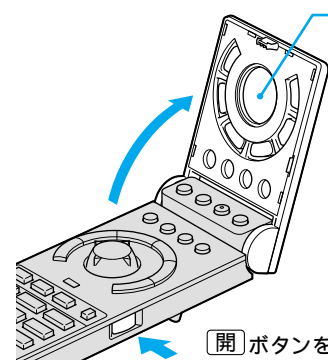
スピーカースタンド用ネジ/ワッシャー（各2個）

取扱説明書（1部）

リモコンに電池を入れるには

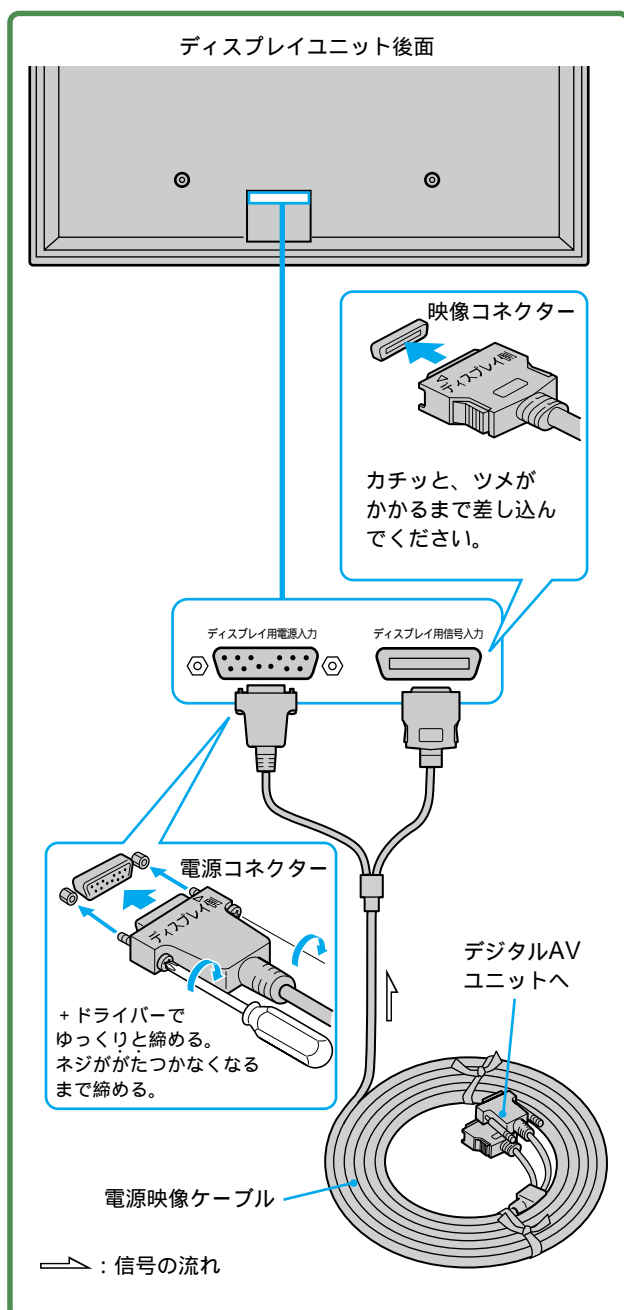
必ずイラストのように⊖極側から電池を入れてください。無理に入れたり逆に入れたりすると、ショートの原因になり、発熱することがあります。

⚠注意
この穴に、指などを入れないでください。抜けなくなることがあります。

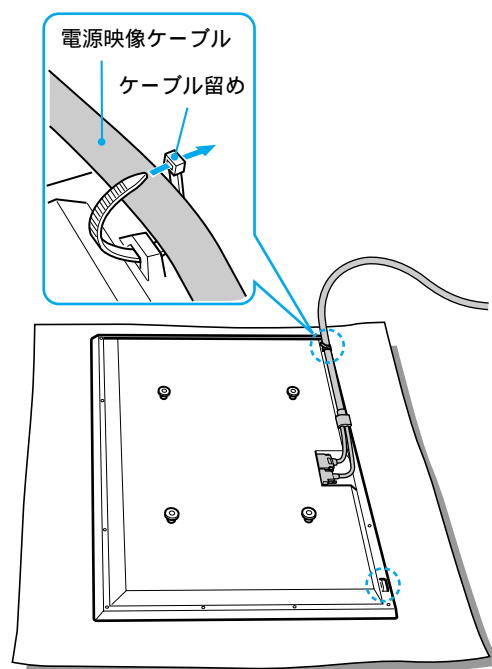
開ボタンを押す。

テレビの接続と準備

次のページにつづく

手順2:ディスプレイユニットに電源映像ケーブルをつなぐ

付属の電源映像ケーブルをディスプレイユニットにつなぐ。

- 「ディスプレイ側」と書いてあるほうをつないでください。
- 電源コネクターのネジはがたがでない程度に締めてください。過度の締めつけは、ネジの破損の原因となります。

電源映像ケーブルをディスプレイユニットの背面に固定するには

スタンドや壁掛けユニットに設置する前に行ってください。
付属のケーブル留めをディスプレイユニット背面の通し穴に通して、電源映像ケーブルを結び付けます。ディスプレイユニットの通風孔を塞がないように、やや弛ませた取付をしてください。通し穴は左右2か所ありますので、どちらか都合のよいほうを使ってください。

手順3:ディスプレイユニットをスタンドに設置する

別売りのフローティングスタンド、テーブルトップスタンドや、壁掛けユニットを必ずご使用のうえ、設置してください。
また、各スタンドごとに設置方法や設置手順が異なります。詳しくは各スタンドや壁掛けユニットの取扱説明書をお読みのうえ、正しい手順に従って設置をしてください。

壁掛けユニットの取り付けは販売店や工事店にご依頼ください。

手順4:デジタルAVユニットに電源映像ケーブルをつなぐ

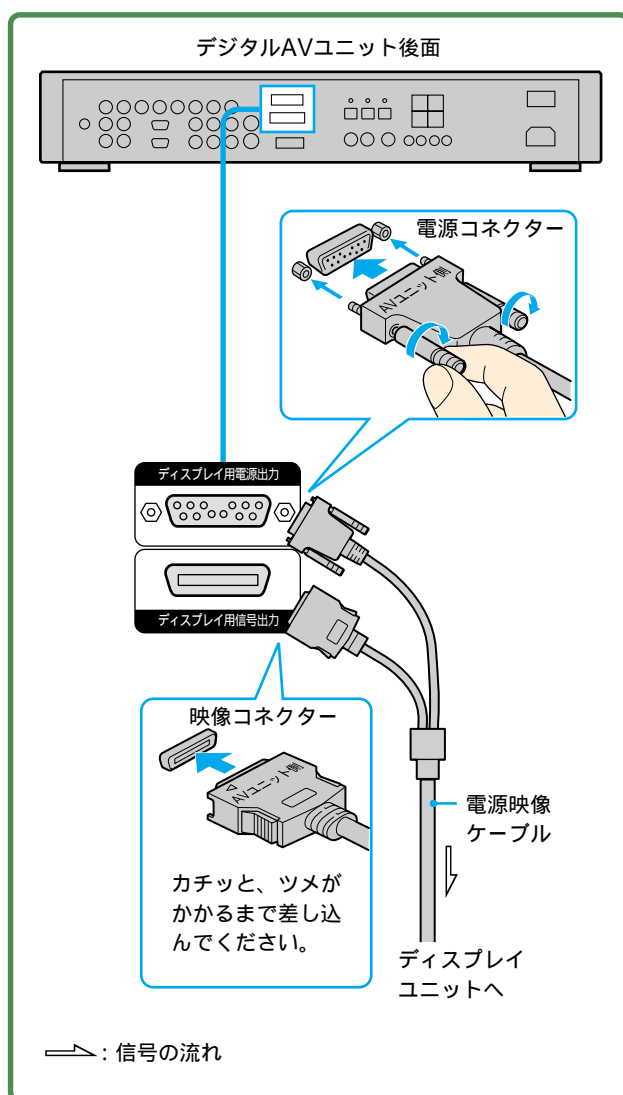
付属の電源映像ケーブルをデジタルAVユニットにつなぐ。

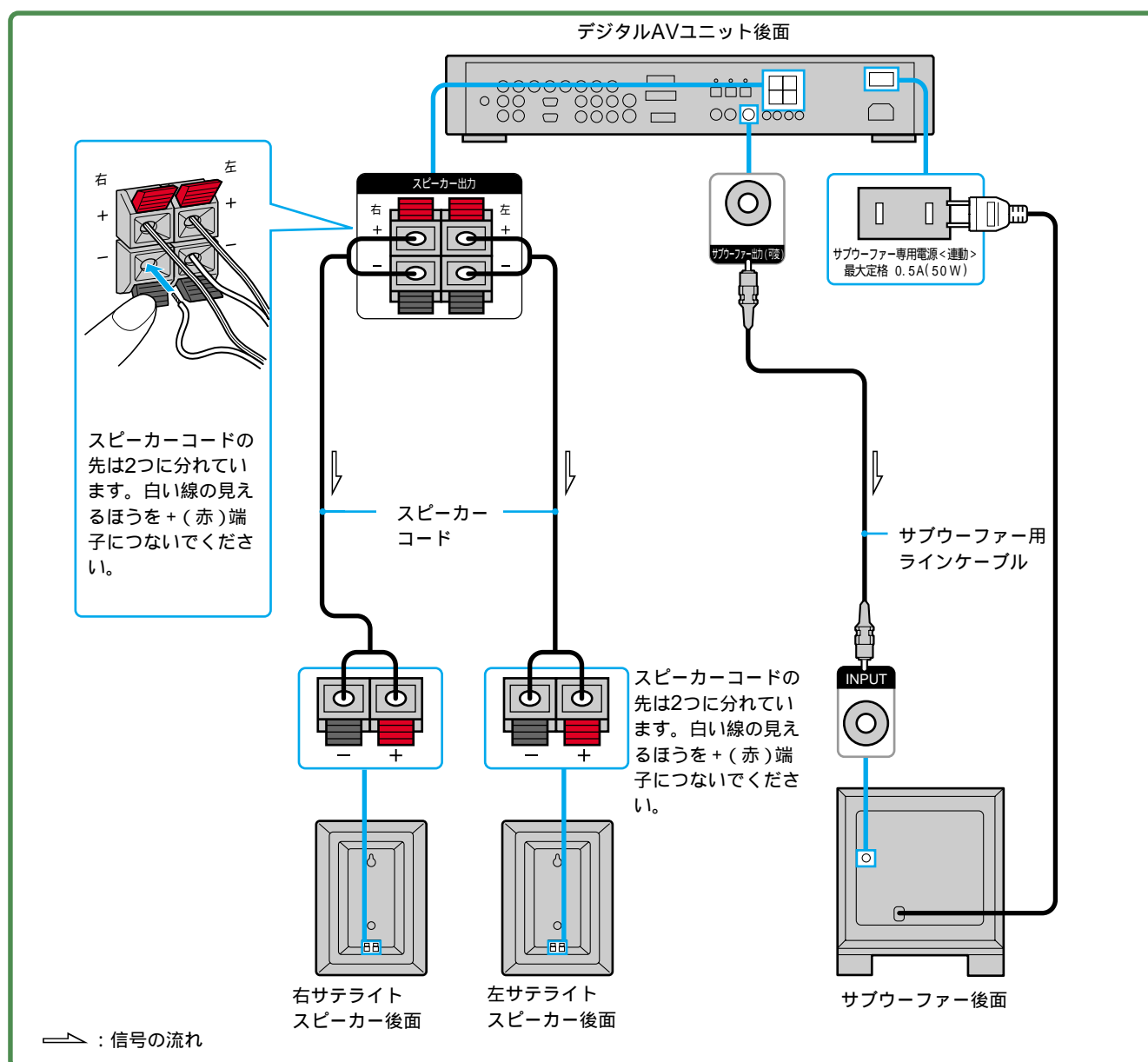
- 「AVユニット側」と書いてあるほうをつないでください。
- 電源コネクターのネジは、がたがでない程度に、指でゆっくりと締めてください。

ちょっと一言

デジタルAVユニットとディスプレイユニットを離して設置するときは、別売りの電源映像ケーブルVMC-HS70を使うと7mまで離すことができます。

テレビの接続と準備

次のページにつづく

手順5:サテライトスピーカーとサブウーファーをつなぐ

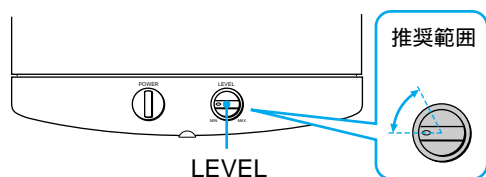
詳しくは、サテライトスピーカーやスピーカースタンドの取扱説明書をご覧ください。
スピーカースタンドによっては、スピーカーコードをスタンドに通すものもありますので、接続する前に、スピーカースタンドの取扱説明書をご覧になって確認してください。

ご注意

- スピーカーコードは必ず、本機の電源を切ってから、つないでください。
- サブウーファー専用電源端子は、付属のサブウーファー専用の端子です。他の電源コードはつながないでください。他機の電源コードをつないだ場合、本機の故障や火災の原因となることがあります。

ちょっと一言

サブウーファーとデジタルAVユニットを離して設置するときは、別売りのスピーカーケーブル(RK-S98)(5m)をつないで、7mに延長できます。その場合は、市販の延長用の電源コードで電源コードも延長してください。

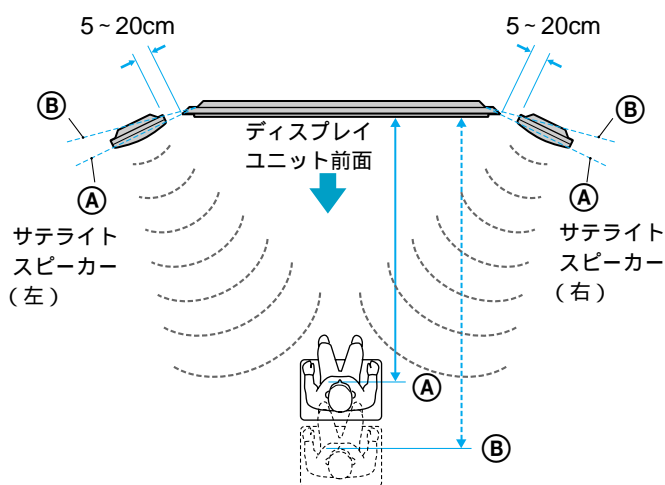
サブウーファーをつないだら

- サテライトスピーカーの近くに設置してください。
- サブウーファーのLEVELつまみを下の図の推奨範囲に合わせてください。

チャンネル設定終了後、お部屋の状況に合わせてお好みの音量に調節してください。

サテライトスピーカーの設置位置

スピーカースタンドを使用する場合

壁に直接取り付けるのに比べ、壁の反射音の効果が少ないため、図のような設置をおすすめします。

ディスプレイユニットとサテライトスピーカーを上から見た図

- ディスプレイユニットとサテライトスピーカーの距離は5〜20cmあける
- サテライトスピーカーは左右等距離に設置する
- 視聴位置に合わせ、サテライトスピーカーの角度を合わせる
  視聴距離が長くなるほど、ディスプレイユニットに対するサテライトスピーカーの角度は浅くなります。
  例）上の図でⒶ→Ⓑに視聴位置を遠ざける場合、サテライトスピーカーの角度はⒶ→Ⓑのようにディスプレイユニットに対して浅くなります。

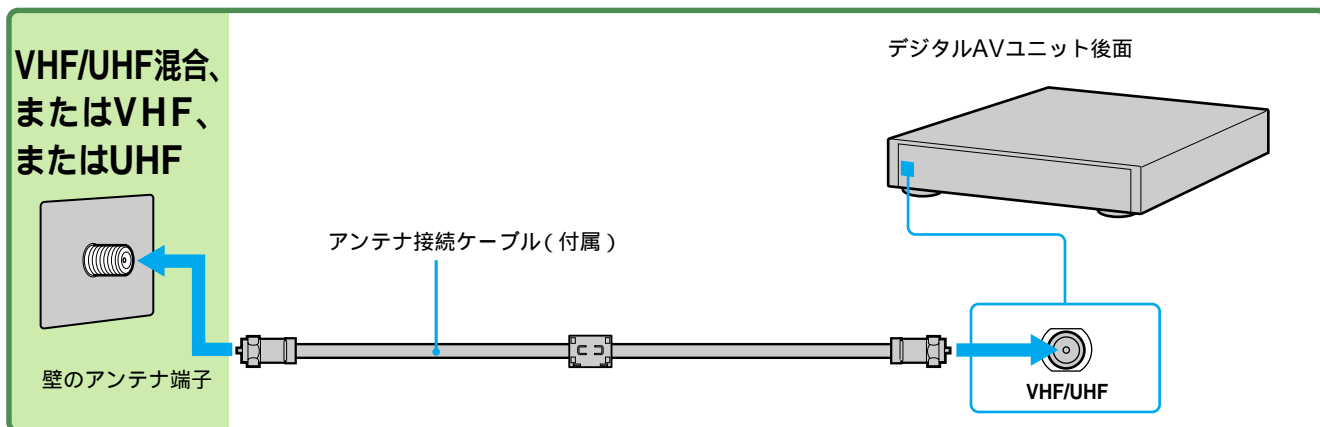
壁に取り付ける場合

市販のネジを壁に付けて、サテライトスピーカーを直接取り付けてください。
別売りの壁掛けユニットを使って取り付けることもできます。
詳しくは、サテライトスピーカーや壁掛けユニットの取扱説明書をご覧ください。

設置したサテライトスピーカーの位置に合わせて音質を設定する

サテライトスピーカーを壁に取り付けた場合やサテライトスピーカーと壁との距離が10cm未満になるときは、メニュー画面の「(設定)」で「サテライトスピーカー位置」を「2」にしてください。（☞50ページ）

手順6:テレビアンテナをデジタルAVユニットにつなぐ

テレビアンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や、使うケーブルによって異なります。下の例のようにつないでください。
当てはまらない場合は、販売店などにご相談ください。

きれいな画像をお楽しみいただくために

本機には、多くのデジタル回路による新テクノロジーが搭載されています。このため、安定した画像をお楽しみいただくためにはアンテナの接続状態がとても重要です。下記のようにアンテナの接続と設置を確実に行い、妨害電波を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

- **本機後面のVHF/UHF端子への接続は、必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。**
- **アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。**
- **室内アンテナ、フィーダー線は特に雑音電波を受けやすいため、使わないでください。**

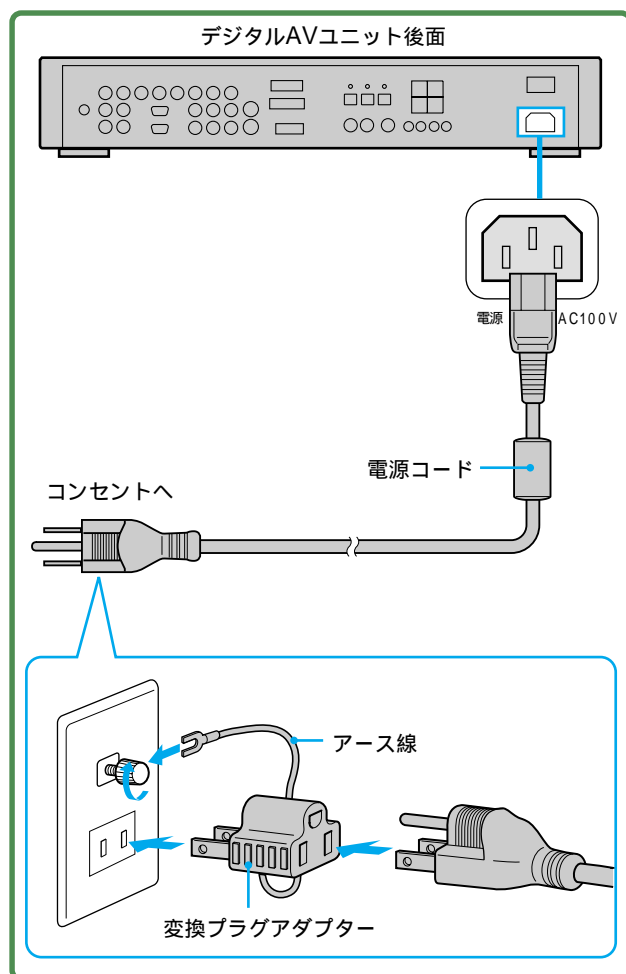
ご注意

フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。万が一、フィーダー線をご使用になる場合は、テレビからできるだけ離してください。

手順7:電源コードとアース線をつなぐ

すべての接続が終わってから、電源コードをデジタルAVユニットにつないでから、コンセントにつなぎます。そのあとでサブウーファーの電源を入れてください。
アースをつなぐ前に、変換プラグアダプターのアース端子の絶縁キャップを外してください。

ご注意

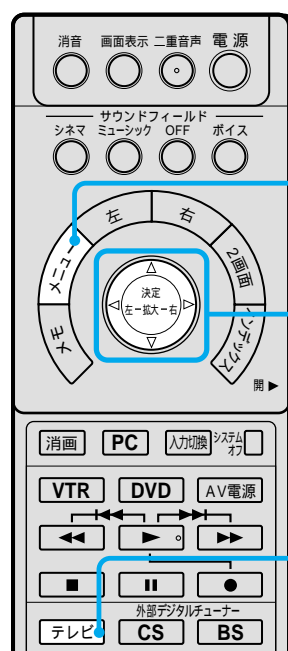
- 必ず、付属の電源コードをご使用ください。
- 壁のコンセントが2芯専用の場合は、必ずアース工事を行ってから、付属の変換プラグアダプターを使用しアースへ接続してください。
  感電の原因となりますので、アース工事は必ず専門業者にご依頼ください。
- 変換プラグアダプターを使うときは、安全のため、コンセントに変換プラグアダプターを差し込む前にアース線をアースへ接続してください。

ご注意

- 変換プラグアダプターをコンセントから外すときは、アース線を最後に外してください。
- ビデオなどの機器をつなぐときは、すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントにつないでください。

手順8:チャンネルを設定する

VHF/UHF放送は、自動でも手動でも受信設定できます。はじめに自動設定することをおすすめします。

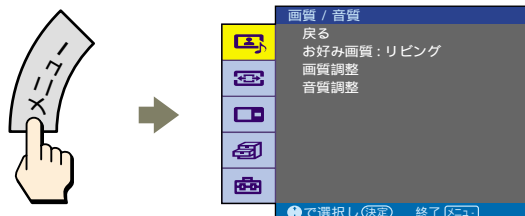
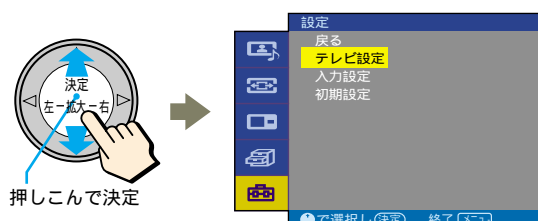
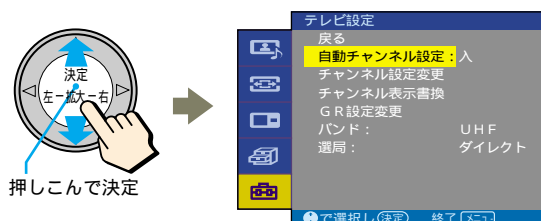
自動設定する

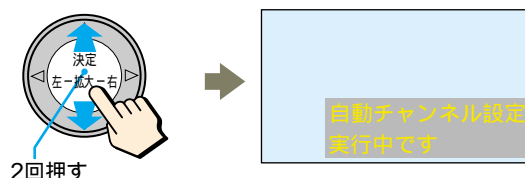
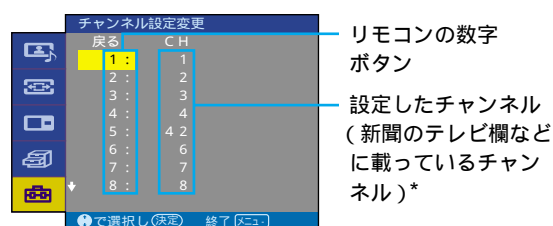
受信できるVHF/UHF放送を、リモコンの数字ボタンに自動的に設定します。
放送のある時間帯に行ってください。
自動設定したチャンネルを変更したり、放送のないチャンネルをとばすときは、☞65~66ページをご覧ください。

1 テレビボタンを押して、テレビのリモコンモードにする

PCモードになっているときはPCボタンを押してPCモードを解除してから、テレビモードにしてください。

テレビの接続と準備

手順8:
チャンネルを設定する（つづき）

2 メニューボタンを押す。

3 △/▽で「(設定)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 △/▽で「テレビ設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

5 「自動チャンネル設定」が選ばれていて（黄色になっていて）、「入」になっていることを確認した後、真ん中を2回押し込んで決定する。

「切」になっているときは、真ん中を押し込んで決定した後、△/▽で「入」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

「自動チャンネル設定実行中です」と表示され、自動的に設定が始まります。
設定が終わると、下のメニューに変わります。

＊ 地域によっては、これまでご覧になっていたチャンネル番号と異なる場合があります。

6 設定されたチャンネルを確認する。

手動で設定し直したいときは

☞65ページをご覧ください。

ゴーストの少ない画像にしたいときは

☞69ページをご覧ください。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

チャンネル設定を途中でやめるには

手順5で「自動チャンネル設定実行中です」のメッセージが出ている間に、リモコンのメニューボタンを押す。

ケーブルテレビを見るには

ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要です。なお、ケーブルテレビを受信できない地域もあります。本機では、C13～C35までのケーブルテレビチャンネルを受信できます。
詳しくは、お近くのケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

1 ダイレクト選局になっていることを確認する（☞67ページ）。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「(設定)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 △/▽で「テレビ設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

5 △/▽で「バンド」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

6 △/▽で「CATV」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

7 △/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

8 △/▽でケーブルテレビを映したいリモコンの数字ボタンを選び、真ん中を押し込んで決定する。

9 △/▽で「CH」の数字をケーブルテレビのチャンネルにし、真ん中を押し込んで決定する。

ケーブルテレビのチャンネルには、表示の前に「C」がつきます。
例:C24

10 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

- ケーブルテレビとUHF放送を同時に受信したり、チャンネル設定したりすることはできません。
- ケーブルテレビで「10キー選局」（☞67ページ）をするときは、自動設定で受信設定をした後、「10キー選局」に切り換えてください。

手動設定する

自動設定したチャンネルを変えたり、表示を書き換えたり、放送のないチャンネルをとばすことができます。
1～12のチャンネル数字ボタンのすべてを、手動で設定できます。

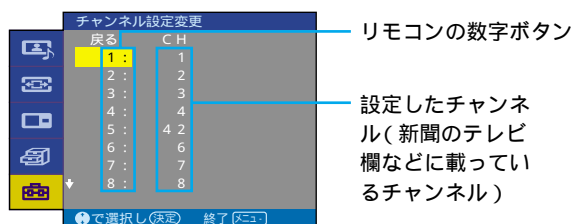
リモコンの数字ボタンに設定したチャンネルを変えるには

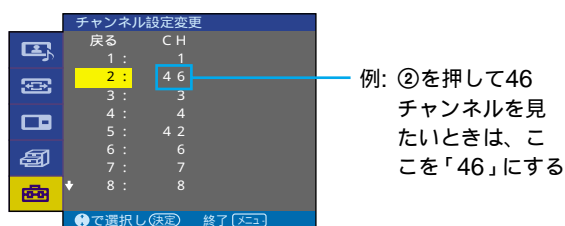
リモコンの数字ボタンに好きなチャンネルが映るように変えられます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 △/▽で「(設定)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「テレビ設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 △/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

5 △/▽で変更したいリモコンの数字ボタンを選び、真ん中を押し込んで決定する。

6 △/▽で設定したチャンネルを変更し、真ん中を押し込んで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

手順8:
チャンネルを設定する（つづき）

ちょっと一言
手動設定でケーブルテレビの受信の設定をするときは、メニューの「(設定)」で、「テレビ設定」を選び、「バンド」を「CATV」にしてください。詳しくは、（☞65ページ）をご覧ください。

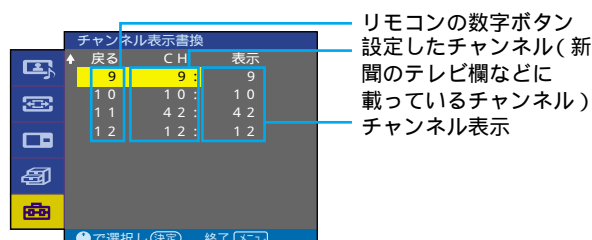
チャンネル表示を書き換えるには

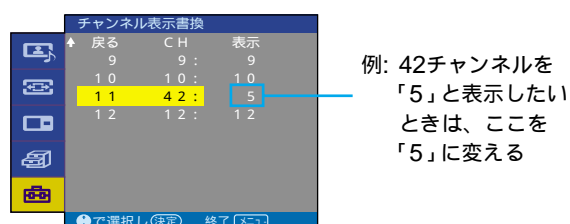
画面に出るチャンネル表示は、新聞のテレビ欄などに載っているチャンネルになっています。これを、好きなチャンネル番号などに書き換えることができます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 △/▽で「(設定)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「テレビ設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 △/▽で「チャンネル表示書換」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

5 △/▽で書き換えたいチャンネルを選び、真ん中を押し込んで決定する。

6 △/▽でチャンネル表示を書き換え、真ん中を押し込んで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言
チャンネルと表示が1対1で対応するように、チャンネル表示を書き換えてください。複数のチャンネルを同一のチャンネル表示にすることもできますが、おすすめしません。

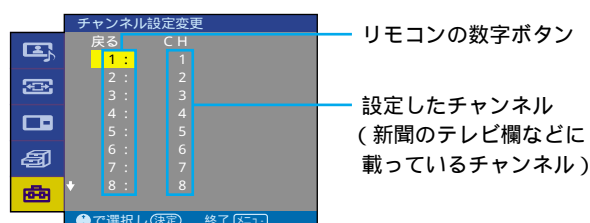
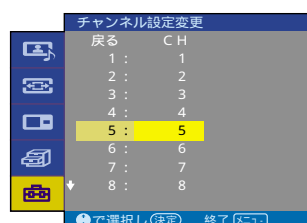
放送のないチャンネルをとばすには

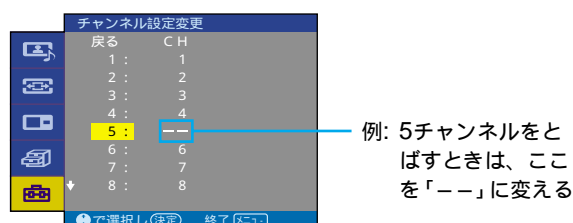
チャンネル+/−ボタンでチャンネルを選ぶときや、チャンネルを一覧表示する（☞17ページ）ときに、放送のないチャンネルをとばす（選局しない）ように設定できます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 △/▽で「(設定)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「テレビ設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

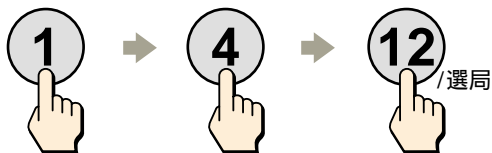
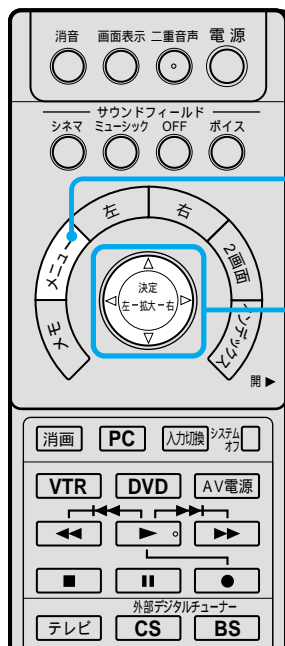
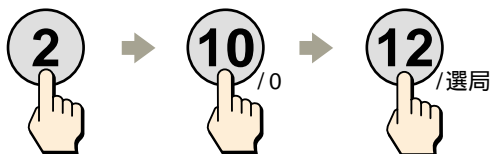
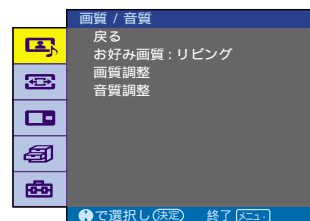
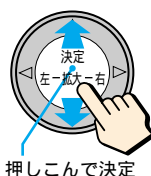
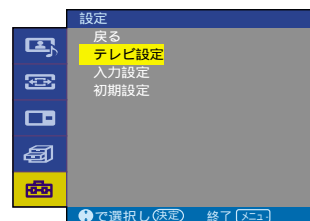
4 △/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

5 △/▽でとばしたいチャンネルを選び、真ん中を押し込んで決定する。

例: 5チャンネルをとばすときは、ここを選ぶ

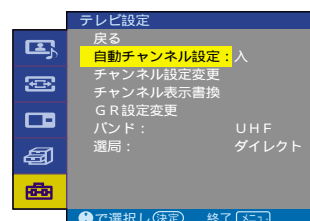
6 △/▽で「CH」を「– –」に変えて、真ん中を押し込んで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ（10キー選局）

お買い上げ時は「ダイレクト選局」になっています。「ダイレクト選局」は、リモコンの数字ボタンと同じチャンネルが映る選局方法で、受信できるチャンネル数は最大12局です。
そのため、ケーブルテレビなど見たいチャンネルの数が12局を越えるときは、「10キー選局」に変えてください。
「10キー選局」では、数字ボタンを十の位・一の位の順に押した後、⑫（＝選局）ボタンを押して、チャンネルを選びます。0は⑩ボタンを使います。

ちょっと一言
数字ボタンを押した後、⑫（＝選局）ボタンを押さないで3秒たつと、自動的にチャンネルが変わります。

例） 14**チャンネル**

20**チャンネル**

1 **メニューボタンを押す。**

2 **△/▽で「(設定)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

3 **△/▽で「テレビ設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

テレビの接続と準備

次のページにつづく

数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ（つづき）

4 **△/▽で「選局」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

5 **△/▽で「10キー」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ダイレクト選局に戻すには

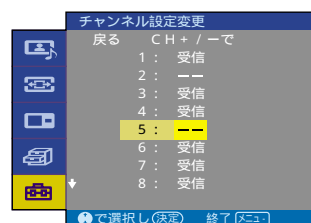
手順5で「ダイレクト」を選ぶ。

ご注意

- チャンネルを自動設定する（☞63ページ）ときは、ダイレクト選局に戻してから行ってください。
- ケーブルテレビのときは、手順3（☞67ページ）の後に下記の操作をした後、手順4以降を行ってください。
  1. △/▽で「バンド」を選び、真ん中を押し込んで決定する。
  2. △/▽で「CATV」を選び、真ん中を押し込んで決定する。
  3. 手順4以降を行う。

チャンネル＋/－ボタンで選ぶ放送を設定するには

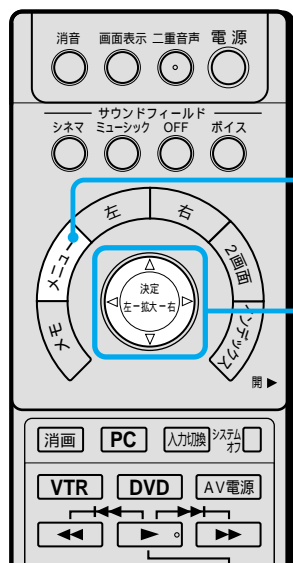
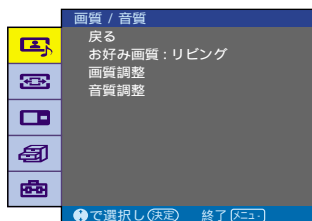
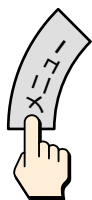
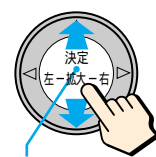
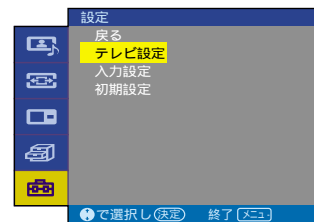
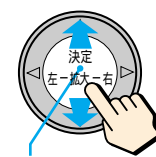
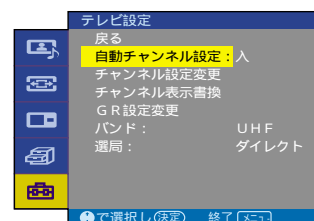
お買い上げ時は1〜12チャンネルが順に選ばれるように設定されています。ケーブルテレビなどでこれ以外のチャンネルを選ぶときや、放送がないチャンネルをとばすときは、次のように設定します。

1. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **△/▽で「（設定）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
3. **△/▽で「テレビ設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
4. **△/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
5. **△/▽で見たいチャンネル、またはとばしたいチャンネルを選び、真ん中を押し込んで決定する。**
6. **△/▽で見たいチャンネルのときは「受信」を、とばしたいチャンネルのときは「– –」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

7. **複数のチャンネルを設定するときは、手順5と6をくり返す。**
8. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ゴーストの少ない画像にする

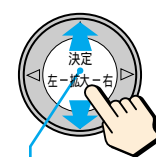
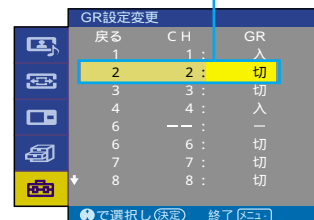
（ゴースト・リダクション）

本機では、建物や地形などによる妨害波で起こるゴーストを、放送局から送信されるゴースト除去基準信号を感知して、少なくする（リダクション）ように、チャンネルごとに設定できます。
「GR」はゴースト・リダクションの略です。

ご注意
ビデオ機器の再生画像などテレビにつないだ機器の映像に対しては設定できません。

1 **メニューボタンを押す。**

2 **△/▽で「(設定)」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

3 **△/▽で「テレビ設定」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

4 **△/▽で「GR設定変更」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

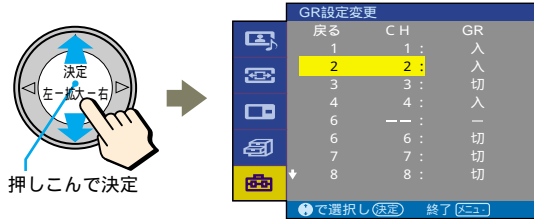
設定したチャンネル（新聞のテレビ欄などに載っているチャンネル）
10キー選局のときは、「受信」または「−−」と表示されます。

5 **△/▽で設定を変えたいチャンネルを選び、真ん中を押し込んで決定する。**

例: 2チャンネルのGR設定を変えたいときは、ここを選ぶ

テレビの接続と準備

次のページにつづく

ゴーストの少ない画像にする（ゴースト・リダクション）（つづき）

6 △/▽で「入」または「切」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

7 複数のチャンネルを設定するときは、手順5と6をくり返す。

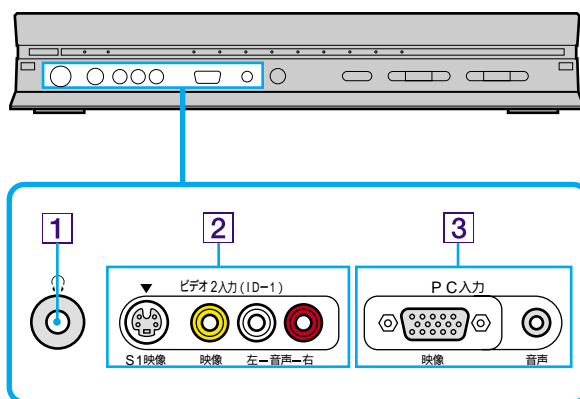
8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

- ゴースト・リダクションは、チャンネルを切り換えた後、数秒してから働き、大きなゴーストから順々に少なくしていきます。このとき、画像が一瞬またたくことがあります。
- 受信している電波が弱いときは、大きなゴーストに働くと別のゴーストが起きることがありますが、徐々に少なくしていきます。
- アンテナの設置や調整のときは「GR」を「切」にすると、ゴーストの少ない方向を確認できます。
- 次のときは効果が十分に出ないため、「GR」を「切」にしてください。
  - ゴーストが大きすぎるとき
  - ゴーストが同時に10波以上起きているとき
  - 飛行機に反射して起きるゴーストなど、一定でないゴーストのとき
  - 室内アンテナなどアンテナの設置や調整が適切に行われていないとき
- 2画面（☞14ページ）のときは左画面のみ、インデックス画面（☞17ページ）のときは親画面のみ、ゴースト・リダクションが働きます。

他機との接続

ここでは、接続端子の名前とはたらき、およびビデオデッキなど他の機器のつなぎかたについて説明しています。
テレビを見るための接続と準備については、「テレビの接続と準備」（☞56～70ページ）をご覧ください。

接続端子の名前とはたらき

☞のページに詳しい説明があります。

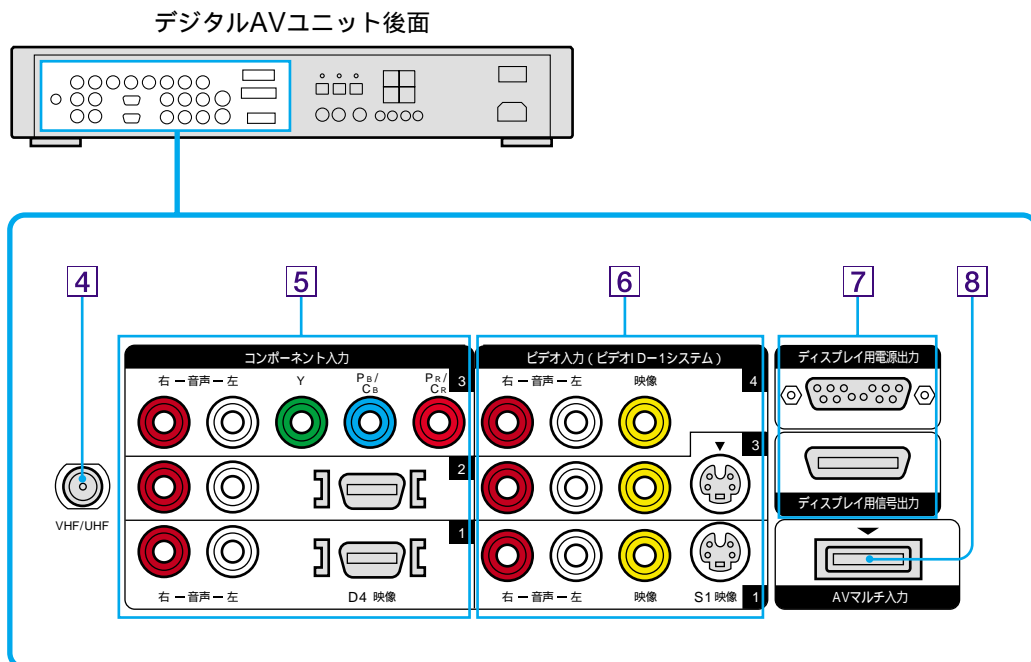
1 **ヘッドホン端子**
ヘッドホンをつなぎます。

2 **ビデオ2入力端子（S1映像/映像/音声）（ID-1システム）（☞83ページ）**
テレビゲームやビデオカメラレコーダーなどのビデオ出力端子につなぎます。

3 **PC入力端子（☞86ページ）**
パソコンをつなぎます。

次のページにつづく

接続端子の名前とはたらき（つづき）

デジタルAVユニット後面

4 VHF/UHFアンテナ端子（☞62ページ）

VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルやケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

5 コンポーネント1〜3入力端子☞76、78、80、87ページ）

D4映像入力端子（コンポーネント1、2入力端子）
BSデジタルチューナーやデジタルCSチューナーなどのD映像出力端子につなぎます。

映像入力端子（コンポーネント3入力端子）
DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ出力端子（Y/CB/CRまたは、Y/B-Y/R-Y、Y/PB/PR）、またはハイビジョン機器の映像出力端子につなぎます。

音声入力端子
コンポーネント1、2入力端子ではBSデジタルチューナーやデジタルCSチューナー、ビデオ機器の音声出力端子に、コンポーネント3入力端子ではDVDプレーヤーまたはハイビジョン機器の音声出力端子につなぎます。

D端子について
BSデジタル放送*には次のような信号フォーマットがあります。
* BSデジタル放送の受信には、別途、BSデジタルチューナーが必要となります。

信号フォーマット	有効走査線数	走査線数
480i（525i）	480本	525本
480p（525p）	480本	525本
1080i（1125i）	1080本	1125本
720p（750p）	720本	750本

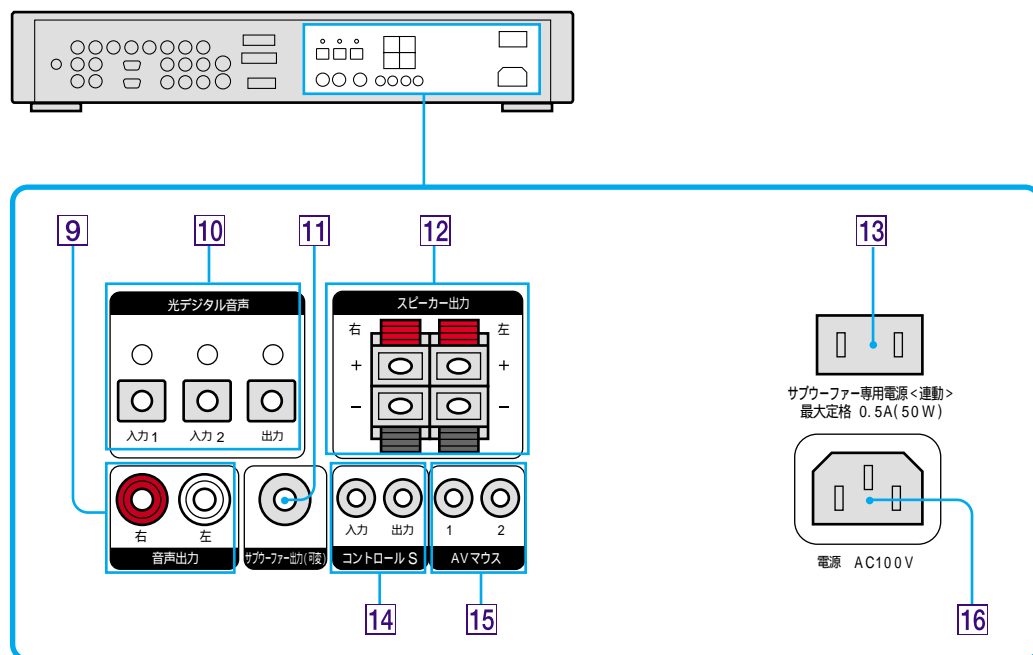
iはインターレース：飛び越し走査、pはプログレッシブ：順次走査の略です。（☞98ページ）
（ ）内は走査線数で数えたときの別称です。

BSデジタル放送の信号フォーマットに対応するD端子の種類は次のようになっています。

D端子の種類とその対応信号フォーマット

D端子の種類	480i	480p	1080i	720p
D1端子	○	×	×	×
D2端子	○	○	×	×
D3端子	○	○	○	×
D4端子	○	○	○	○

本機にはD4映像入力端子がついています。BSデジタルチューナーの出力設定については、BSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

①コンポーネント1、2入力端子につないだ機器の画像について（HDモード）
コンポーネント1、2入力端子では、D4映像入力端子からの識別制御信号を自動的に判別して、D4映像入力端子につないだMUSEデコーダーからの従来のハイビジョン放送（BS9）と、D4映像入力端子につないだBSデジタルチューナーなどからのデジタルハイビジョン（HD）放送の画像を自動的に切り換えます（「HDモード:オート」）。お買い上げ時は、「HDモード:オート」になっているため、設定を変える必要はありません。
また、D4映像入力端子からの識別制御信号がないときの画像は、「HDモード:オート」のとき、有効走査線数1035本の画像で表示します。
なお、メニューの「(各種切換)」で、「HDモード」を次のように固定することもできます。
• 従来のハイビジョン放送（BS9）（有効走査線数:1035本）に固定したいときは、「HDモード:1035」にする。
• デジタルハイビジョン（HD）放送*（有効走査線数:1080本）に固定したいときは、「HDモード:1080」にする。
* デジタルハイビジョン（HD）放送は、1080iと720pの信号フォーマットでの放送のことです。

②**コンポーネント3入力端子につないだ機器の画像について（HDモード）**
接続するハイビジョン機器に合わせて、「HDモード:1035」または「HDモード:1080」に切り換えてください。お買い上げ時は、「HDモード:1080」に設定されています。識別制御信号を自動的に判別することはできません。

6 ビデオ1、3、4入力端子（S1映像/映像/音声）（ID-1システム）（☞75、76、78、79、81、83ページ）
ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

7 ディスプレイ用電源出力端子/ディスプレイ用信号出力端子（☞59ページ）
付属の電源映像ケーブルを使って、ディスプレイユニットのディスプレイ用電源入力端子/ディスプレイ用信号入力端子とつなぎます。

8 AVマルチ入力端子（RGB）（☞82ページ）
別売りのAVマルチケーブル（VMC-AVM250）を使って、“ プレイステーション 2 ”または“ プレイステーション ”（PS one）および“ プレイステーション ”のAVマルチ出力端子につなぎます。RGB接続になり、よりきれいな映像でゲームを楽しめます。

9 音声出力端子（☞84、85ページ）
オーディオ機器の音声入力端子につなぎます。

10 光デジタル音声端子（入力1、2/出力）（☞76、78、79、80、81、84、85ページ）

入力1、2端子
DVDプレーヤーやBSデジタルチューナー、デジタルCSチューナーなどの光デジタル音声出力端子とつなぎます。

出力端子
オーディオ機器の光デジタル音声入力端子につなぎます。
現在見ている画面の入力で使われている光デジタル音声1または2入力端子からの信号をそのまま出力します。
メニューの「入力設定」で「光デジタル音声」が「なし」または設定していないときは出力できません。アナログの音声出力端子からのみ音声が出ます。

11 サブウーファー出力（可変）端子（☞60ページ）
付属のサブウーファー用ラインケーブルでサブウーファーのINPUT端子とつなぎます。

12 スピーカー出力端子（☞60ページ）
付属のスピーカーコードでサテライトスピーカーをつなぎます。

13 サブウーファー専用電源（連動）端子（☞60ページ）
サブウーファーの電源コードをつなぎます。
ご注意
サブウーファー専用電源端子は、付属のサブウーファー専用の端子です。他機の電源コードはつながないでください。他機の電源コードをつないだ場合、本機の故障や火災の原因となることがあります。

14 コントロールS端子（☞21、27、76ページ）

入力端子
他機のコントロールS出力端子につないで、他機から本機を操作できます。

出力端子
他機のコントロールS入力端子につないで、本機にリモコンを向けて他機を操作できます*。
* 本機の電源が入っているとき、または電源/スタンバイ/パワーセーブランプが赤く点灯しているときに限ります。本体の電源が入っていない（電源/スタンバイ/パワーセーブランプが点灯していない）ときは、このような操作はできません。

15 AVマウス1、2接続端子（☞21、27~28ページ）
付属のAVマウスをつなぎます。

16 電源（AC 100V）入力端子（☞63ページ）
付属の電源コードをつなぎます。

ビデオをつなぐ

ビデオデッキ、ビデオカメラ、またはレーザーディスクプレーヤーなどをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

どの映像端子につなぐか迷ったときは

よりよい画質でご覧いただくために、下表の端子につないでください。
つなぐ機器にS映像端子がない場合は、映像端子につなぎます。

つなぐ機器	つなぐ端子
レーザーディスクプレーヤー *1	映像
ビデオデッキ*2 ビデオカメラの再生	S1映像
BSデジタルチューナー	D映像
デジタルCSチューナー*3	S1映像
DVDプレーヤー*4	コンポーネント映像 Y P_B/C_B P_R/C_R
テレビゲーム	S1映像

*1 三次元Y/C分離回路搭載のレーザーディスクプレーヤーのときは、接続による画質の差はほとんど生じません。再生モードにはノーマルを選び、デジタルで再生しないでください。詳しくは、レーザーディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

*2 TBC（タイムベースコレクター）内蔵ビデオデッキでNTSC標準信号化できる場合も含みます。

*3 D映像出力端子付きのデジタルCSチューナーのときは、本機のコンポーネント1または2（D4映像）入力端子につないでください（☞78ページ）。

*4 コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは、本機のビデオ1〜3入力のS1映像端子につないでください（☞81ページ）。

本機ビデオ1〜3入力のS1映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは

ビデオの映像信号をどちらの端子から入力するかを、ビデオ入力ごとにメニュー画面で設定できます。お買い上げ時は、S1映像入力端子から入力された画像が映ります。

1 **入力切換用のボタンをくり返し押して、切り換えたいビデオ入力を選ぶ。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **△/▽で「（各種切換）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

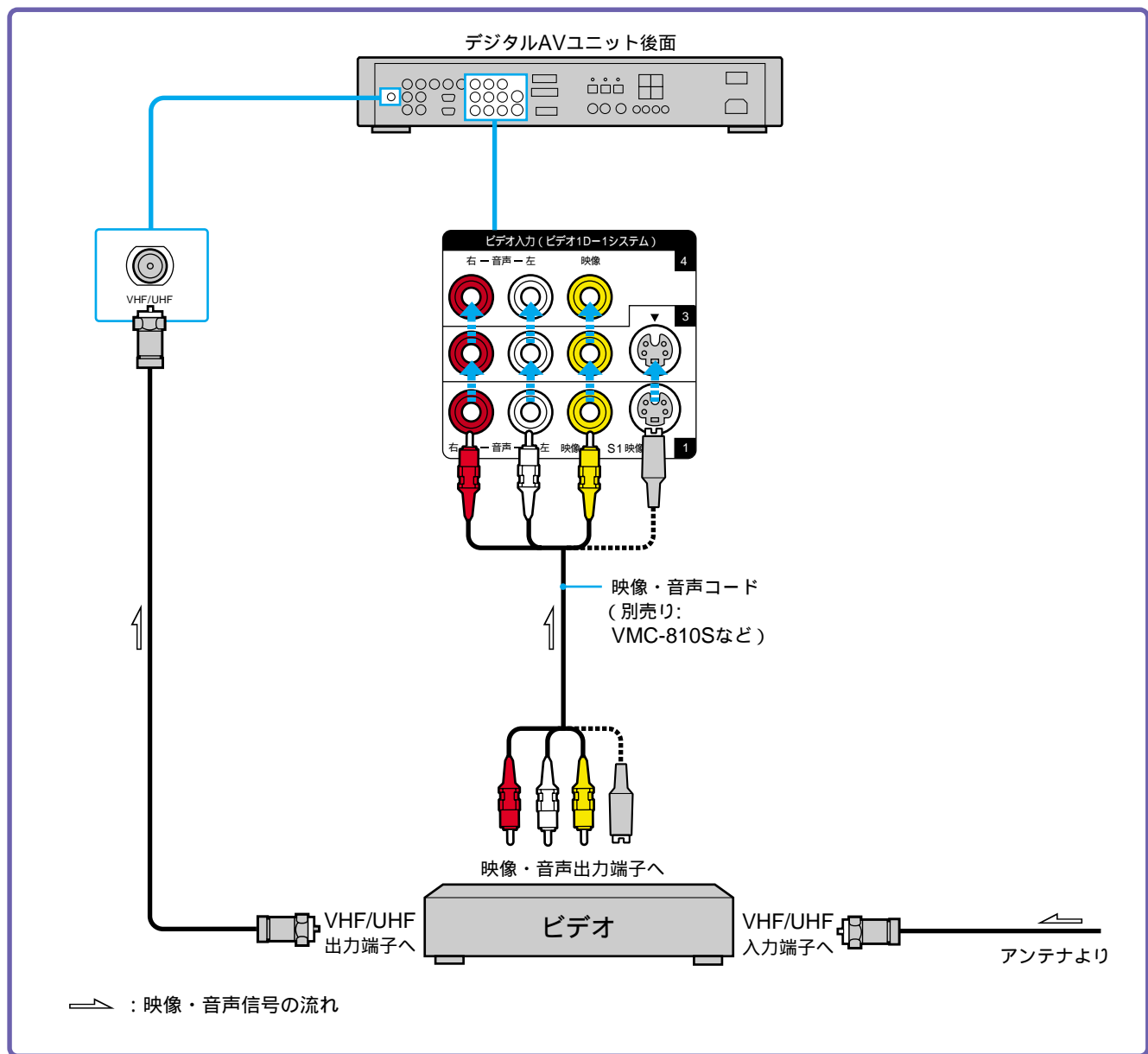
4 **△/▽で「S映像」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**

5 **S1映像入力端子から入力された画像を見るときは**

△/▽で「入」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

映像入力端子から入力された画像を見るときは

△/▽で「切」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ビデオを見るには

入力切換ボタンを繰り返し押して、ビデオをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」のいずれか）を表示させる。詳しくは、☞33ページをご覧ください。
ビデオの操作については、☞29ページをご覧ください。

また、リモコンのメーカー設定（☞24ページ）と本機の入力設定（☞26ページ）を行うと、VTRボタンを押すだけで、ビデオをつないだ入力に切り換えることができます。

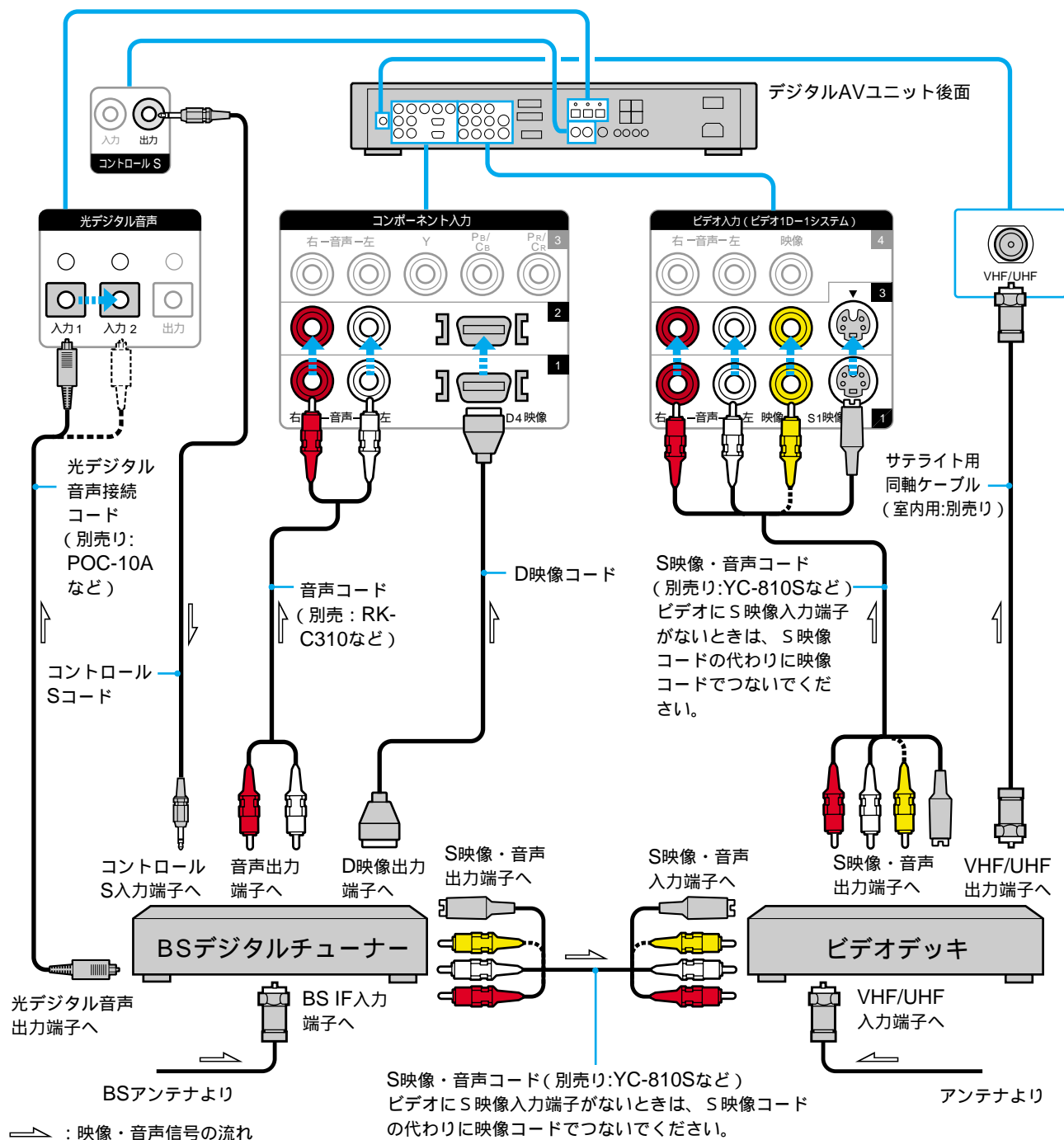
ご注意

ビデオにアンテナをつなぐ場合や、テレビのVHF/UHF端子とビデオのVHF/UHF出力端子をつなぐ場合は必ず、同軸ケーブルをご使用ください。300Ωフィーダー線でつなぐと、雑音電波の影響を受けやすくなるので、使わないでください。

ちょっと一言

- 光デジタル音声端子をつないだときは、メニューの「入力設定」で「光デジタル音声」を設定してください。（☞26ページ）
- 光デジタル音声1または2入力端子とコンポーネント1～3入力やビデオ1～4入力の音声入力端子を両方ともつないだ場合は、光デジタル音声1または2入力端子からの音声信号が優先されて選ばれます。光デジタル音声1または2入力端子からの音声信号がないときは、アナログ音声信号（コンポーネント1～3入力やビデオ1～4入力の音声端子からの音声信号）が選ばれます。

BSデジタルチューナーをつなぐ

BSデジタル放送は2000年12月から本放送が開始されました。本機はBSデジタルチューナーをつなげます。
BSデジタルチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

＊ コントロールS端子をつなげるのは、コントロールS入力端子のあるソニー製のBSデジタルチューナーだけです。

ご注意

一部のBSデジタルチューナーには、光デジタル音声出力端子から文字スーパーやBSデータでの効果音（ピンポンとかブーなど）が出力されないものや、二重音声切換ができないものがあります。その場合は、アナログ音声コードで接続してください。お使いのBSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧になり、二重音声切換に対応しているかご確認ください。

光デジタル音声端子をつないだときは

- メニューの「入力設定」で「光デジタル音声」を設定してください。（☞26ページ）
- 本機は、BSデジタル放送のデジタル音声フォーマットであるAAC5.1chの音声信号には対応していません。BSデジタルチューナーの音声出力を「PCM2ch」に設定してください。「AAC5.1ch」に設定してあると音声が出ないことがあります。

ちょっと一言

光デジタル音声1または2入力端子とコンポーネント1〜3入力やビデオ1〜4入力の音声入力端子を両方ともつないだ場合は、光デジタル音声1または2入力端子からの音声信号が優先されて選ばれます。光デジタル音声1または2入力端子からの音声信号がないときは、アナログ音声信号（コンポーネント1〜3入力やビデオ1〜4入力の音声端子からの音声信号）が選ばれます。

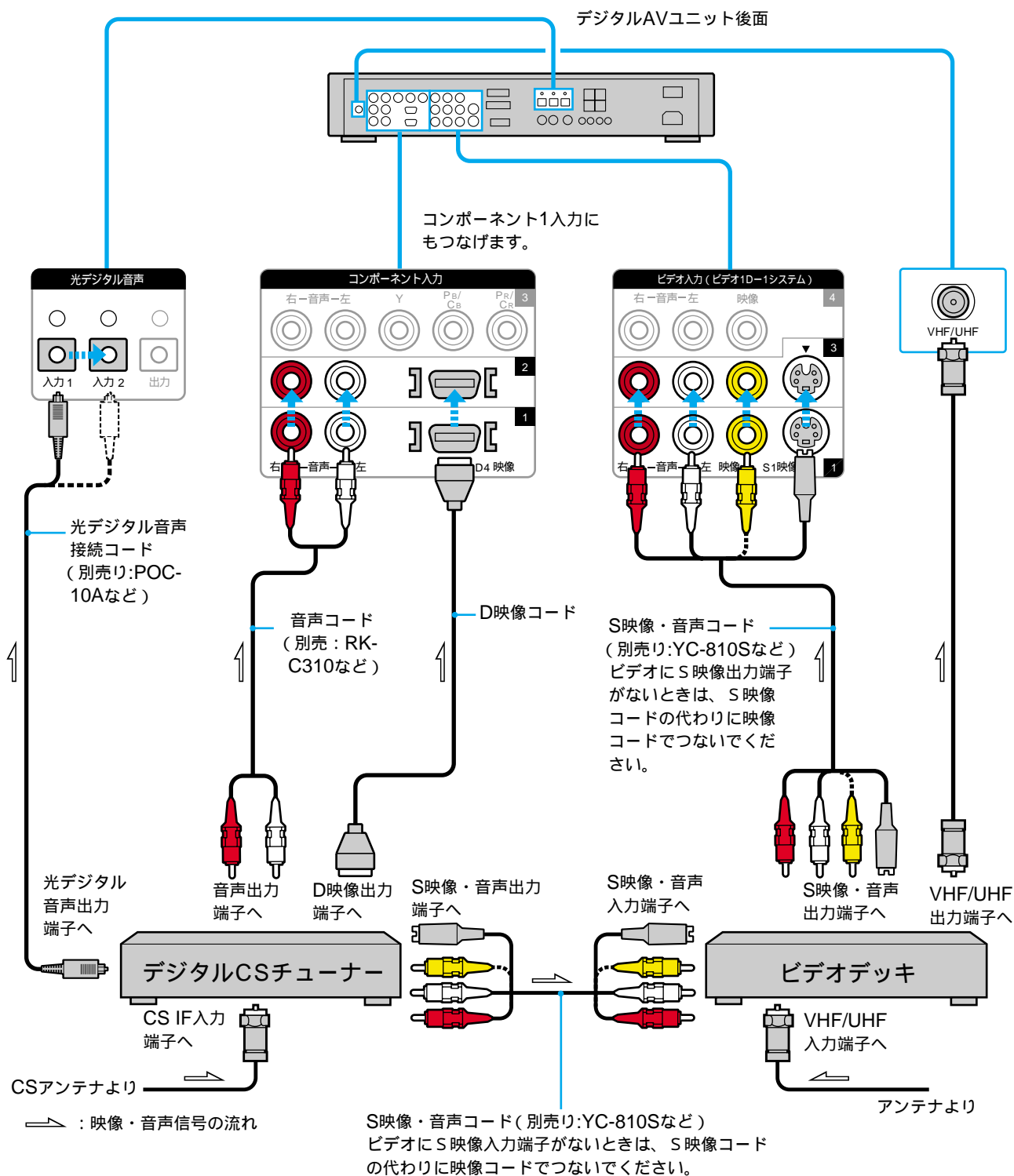
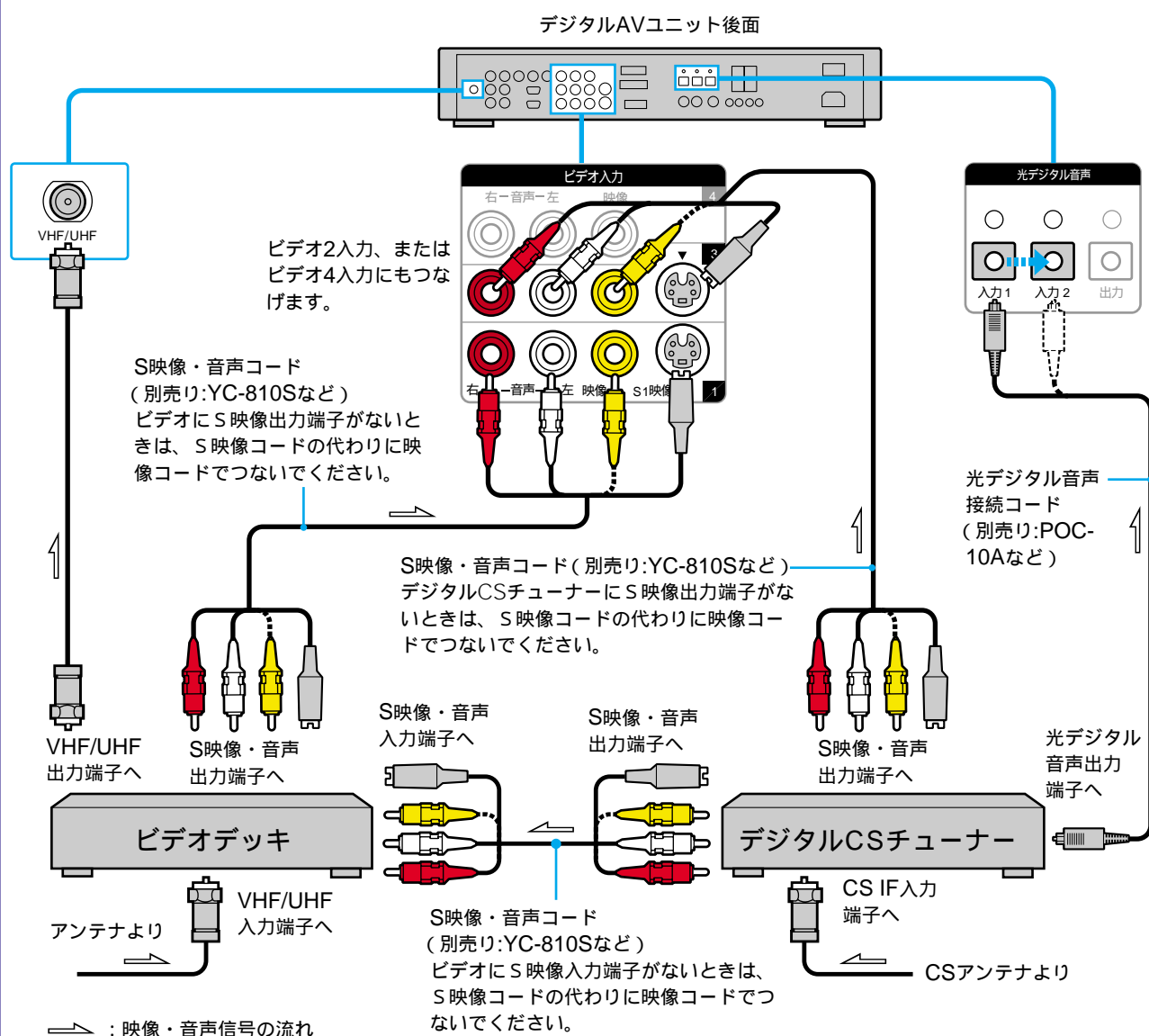
BSデジタル放送を見るには

入力切換ボタンを繰り返し押して、BSデジタルチューナーをつないだコンポーネント入力（「コンポーネント1」〜「コンポーネント3」のいずれか）を表示させる。詳しくは、☞33ページをご覧ください。
BSデジタルチューナーの操作については、☞31ページをご覧ください。

また、リモコンのメーカー設定（☞24ページ）と本機の入力設定（☞26ページ）を行うと、BSボタンを押すだけで、BSデジタルチューナーをつないだ入力に切り換えることができます。

デジタルCSチューナーをつなぐ

デジタルCS放送を見るには、デジタルCS放送局と受信契約が必要です。詳しくはデジタルCS放送局へお問い合わせください。
デジタルCSチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

D映像出力端子のあるデジタルCSチューナーのときは

CSデジタル放送を見るには

入力切換ボタンを繰り返し押して、デジタルCSチューナーをつないだ入力（「コンポーネント1」～「コンポーネント3」または「ビデオ1」～「ビデオ4」のいずれか）を表示させる。詳しくは、☞33ページをご覧ください。
デジタルCSチューナーの操作については、☞32ページをご覧ください。

また、リモコンのメーカー設定（☞24ページ）と本機の入力設定（☞26ページ）を行うと、CSボタンを押すだけで、デジタルCSチューナーをつないだ入力に切り換えることができます。

光デジタル音声端子をつないだときは

メニューの「入力設定」で「光デジタル音声」を設定してください。（☞26ページ）

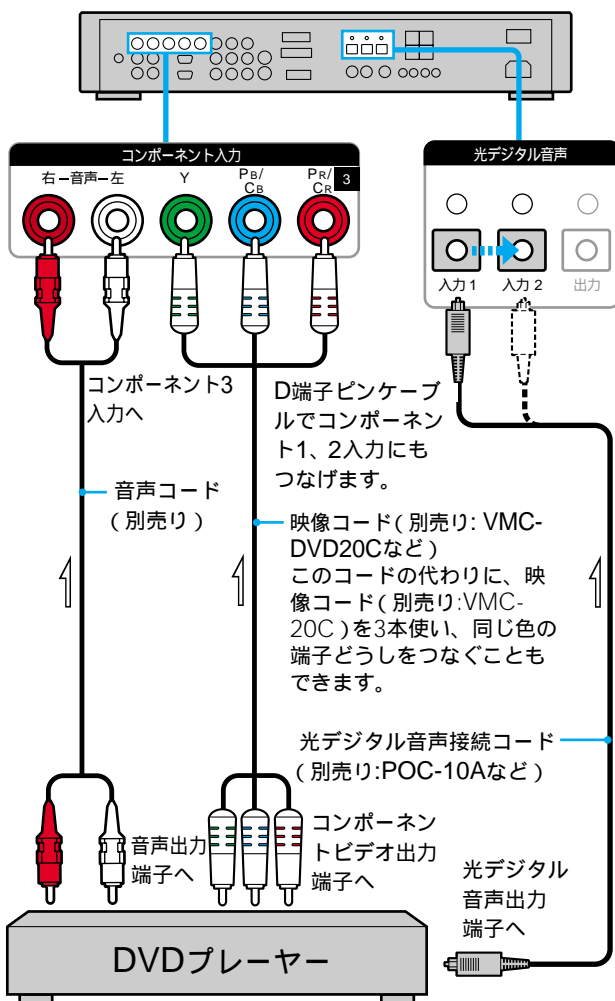
ちょっと一言

光デジタル音声1または2入力端子とコンポーネント1～3入力やビデオ1～4入力の音声入力端子を両方ともつないだ場合は、光デジタル音声1または2入力端子からの音声信号が優先されて選ばれます。光デジタル音声1または2入力端子からの音声信号がないときは、アナログ音声信号（コンポーネント1～3入力やビデオ1～4入力の音声端子からの音声信号）が選ばれます。

DVDプレーヤーをつなぐ

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーは本機のコンポーネント入力端子につなぐと、より高画質の画像をお楽しみいただけます。
DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

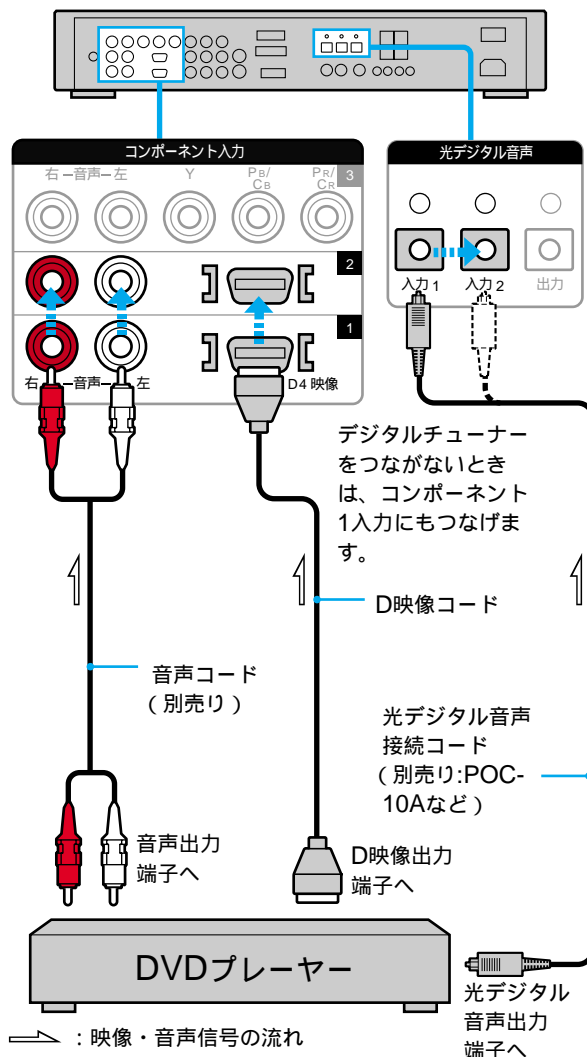
コンポーネントビデオ出力端子にD端子のないDVDプレーヤーのときは

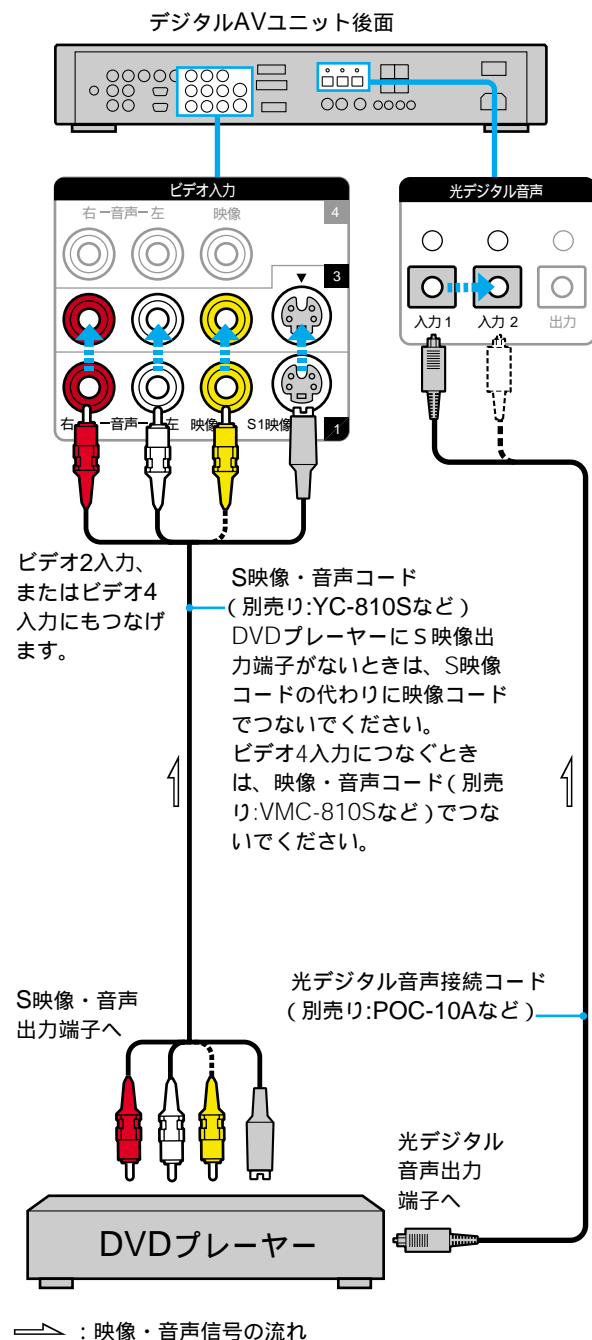
コンポーネントケーブルでつなぐとき

DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ映像端子は、メーカーにより色や名前が異なります。右表のようにつないでください。

DVDプレーヤーの映像端子	本機の映像端子
Y端子	Y端子
CB、B-Y、PB端子	PB/CB端子
CR、R-Y、PR端子	PR/CR端子

⟹ ：映像・音声信号の流れ

コンポーネントビデオ出力端子にD端子のあるDVDプレーヤーのときは

D端子ケーブルでつなぐとき

⟹ ：映像・音声信号の流れ

D映像コードの代わりに、映像コード（別売り: VMC-DVM250など）を使ってY端子、CB端子、CR端子とD端子をつなぐこともできます。

DVDを見るには

入力切換ボタンを繰り返し押して、DVDプレーヤーをつないだ入力（「コンポーネント1」～「コンポーネント3」または「ビデオ1」～「ビデオ4」のいずれか）を表示させる。詳しくは、☞33ページをご覧ください。
DVDプレーヤーの操作については、☞30ページをご覧ください。

また、リモコンのメーカー設定（☞24ページ）と本機の入力設定（☞26ページ）を行うと、DVDボタンを押すだけで、DVDプレーヤーをつないだ入力に切り換えることができます。

光デジタル音声端子をつないだときは

メニューの「入力設定」で「光デジタル音声」を設定してください。（☞26ページ）

ちょっと一言

光デジタル音声1または2入力端子とコンポーネント1～3入力やビデオ1～4入力の音声入力端子を両方ともつないだ場合は、光デジタル音声1または2入力端子からの音声信号が優先されて選ばれます。光デジタル音声1または2入力端子からの音声信号がないときは、アナログ音声信号（コンポーネント1～3入力やビデオ1～4入力の音声端子からの音声信号）が選ばれます。

“ プレイステーション 2 ”や “ プレイステーション ”(PS one) および“ プレイステーション ” をつなぐ

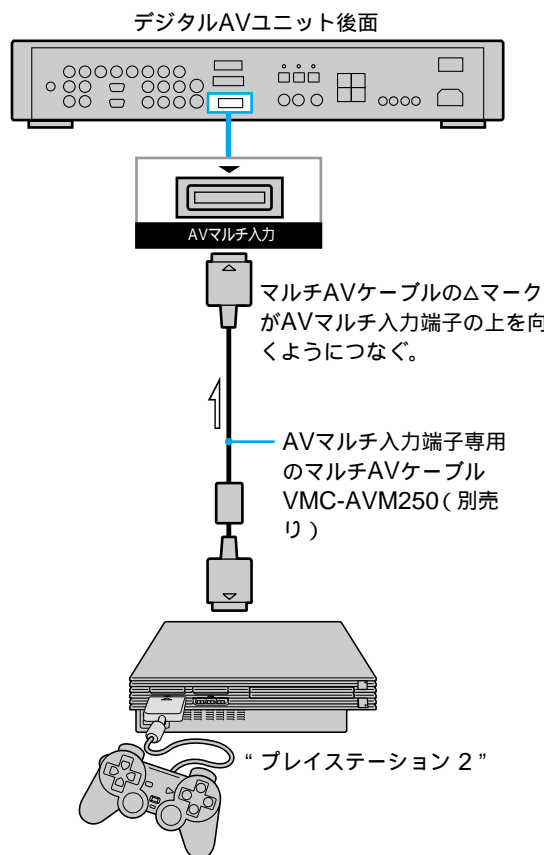
“ プレイステーション 2 ”や
“ プレイステーション ”(PS one) および
“ プレイステーション ”の取扱説明書もあわせて、お読みください。

ご注意
“ プレイステーション 2 ”の一部の機種では、マルチAVケーブル（VMC-AVM250）で接続し、DVDビデオを再生した場合、出力信号（RGB）がコンポーネント映像信号（Y CB/PB CR/PR）に固定されるため、画面が乱れる場合があります。
このときは、
- “ プレイステーション 2 ”付属のAVケーブル(映像/音声一体型)(☞83ページ)
- “ プレイステーション 2 ”専用コンポーネントAVケーブル SCPH-10100（別売り）

など、“ プレイステーション 2 ”に対応した他のケーブルを使ってください。
詳しくは、“ プレイステーション 2 ”本体の取扱説明書をご覧いただくか、下記にお問い合わせください。

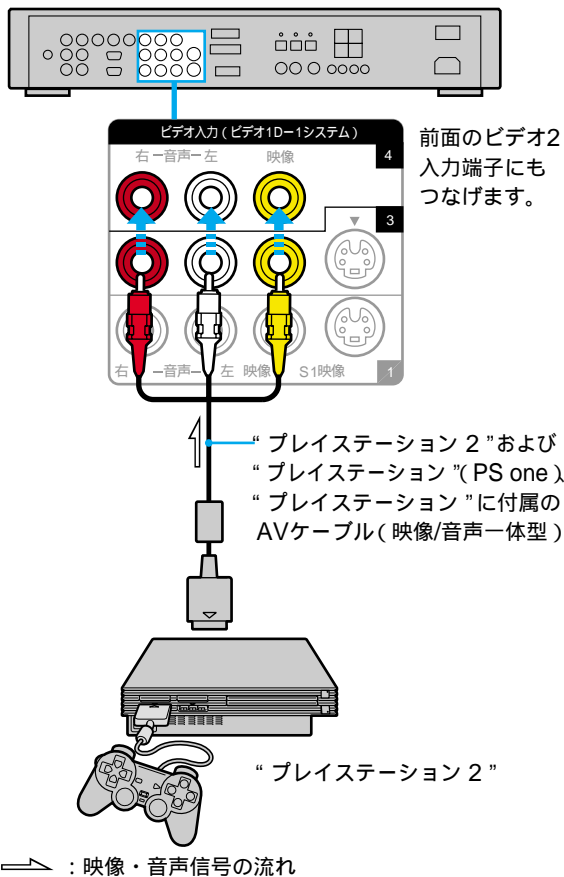
株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント
インフォメーションセンター
ナビダイヤル..... 0570-000-929
(全国どこからでも市内電話料金でご利用いただけます)
携帯・ＰＨＳでのご利用は....03-3475-7444
受付時間：10:00～18:00（土日祝日を除く）

別売りのマルチAVケーブルでつなぐときは

RGB接続になり、よりきれいな画像でゲームを楽しめます。

“ プレイステーション 2 ”や “ プレイステーション ”(PS one) および “ プレイステーション ”の画面の左右位置を調整するには

1. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **△/▽で「（各種切換）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
3. **△/▽で「AVマルチ画面位置」を選び、真ん中を押し込んで決定する。**
4. **△/▽で画面の左右位置を調整する。**
5. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ちょっと一言
- AVマルチ入力端子は、RGB映像信号のため、ビデオ入力端子に比べて色の帯域が広くなっています。色あいが異なる場合がありますが、本機に影響はありません。
- 「AVマルチ画面位置」は、「AVマルチ」の画像でのみ、調整できます。

“プレイステーション 2”および“プレイステーション”(PS one)、“プレイステーション”に付属のAVケーブル（映像/音声一体型）でつなぐときは

“プレイステーション 2”および“プレイステーション”(PS one)、“プレイステーション”を使うには

本機の入力切換ボタンを繰り返し押して、“プレイステーション 2”および“プレイステーション”(PS one)、“プレイステーション”をつないだ入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」または「AVマルチ」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞33ページをご覧ください。

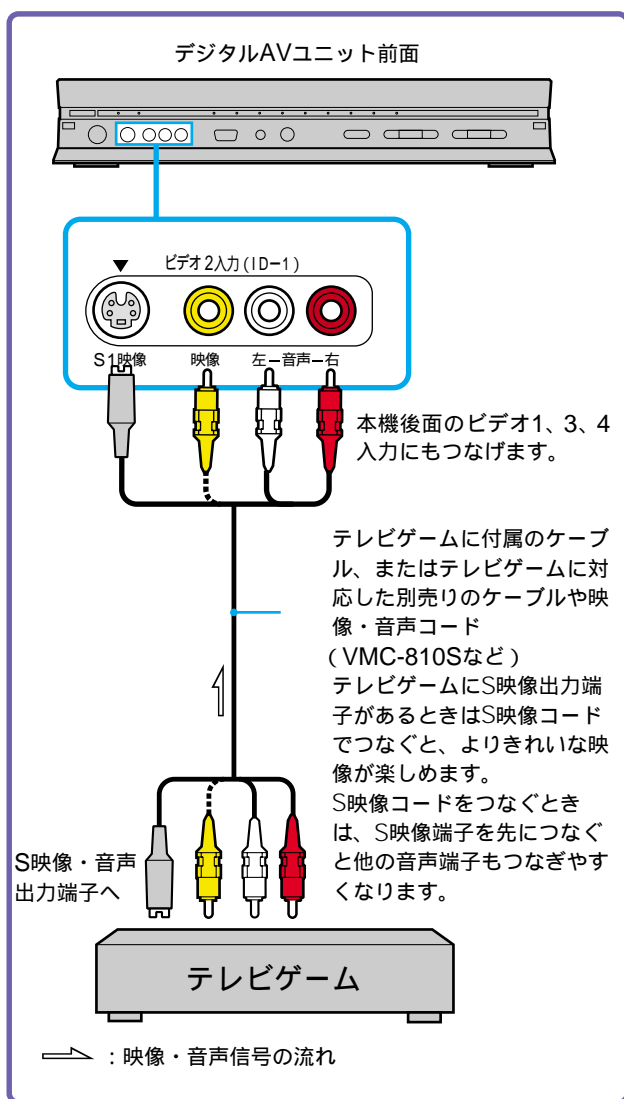
“プレイステーション 2”をマルチAVケーブルで接続する場合は、入力切換を行う前に、“プレイステーション 2”側のシステム設定画面で、「コンポーネント映像出力」を「RGB」に設定してください。
（本機側ではできません。）

ご注意

- 電子的なライフルガン（銃）などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、本機の画面を使用できないことがあります。詳しくは、各ソフトウェアの解説書をご覧ください。
- 将来の“プレイステーション 2”用の高解像度ゲームソフトなどには、本機は対応していません。
詳しくは、各ソフトウェアの解説書をご覧ください。
- ディスプレイの焼き付きを避けるため、ワイドズーム（☞13ページ）をお薦めします。

次のページにつづく

その他のテレビゲームなどをつなぐ

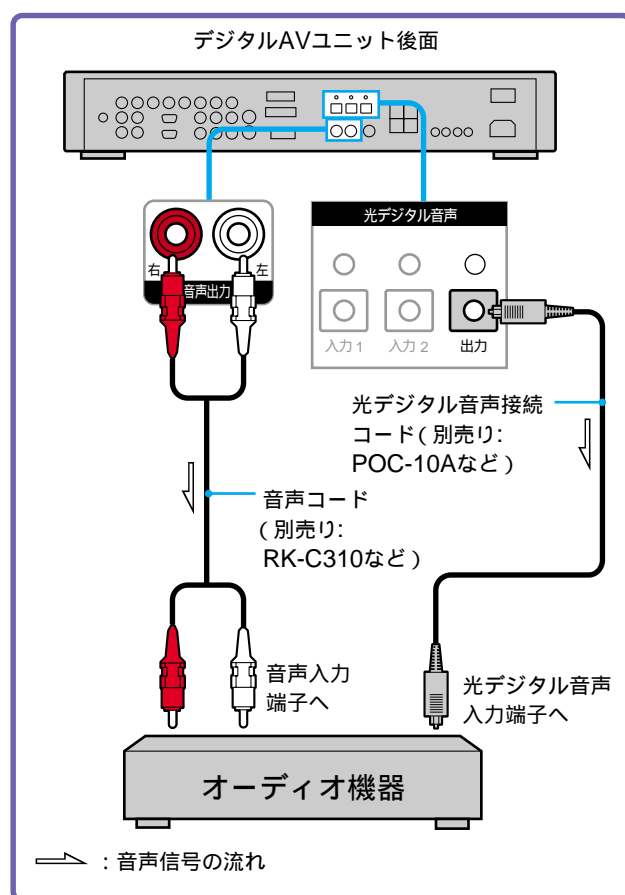
本機前面のビデオ2入力端子にテレビゲームをつなぎます。テレビゲームの取扱説明書もあわせてお読みください。

テレビゲームをするには

入力切換ボタンをくり返し押して、テレビゲームをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞33ページをご覧ください。

ご注意
電子的なライフルやガン（銃）などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、本機の画面を使用できないことがあります。詳しくは、ゲームソフトの取扱説明書をご覧ください。

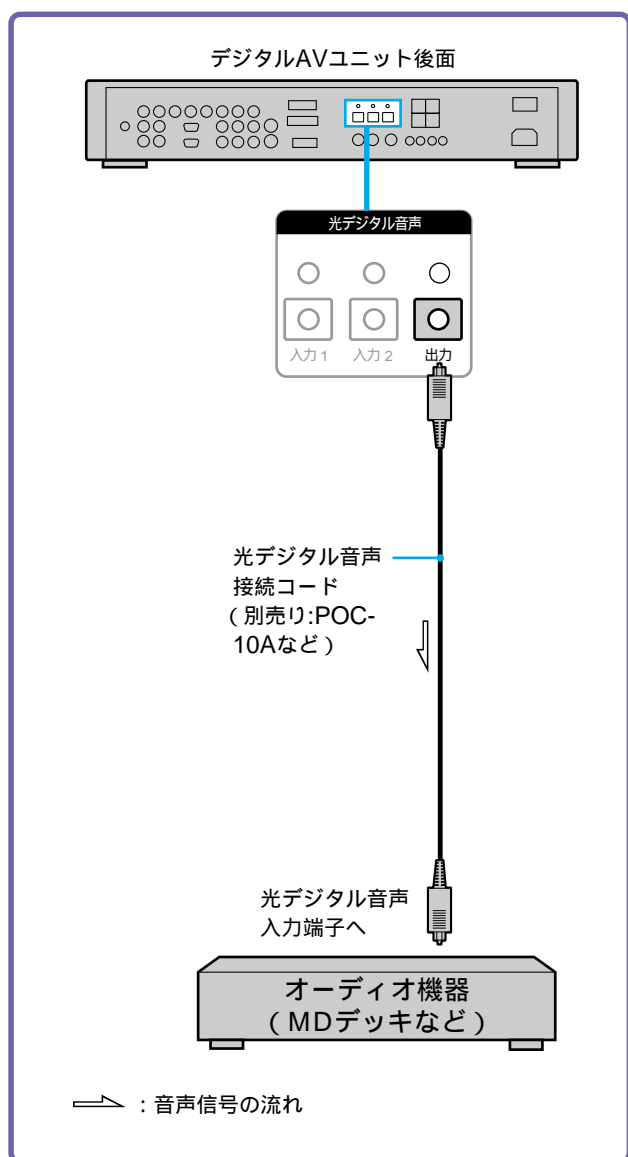
オーディオ機器をつなぐ

ドルビーデジタルやDTS対応のオーディオ機器をつなぐ

本機の光デジタル音声1または2入力端子から入力された音声信号を、本機の光デジタル音声出力端子につないでいるオーディオ機器にそのまま出力し、5.1chサラウンドステレオ音声が楽しめます。
このとき、本機の音声出力端子から、オーディオ機器に出力される音声信号は、本機で現在見ている画面の入力で設定した、光デジタル音声1または2入力端子の信号です。
サラウンドステレオを充分に楽しむためには、5.1ch入力対応のオーディオ機器の取扱説明書をご覧下さい。

光デジタル音声端子をつないだときは

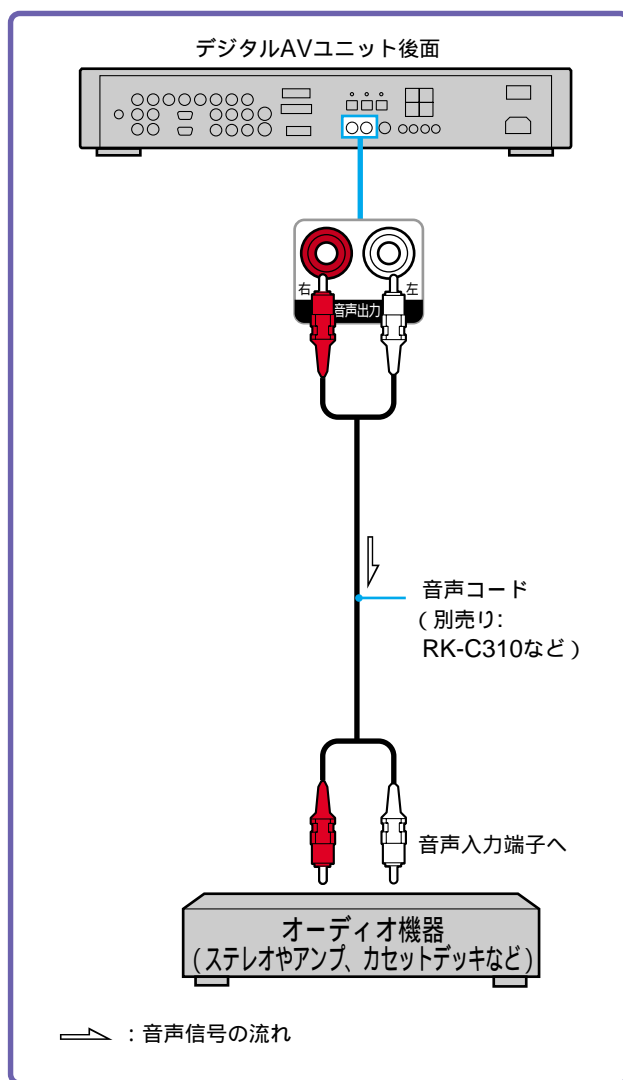
メニューの「入力設定」で「光デジタル音声」を設定してください。（☞26ページ）
設定していないときは、アナログの音声出力端子からのみ音声が出ます。

MDデッキなどをつなぐ

光デジタル音声入力端子を持つ**サンプリングレートコンバーター内蔵**のMDデッキにつなげます。MDデッキの取扱説明書もあわせてご覧ください。（☞「用語集」98ページ）

ご注意

光デジタル音声出力端子からは、光デジタル音声1または2入力端子から入力した音声信号をそのまま出力します。

その他のオーディオ機器（2ch入力対応）をつなぐ

つないだオーディオ機器で音量を調節したり、つないだスピーカーから本機の音声を聞いたりできます。
オーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- テレビの音量や音質の設定を変えても、オーディオ機器の音量や音質の設定は変わりません。
- カセットデッキなどは本機のディスプレイユニットから50cm以上離して設置してください。ディスプレイユニットに近付けすぎると、相互干渉によりノイズが発生することがあります。

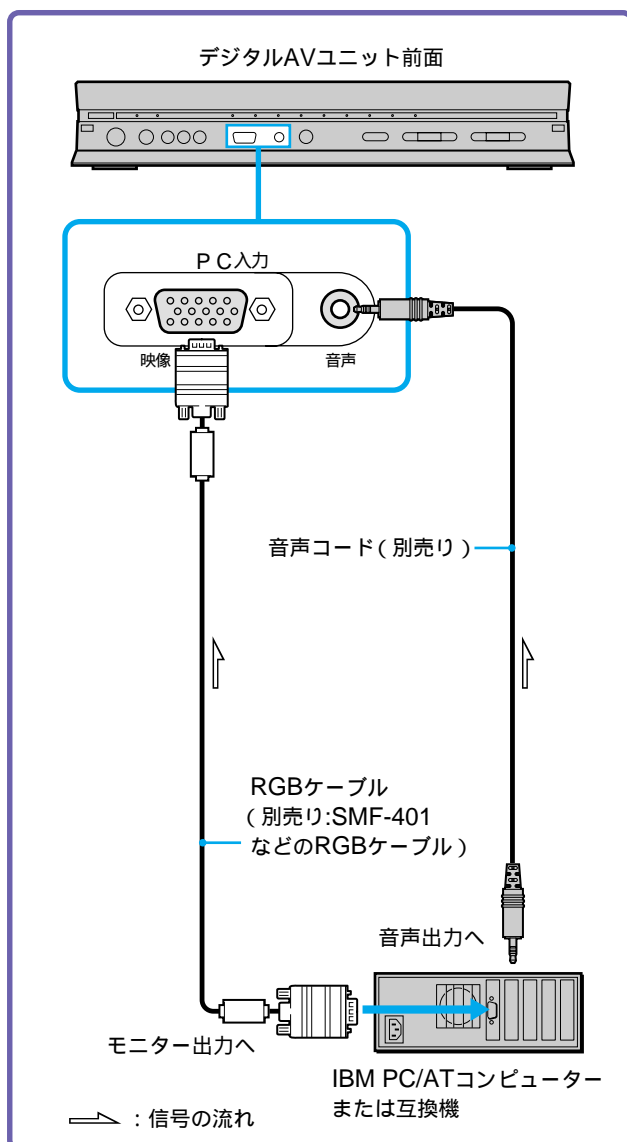
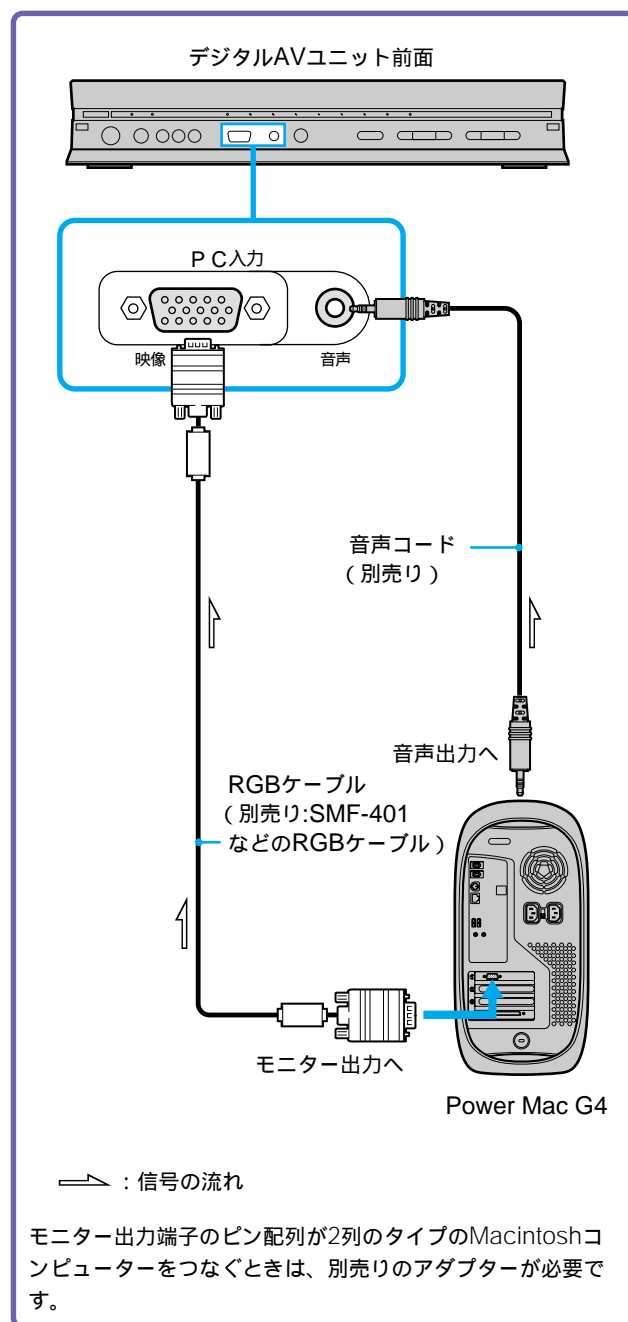
パソコンをつなぐ

テレビとパソコンの電源を切った状態でつないでください。

ご注意
- RGBケーブルをお使いください。
- RGBケーブルのピンに、直接手をふれないでください。

IBM PC/ATコンピューターまたは互換機をつなぐ

Macintoshコンピューターまたは互換機をつなぐ

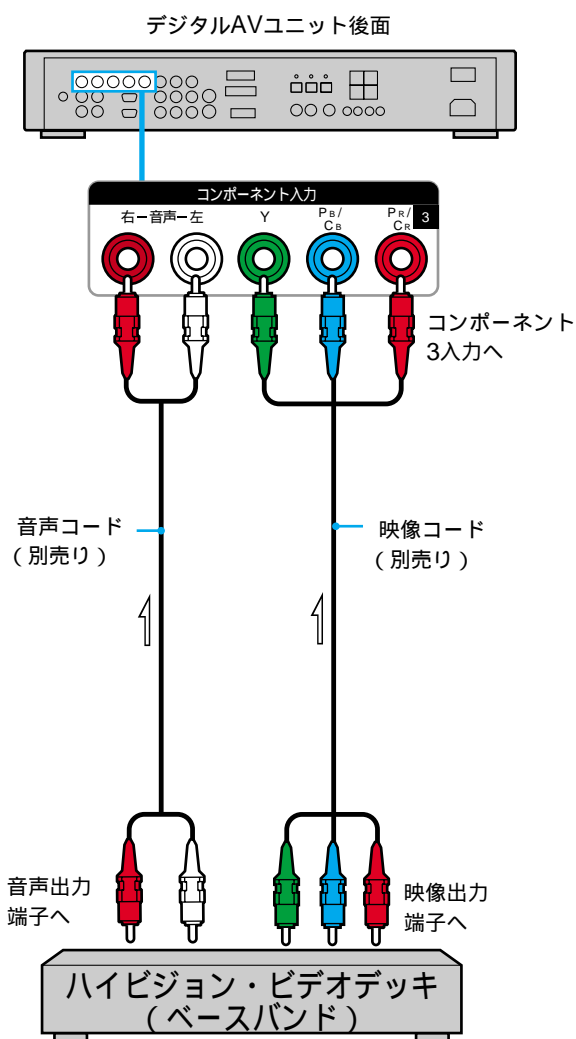
モニター出力端子のピン配列が2列のタイプのMacintoshコンピューターをつなぐときは、別売りのアダプターが必要です。

パソコンの映像を見るには

PCボタンを押す。
詳しくは、☞34ページをご覧ください。

前の入力画面に戻すには

もう一度PCボタンを押す。

ハイビジョンビデオデッキ（ベースバンド）をつなぐ

ハイビジョン（ベースバンド）機器をつなぎます。ハイビジョン機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ハイビジョン・ビデオデッキ（ベースバンド）を見るには

入力切換ボタンをくり返し押して、ベースバンド機器をつないだコンポーネント3入力（「コンポーネント3」）を表示させる。
詳しくは、☞33ページをご覧ください。

コンポーネント3入力端子にハイビジョンベースバンド機器をつないだときは

コンポーネント3入力端子につないだ機器に合わせてHDモードを変更します。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 △/▽で「（各種切換）」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

3 △/▽で「HDモード」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

4 △/▽で「1035」を選び、真ん中を押し込んで決定する。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

その他

ここでは、本機が正常に動かないときに解決する方法や、お手入れのしかたなどについて説明しています。
また、各部の名前や索引を使って、知りたい情報を探すこともできます。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度、点検をしてください。それでも、正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

テレビ本体の型名：

ケーゼット　エッチエス
KZ-42HS500

画面サイズ（番号）がどれかわからないときは、保証書に記載されている型名をお知らせください。

リモコンの型名：

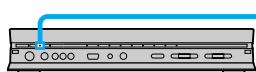
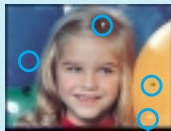
アールエム　ジェイ
RM-J601

故障の状況：できるだけくわしく

購入年月日：

自己診断表示ー画面が消え、電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプが点滅したら

ディスプレイユニットおよびデジタルAVユニットには自己診断表示機能がついています。これは本機に異常が起きたときに、電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプの点滅およびその速さでテレビの状態をお知らせし、よりスムーズにサービス対応させていただくための機能です。

電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプ

電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプ

電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプの状態と本機の症状

	電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプの色/状態		症状	対処のしかた
	デジタルAVユニット	ディスプレイユニット		
1	赤/緑交互点滅 (赤点滅→緑点滅→赤点滅…)	赤/緑交互点滅 (赤点滅→緑点滅→赤点滅…)	ディスプレイユニットが異常	デジタルAVユニットの電源スイッチで電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。電源コードを抜いてから10秒以上たってから再び電源を入れて症状を確認してください。それでも同じ症状が出た場合は、お買い上げ店に、点滅の速さを知らせてください。
2	赤点灯	赤遅い点滅 (1回点滅→1秒あき→1回点滅…)	ディスプレイユニットの温度が高い または、ディスプレイユニットの冷却ファンが異常	
3	赤速い点滅 (1回点滅→0.5秒あき→1回点滅…)	赤点灯	デジタルAVユニット冷却ファンが異常	
4	赤点灯	消灯	電源映像ケーブルの電源端子が抜けている	電源映像ケーブルの電源端子をつないでください。(☞58、59ページ)
5	緑点灯	消灯	電源映像ケーブルの映像端子が抜けている	電源映像ケーブルの映像端子をつないでください。(☞58、59ページ)
6	オレンジ点灯	オレンジ点灯	PCパワーセーブ状態 (☞43ページ)	パソコンのキーボードのキーを押すか、マウスを動かしてください。

本機の症状と対処のしかた

症状		対処のしかた
画像が出ない	**すべてのチャンネルが映らない。**	• 電源コードをしっかりつないでください。 • 電源映像ケーブルがディスプレイユニットとデジタルAVユニットにしっかりつながれているか確認してください。 • デジタルAVユニットの電源を入れてください。 • アンテナ線をしっかりつないでください。 • ディスプレイユニットの消画ランプが青く点灯していませんか？消画にしていませんか？（☞20ページ）
	特定のチャンネルだけが映らない。	• チャンネルを合わせ直してください（☞63ページ）。
	テレビの電源が突然切れた/いつのまにか消えていた（スタンバイ状態になった）。	• テレビの消し忘れを防ぐため、放送終了後（2画面では操作画面、メモでは左画面、インデックス画面では親画面の放送終了後）、または放送のないチャンネルを受信している状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイ状態になります。
	つないだ機器の画像が出ない。	• 接続コードをしっかりつないでください。 • リモコンの入力切換用のボタンを押してください（☞33ページ）。 • S映像入力のときは、メニューの「（各種切換）」で「S映像:入」にしてください（☞74ページ）。 • 本機リモコンで、つないだ機器を操作するときは、あらかじめメーカー設定を行ってください（☞24ページ）。 • 本機リモコンで、つないだ機器を操作するときは、あらかじめメニューの「（設定）」で「入力設定」を行ってください（☞26ページ）。 •“ プレイステーション 2 ”をAVマルチ入力端子につないでいるときは、“ プレイステーション 2 ”のコンポーネント出力の設定を「RGB」にしてください。（☞82ページ） • ディスプレイユニットの消画ランプが青く点灯していませんか？消画にしていませんか？（☞20ページ）
きれいに映らない	**画像が二重、三重になる。**	• アンテナ線をしっかりつないでください。 • アンテナの位置、方向、角度を調整してください。 • メニューの「（設定）」で、「テレビ設定」を選び、「GR設定変更」で「GR:入」にしてください（☞69ページ）。
	雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。	• アンテナが風でこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 • アンテナの寿命を確認してください（通常3～5年、海辺では1～2年）。
	斑点や点模様が走る。	• ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。アンテナはなるべく道路から離して設置してください。
	色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。	• お好み画質ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞6ページ）。 • メニューの「（画質/音質）」で画質を調整してください。
	画面に光る点、または光らない点がある。 輝点・滅点	• フラットパネルテレビの映像は微細な画素の集合です。画面の一部に画素欠けや輝点が存在する場合がありますが、故障ではありません。
	電源を入れたとき、画面のちらつきやむらが見える。	• 電源を入れたときに画面に「むら」や「ちらつき」が見える場合がありますが、プラズマディスプレイの性質によるものであり、故障ではありません。
	画面がまぶしい。	• お好み画質ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞6ページ）。

症状		対処のしかた
きれいに映らない（つづき）	**縞状のノイズが多い。**	● 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 ● アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 ● フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。
	画像が乱れる、 雑音が混じる。	● ディスプレイユニットの前面や真横に本機に接続した機器を設置していませんか？ ディスプレイユニットと他機の間隔をあけてください。
	画像が一瞬暗くなる。	● テレビのコマーシャルが放送されているときや番組が変わるときなどに、突然画面が真っ暗になったり、画像の大きさが変わったりする場合などがありますが、故障ではありません。オートワイドを「1」または「2」に設定している場合、番組に最適なワイド画面を本機が自動的に判断し、画像の大きさを調整します。気になるときは、オートワイドを「切」に設定してください（☞54ページ）。
	ビデオの再生/録画時に縞状のノイズが出る。	● ビデオヘッドが干渉しています。できるだけビデオをテレビから離して置いてください。 ● ビデオなどの機器をディスプレイユニットに近付けて設置すると相互干渉でノイズが生じることがあります。30cm以上離して設置してください。 ● ディスプレイユニットの前面や側面に設置するのを避けてください。
	AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション 2”や“プレイステーション”(PS one)および“プレイステーション”の画像がずれる。	● メニューの「（各種切換）」で「AVマルチ画面位置」を調整してください（☞82ページ）。
音が出ない／雑音が多い	**画像は出るが、音が出ない。**	● スピーカーコードをしっかりつないでください。 ● 音量が下がりきっていないか確認してください。 ● 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ボタンを押して表示を消してください。 ● ヘッドホンを抜いてください。
	雑音が多い。	● 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 ● アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 ● フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 ● メニューの「（設定）」で「初期設定」を選び、「オートステレオ」を「切」にしてください（☞51ページ）。 ● 赤外線コードレスヘッドホンなどの赤外線通信機器を本機の近くで使用すると通信障害が発生する場合があります。 赤外線コードレスヘッドホン以外のヘッドホンをご使用ください。また、赤外線ヘッドホン以外の赤外線通信機器をご使用の場合は、ノイズが消える場所まで、赤外線の送受信機器を本機の画面から離すか、赤外線通信機器の送信部と受信部を近づけてご使用ください。
	低音が出ない。	● サブウーファーの電源が入っているか確認してください。 ● サブウーファーの音量調節つまみがMINになっていないか確認してください。 ● ボイス（☞10ページ）になっていないか確認してください。
サラウンドフィールドが働かない	**音が出ない、 ほとんど聞こえない。**	● サテライトスピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認してください。（☞60、75〜87ページ）
	左右の音のバランスが悪い、 逆転している。	● サテライトスピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認してください。（☞60、75〜87ページ）

次のページにつづく

故障かな？と思ったら（つづき）

症状		対処のしかた
サウンドフィールドが働かない（つづき）	**ハム音またはノイズがひどい。**	• サテライトスピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認してください。（☞60、75～87ページ） • 接続コードがトランスやモーターから離れているか確認してください。
	仮想リアスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない、サラウンド効果がない。	• サウンドフィールドがOFFまたはボイスになっていませんか？シネマサウンドフィールドまたはミュージックサウンドフィールドの中から最適な音場効果を選んでください。（☞7ページ）
	映像と音声が一致しない。	• 映像入力と音声入力の組み合わせが正しいか確認してください。（☞26ページ）
メニューが選べない	**メニューで選べない項目がある。**	• 黒く表示されている項目は選べません（見ている画像の種類やメニューの設定によって、選べないように制約されています）。
ワイド画面が切り換わる	**オートワイドのときに画面モードが勝手に切り換わる。**	• CMが入ったり番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適なワイド画面を本機が判断しているためです（☞12ページ）。 • 識別制御信号のある画像を受信して、自動的に信号に対応した画面モードになるためです（☞12ページ）。 • オートワイドが働いているときに、ワイド切換ボタンでワイド画面を切り換えていませんか。チャンネルや入力を変えたりするとオートワイドが働き、自動的にワイド画面に切り換わります。ワイド切換ボタンで切り換えた画面モードで固定したいときは、オートワイドを「切」にしてください（☞54ページ）。
テレビから異音がする	**「ピシッ」というきしみ音が出る。**	• 周囲との温度差でキャビネットが伸縮し、「ピシッ」という音が出ることがありますが、本機に影響はありません。
	「サー」という音がする。	• テレビ内部で発生する静電気が原因で、本機に影響はありません。
	電源を入れたときに「カチッ」という音がする。	• 電源を入れたときに、内部の回路が働くため音がしますが、故障ではありません。
	ディスプレイユニットから「ジーッ」という音がする。	• 電源を入れると、ディスプレイユニットの駆動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
リモコンが働かない	**リモコンで本機を操作できない。**	• テレビを操作するときは、テレビボタンを押してください（☞5ページ）。つないだ機器を操作するモードになっていると、テレビを操作できません。（☞29～32ページ） • 電池を交換してください。 • 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。 • ディスプレイユニットやデジタルAVユニットの電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプが赤やオレンジ色に点灯していないときは、デジタルAVユニットの電源スイッチを押してください。 • リモコンをディスプレイユニットのリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 • リモコン受光部の近くに蛍光灯などの強い照明があたっているときは、離して置いてください。

症状		対処のしかた
リモコンが働かない（つづき）	**本機のリモコンで、つないだ機器を操作できない**	• 本機リモコンで、つないだ機器を操作するときは、あらかじめメーカー設定を行ってください（☞24ページ）。 • 本機リモコンで、つないだ機器を操作するときは、あらかじめメニューの「(設定)」で「入力設定」を行ってください（☞26ページ）。 • コントロールSやAVマウスを接続した機器を操作するときは、リモコンをディスプレイユニットに向けてください（☞21ページ）。 • コントロールSやAVマウスを接続していない機器を操作するときは、リモコンを直接機器に向けてください（☞21ページ）。
	リモコンのチャンネル数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**ダイレクト選局の場合（☞67ページ）** • メニューの「(設定)」で、「テレビ設定」の「選局」が「ダイレクト」になっているかを確認してください。 **10キー選局の場合（☞67ページ）** • メニューの「(設定)」で、「テレビ設定」の「選局」が「10キー」になっているかを確認してください。 • 11チャンネルは①を2回、12チャンネルは①と②を続けて押してから、⑫/選局を押してください。 • チャンネル数字ボタンに続けて⑫/選局を押してください。 • PC入力時は1度PCボタンを押してPC入力を解除してから、入力切換を行ってください（☞35ページ）。
	入力切換用のボタンが働かない。	• PC入力時は1度PCボタンを押してPC入力を解除してから、入力切換を行ってください（☞35ページ）。
パソコンの画像が出ない	**「入力信号がありません」という表示が出る、または電源/スタンバイ/パワーセーブ ランプ（オレンジ色）が点灯している。**	• RGBケーブルを正しくつないでください（☞86ページ）。 • RGBケーブルのピンが曲がっていませんか？まっすぐに直すか、別のケーブルを使ってください。 ■パソコンが原因の場合 • パソコンが省電力状態になっていませんか？キーボードのキーのどれかを押してみるか、マウスを動かしてみてください。 • パソコンの電源を入れてください。 • パソコンのグラフィックボードを正しいバススロットに差し込んでください。
	「この周波数には対応していません」という警告表示が出ている。	■パソコンが原因の場合 • 入力信号の周波数は、本機の仕様に合っていますか？本機をつなぐ前につないでいたディスプレイがあるときは、それにつなぎ換えてみてください。画像が出たら、入力信号のグラフィックモードと周波数が本機で使用できる範囲か確認し、設定しなおしてください（☞35ページ）。
	Windows®95/98**の画像が出ない。**	• 本機とつなぎ換えたディスプレイがあるときは、つないでみてください。画像が出たら、以下の操作を行ってください。 Windows®95/98のデバイス選択画面のスタンダードモニターまたは標準モニターの種類等で640×480、60Hzを選んでください。
	Macintosh**の画像が出ない。**	• ビデオ出力端子のピン配列が2列のタイプのMacintoshコンピューターをつなぐときは、別売りのアダプターが必要です。（☞86ページ）。
	NEC PC98**シリーズの画像が出ない。**	• 本機はPC98シリーズには対応していません。

症状		対処のしかた
パソコンの画像がきれいに映らない	**パソコンの画像がみだれる、ゆれる、ちらつく。**	• 本機のPCメニューで「ピッチ」または「フェーズ」を選び、調整してください（☞37ページ）。 • 離れたところにある他の電源につないでみてください。 ■パソコンが原因の場合 • パソコンのグラフィックボードで、本機が正しく設定されているかを確認してください。 • パソコンのグラフィックモードが、本機で使用できる範囲かを表示モード一覧で確認してください（☞35ページ）。ただし本機で使用できる範囲でも、グラフィックボードによっては同期パルス幅が合わないため、きれいに画像を映せない場合があります。 • パソコンのリフレッシュレート（垂直周波数）を、最適な画面になるように設定してください。
	パソコンの画像がくっきりしていない。	• PCメニューの「(画質調整)」で「ブライトネス」または「コントラスト」を選び、調整してください（☞41、42ページ）。 • PCメニューで「ピッチ」または「フェーズ」を選び、調整してください（☞37ページ）。 • 解像度800×600ドットなどの場合、画像を縮小することになり、解像度640×480ドットの場合の画質と差が出ることがありますが、故障ではありません。本機では解像度640×480ドットをおすすめします。
	パソコンの画像が二重、三重になる。	• RGBケーブルの延長コードやインプットセレクタの使用をやめてください。 • 接続ケーブルを端子にしっかりと差し込んでください（☞86ページ）。
	パソコンの画像の位置がずれている、または画像の大きさが正しくない。	• PCメニューの「(画面モード)」で「垂直サイズ」または「水平サイズ」を選び、調整してください（☞38〜40ページ）。 • PCメニューの「(画面モード)」で「垂直位置」または「水平位置」を選び、調整してください（☞38〜40ページ）。入力信号やグラフィックボードによっては、画像が画面全体に広がらない場合があります。
	パソコンの画像が小さい。	■パソコンが原因の場合 • パソコンの解像度を画面の解像度と同じにしてください。
	パソコンの画面に波模様や縦縞が出る。	• PCメニューで「ピッチ」または「フェーズ」を選び、調整してください（☞37ページ）。
	パソコンの画面に色むらがある。	• PCメニューで「ピッチ」または「フェーズ」を選び、調整してください（☞37ページ）。
	しばらくすると、電源が切れてしまう。	• PCメニューで「PCパワーセーブ」を選び、「切」にしてください（☞43ページ）。 ■パソコンが原因の場合 • パソコンの省電力設定を「オフ」にしてください。
	パソコンの画像がずれる。	• 環境条件により、フェーズがずれることがあります。 PCメニューで「フェーズ」を選び、調整してください（☞37ページ）。

ディスプレイユニットのお手入れについて

ディスプレイユニットのガラス表面の取扱いについてのご注意

ディスプレイユニットのガラス表面は反射による映りこみを抑えるため、特殊な表面処理を施しています。
誤ったお手入れをした場合、性能を損なうことがありますので、次のことを必ずお守りください。また、ガラス表面は傷つきやすいので固い物などでこすったり、たたいたり、物をぶつけたりしないでください。

ディスプレイユニットのガラス表面のお手入れについてのご注意

- お手入れをする前に、必ずデジタルAVユニットの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 長時間視聴した直後は、ガラス表面が熱くなっていますので、触れないでください。
- ガラス表面は特殊な表面処理をしているので、なるべくガラス表面に触れないようにしてください。
- ガラス表面の汚れは、付属のクリーニングクロスを使って拭いてください。
- ガラス表面の汚れがひどいときは、付属のクリーニングクロスやメガネ拭きなどの柔らかい布に水で薄めた中性洗剤を少し含ませて拭いてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、酸性洗浄液、アルカリ性洗浄液、研磨剤入り洗浄剤、化学ぞうきんなどは、ガラス表面を傷めますので絶対に使用しないでください。

外装のお手入れについてのご注意

- 乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤を少し含ませた布で拭きとり、乾いた布でから拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげるなど、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、絶対に使用しないでください。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはサービス窓口へ
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の交換について
この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について
当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後でも、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名：KZ-42HS500
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店 **TEL.**
お近くのサービスステーション **TEL.**

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

受信方式　NTSC方式
受信チャンネル　VHF 1〜12チャンネル
UHF 13〜62チャンネル
CATV C13〜C35（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要）
画面寸法　92.1×51.8、105.7cm対角
（幅×高さ、対角線径）

入出力端子（ディスプレイユニット）

ディスプレイ用電源入力
専用コネクター
ディスプレイ用信号入力
専用コネクター

入出力端子（デジタルAVユニット）

アンテナ端子　VHF/UHF、F型コネクター
ビデオ1〜4入力端子
S1映像（ビデオ1〜3入力端子のみ）:
4ピンミニDIN
Y:1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C:0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像: ピンジャック、1Vp-p、
75Ω、不平衡、同期負
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、インピーダンス 47kΩ以上
コンポーネント1、2入力端子
D4映像:
Y:1Vp-p（0.3V負同期付き）
C_B/C_R:±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、インピーダンス
47kΩ以上
コンポーネント3入力端子
映像: ピンジャック
Y:1Vp-p（0.3V負同期付き）
P_B/C_B、P_R/C_R:±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、インピーダンス
47kΩ以上
AVマルチ入力端子　12ピン
コントロールS入出力端子
ミニジャック
光デジタル音声端子
S.P.D.I.F規格
入力1、2、出力：サンプリング周波数
38kHz、44.1kHz、48kHz
音声出力端子　ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、インピーダンス
47kΩ以上
スピーカー出力端子
実用最大出力　15W +15W
（JEITA、6Ω負荷）
AVマウス1、2端子
ミニジャック
サブウーファー専用電源出力（連動）
サブウーファー出力（可変）
PC入力　RGB動作周波数
水平:31.020-68.681kHz
垂直:59.8-75.1Hz（1024×768は75Hzまで）
プラグ&プレイ機能:DDC1/DDC2B
ヘッドホン端子　ステレオミニジャック
負荷インピーダンス16Ω以上
ディスプレイ用電源出力端子
専用コネクター
ディスプレイ用信号出力端子
専用コネクター

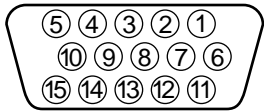
電源部・その他

消費電力　380W
消費電力（リモコン待機時）: 2.5W
最大外形寸法　ディスプレイユニット:
106.2×66.2×6.6 cm
（幅×高さ×奥行き、突起部含まず）
デジタルAVユニット:
43.0×7.8×39.8cm
（幅×高さ×奥行き）
質量　ディスプレイユニット:約26.7kg
デジタルAVユニット:約6.7kg
電源　AC100V、50/60Hz
付属品　スピーカーシステム一式（別梱包）
リモートコマンダー　RM-J601（1）
乾電池　単4形（2）
電源映像ケーブル（1）
AVマウス（2）
コントロールSコード（1）
D映像コード（1）
アンテナ接続ケーブル（1）
電源コード/変換プラグアダプター（各1）
ケーブル留め（4）
クリーニングクロス（1）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ご愛用者カード（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
安全のために/安全点検のおすすめ（1）
接続手順早わかりガイド（1）

別売りアクセサリー

テレビスタンドなど
SU-FHS1（フローティングスタンド）
SU-THS1（テーブルトップスタンド）
SU-WHS1（壁掛けユニット）
SU-AVHS1（AVシステムラック）
WS-FV10A（S）（スピーカースタンド）
WS-WV10A（S）
（スピーカー壁掛けブラケット）
ステレオヘッドホン
MDR-AV55など
接続ケーブルなど　VMC-HS70（電源映像ケーブル、7m）

- 本機は「高調波ガイドライン」適合品です。「高調波ガイドライン」適合品とは、通商産業省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。
- このテレビは日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

PC入力端子ピン配列

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	R（赤）	9	DDC + 5V *
2	G（緑）（Sync on Green）	10	アース
		11	ID（アース）
3	B（青）	12	データライン（SDA）*
4	ID（アース）		
5	DDCアース *	13	水平同期
6	R（赤）アース	14	垂直同期
7	G（緑）アース	15	クロックライン（SCL）*
8	B（青）アース		

* VESAによるDisplay Data Channel（DDC）規格

表示モード一覧

モード	解像度（ドット×ライン）	水平周波数	垂直周波数	グラフィックモード
1	640 × 480	31.5kHz	60Hz	VGA-G
2	640 × 480	35.0kHz	67Hz	Macintosh 13" カラー
3	848 × 480	31.0kHz	60Hz	WIDE
4	848 × 480	35.3kHz	60Hz	WIDE

以下の場合、解像度640×480や848 × 480ドットの場合とくらべ、画質に差が出ることがあります。

モード	解像度（ドット×ライン）	水平周波数	垂直周波数	グラフィックモード
5	720 × 400	31.5kHz	70Hz	VGAテキスト
6	800 × 600	37.9kHz	60Hz	SVGA
7	1024 × 768	48.4kHz	60Hz	VESA
8	1280 × 960	60.0kHz	60Hz	VESA
9	1280 ×1024	64.0kHz	60Hz	VESA
10	1280 × 768	48.0kHz	60Hz	WIDE
11	832 × 624	49.7kHz	75Hz	Macintosh 16"カラー
12	1024 × 768	60.2kHz	75Hz	Macintosh 19" カラー
13	1152 × 870	68.7kHz	75Hz	Macintosh 21" カラー

用語集

五十音順

ア行

インターレース（飛び越し走査）

走査線525本のうち、まず奇数番目の走査線（262.5本）を1/60秒かけて描き（この1画面を1フィールドという）、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線（262.5本）を描き、合わせて走査線525本の1枚の完全な画面（フレーム）を作っていく飛び越し走査のことです。

カ行

ケーブルテレビ（CATV）

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。通常のテレビ番組やBS放送に加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

ゴースト

放送局からの電波が、テレビアンテナに届く前に、建物や地形の影響で妨害波となり、時間がズレて二重、三重に受信されることです。そのため、正しく送られてきた画像に妨害波の画像が重なって表われた、見にくい画面となります。

サ行

三次元Y/C分離回路

本機で使っている回路の1つで、映像信号を構成するY信号とC信号を別々に処理し、より鮮明な画像を再現します。

サンプリングレートコンバーター付きMDデッキ

本機のデジタル信号を、MDのサンプリング周波数（44.1kHz）に変換する機能のあるMDデッキです。サンプリング周波数を変換することで、MDとサンプリング周波数の異なる衛星デジタル放送の音声を本機からMDデッキにデジタル録音できます。

シネマビジョン

画面の横縦比が2.35:1になっている映像ソフトのことです。一般的には黒帯に字幕が入る映画などに使われています。

走査線

テレビは、左から右へ流れる電子ビームを上から下へ送ることで画面を作っています。この電子ビームが作る線を走査線と呼び、走査線によって、どのように画面を作っていくかで、インターレースやプログレッシブなどの方式があります。固定画素である本機の場合は、画素の駆動により、走査線を作り出しています。本機の縦の走査線は480本あります。

タ行

チューナー

電波を受信して各チャンネルに合わせるための機器です。本機はテレビチューナーを2機内蔵しています。

デジタルCS放送

通信衛星を使ったCS放送の一種です。従来のアナログCS放送とは違い、映像や音声をデジタル化することで、大量の情報を扱えます。これにより、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。

ドルビーデジタル（AC-3）

ドルビープロロジックをさらに発展させ劇場用に開発された映画の音のフォーマットです。リア出力をステレオ化した上で周波数帯域を拡大、さらに低域を受け持つサブウーファー出力も独立して設けてあります（サブウーファーの出力は重低音効果が必要なときだけ動作するので0.1chと数えられるため、「5.1ch」と呼ばれます）。あらかじめ5.1チャンネルが分離された状態で記録されており、チャンネル間のセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、劣化しにくいという特徴を持っています。なお、AC-3とはドルビー研究所が開発したAudio Coding方式の3番目という意味です。

ドルビープロロジックサラウンド

ドルビーサラウンドシステムの１つで、2chに記録されている音声情報を4chに変換して再生します。

ハ行

ビスタビジョン

画面の横縦比が1.85:1になっている映像ソフトのことです。一般的には画像の中に字幕が入る映画などに使われています。

プログレッシブ（順次走査）

飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、1フィールド目で525本全部の走査線を順番どおりに描き、次のフィールドも同じ場所を525本全部の走査線で描いていく順次走査のことです。

ヤ行

有効走査線数

走査線のうち、映像信号が載っている走査線の数のことを言います。従来からのテレビ放送やBS放送では、525本ある走査線のうち有効走査線数は480本です。アナログのハイビジョン放送では同じく1125本中1035本、デジタルハイビジョン（HD）放送では、1125本中1080本または750本中720本となっています。なお、有効走査線に含まれていない残りの走査線（映像信号の載っていない走査線）には、画面の横縦比を規定した識別制御信号などが載っています。

数字・アルファベット順

2.1chサラウンド

左フロント、右フロントの2本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンドステレオ方式です。

5.1chサラウンド

左フロント、右フロント、センター、左リア、右リアの5本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンドステレオ方式です。

BSデジタル放送

2000年12月から本放送が開始された放送衛星を使って、デジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送、CD並みの高音質なラジオ放送などがあります。
BSデジタル放送を受信するには、別途BSデジタルチューナーが必要となります。

D端子

デジタルCS放送や、BSデジタル放送などに対応したコンポーネント映像端子です。BSデジタルチューナーやデジタルCSチューナーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。D端子には対応する信号フォーマットによって、次の種類があります。本機にはD4入力端子が付いてます。

- D1端子 :480i（525i）の信号に対応
- D2端子 :480i（525i ）と480p（525p）の信号に対応
- D3端子 :480i（525i）と 480p（525p）、1080i（1125i）の信号に対応
- D4端子:525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の信号に対応
  本機では750pの画像方式を525pの画像方式に変換して表示します。

iはインターレース、pはプログレッシブの略です。
（ ）内は走査線数で数えたときの別称です。

DTS

デジタルシアターシステムズ社が開発した音声のデジタル圧縮技術で、5.1chのサラウンドに対応しています。全チャンネルの音声情報がデジタルで受け渡しされるので、劣化しにくいという特徴があります。

ID-1方式（ビデオID-1システム）

ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名前です。本機はID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオデッキなどを、本機のビデオ1〜4入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

NTSC方式

日本やアメリカなどで使われているカラーテレビ方式で、毎秒30コマ、水平走査線数525本などが特長です。アメリカの連邦テレビジョン方式委員会（National Television System Committee）が制定し、1954年に放送が正式に開始されました。欧州や中国などで使われているPAL方式やSECAM方式とは互換性がありません。

PCM

音声のデジタル符号化方式「パルス・コード・モデュレーション（Pulse Code Modulation）」略です。
コンパクトディスクで使われている音声のデジタル化技術です。

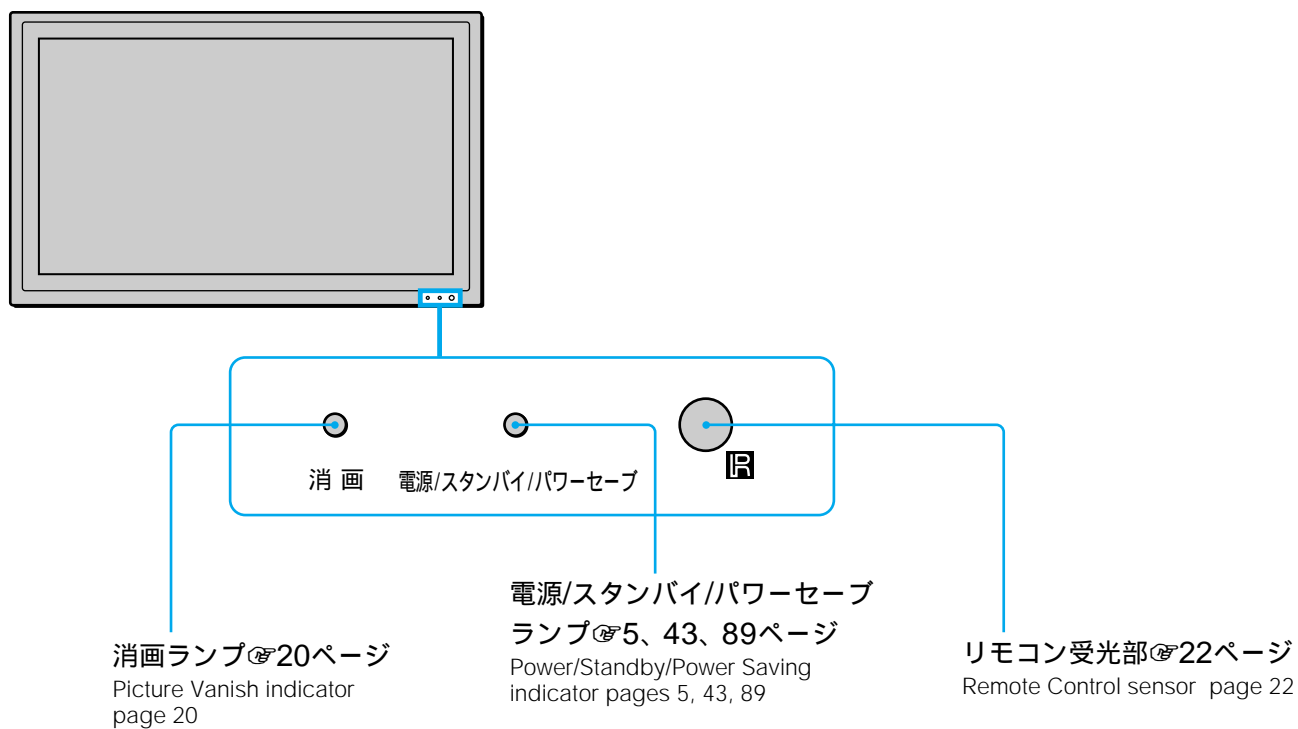
S1方式（S1映像）

S映像のC端子へ直流5Vを重畳することにより、画面の横縦比（16:9または4:3）の情報を記録するシステムの名前です。本機はS1方式に対応しています。S1映像出力端子が付いたビデオカメラなどを、本機のS1映像入力端子につなぐと、S1方式の画像となります。
ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

各部の名前/
Identifying parts and controls

デジタルAVユニット前面/Digital AV Unit Front Panel

ディスプレイユニット前面/Display Unit Front Panel

次のページにつづく

リモコン/Remote Control

画面表示ボタン☞4ページ
Display button　page 4

消音ボタン☞4ページ
Mute button　page 4

サウンドフィールドボタン☞7ページ
　シネマボタン
　ミュージックボタン
　OFFボタン
　ボイスボタン
Sound Field buttons　page 7
　Cinema button
　Music button
　OFF button
　Voice button

メニューボタン☞26ページ
Menu button　page 26

メモ☞19ページ
Memo button　page 19

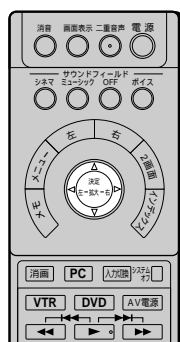
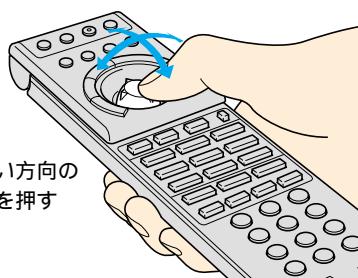
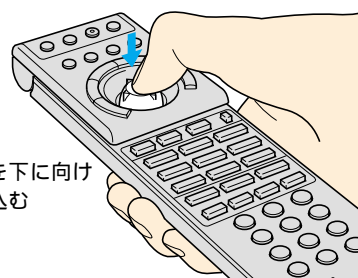
二重音声ボタン☞51ページ
Audio Mode (Bilingual) button
page 51

電源スイッチ☞5ページ
Power switch　page 5

2画面/左/右ボタン
☞14、16ページ
Picture-and-Picture/Left/Right Picture Operation buttons　pages 14, 16

インデックスボタン☞17ページ
Index button　page 17

△/▽/◁/▷/決定/左拡大/右拡大
☞15、16、26ページ
△/▽/◁/▷/Select/Left Enlarge/Right Enlarge　pages 15, 16, 26

ちょっと一言
リモコンのフタの上のボタンはリモコンモード(☞23ページ)にかかわらず、テレビを操作できます。

DVD/BSデジタルチューナーのカラー操作ボタン☞30、31ページ
DVD/BS Digital Tuner Operation buttons pages 30, 31

ワイド切換ボタン☞13ページ
Wide Mode Select button page 13

お好み画質ボタン☞6ページ
Favorite Picture button page 6

PC入力切換ボタン☞35ページ
PC Input Select button page 35

消画ボタン☞20ページ
Picture Vanish button page 20

VTR/DVD切換ボタン☞23、29、30ページ
VCR/DVD Select buttons pages 23, 29, 30

テレビ切換ボタン☞5ページ
TV Select button page 5

BSデジタル/デジタルCSチューナー操作ボタン☞31、32ページ
BS/CS Digital Tuner Operation buttons pages 31, 32

音量+/−ボタン☞5ページ
Volume +/– buttons page 5

BSデジタルチューナー/デジタルCSチューナー操作ボタン☞31、32ページ
BS/CS Digital Tuner Operation buttons pages 31, 32

入力切換ボタン☞33ページ
Input Select button page 33

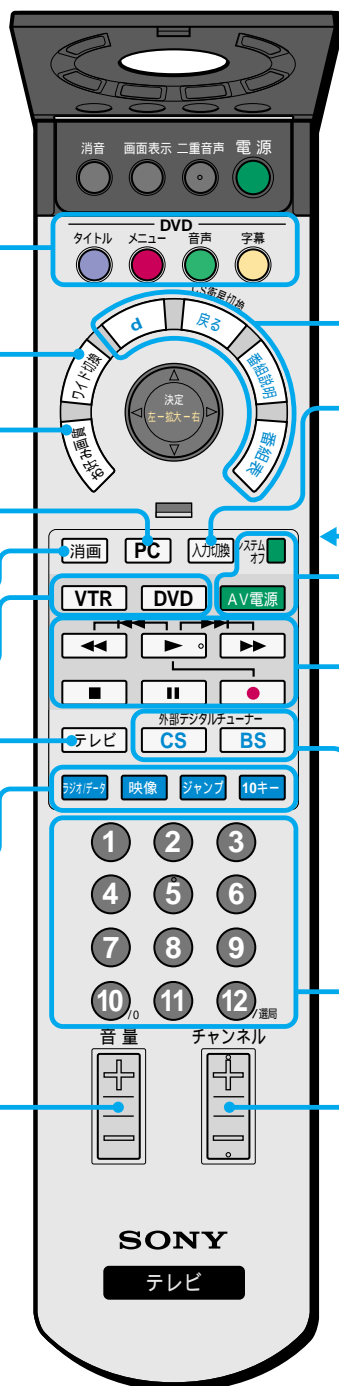
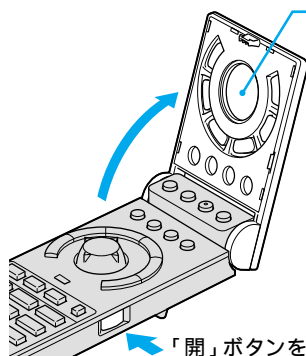
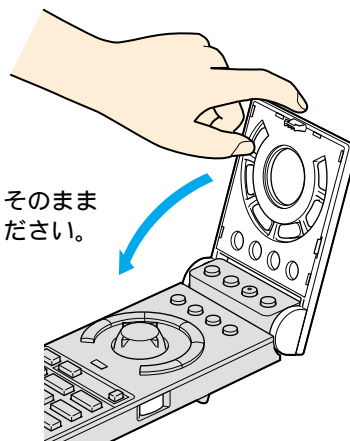
開ボタン☞6ページ
Open button page 6

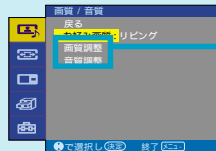
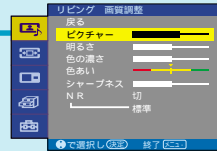
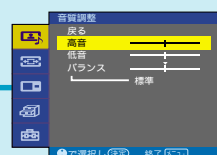
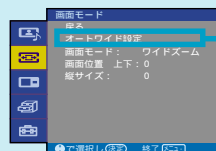
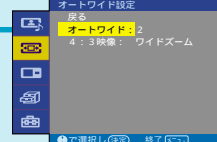
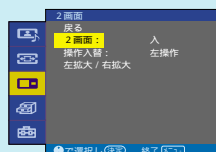
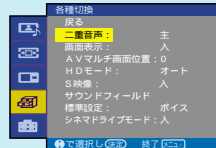
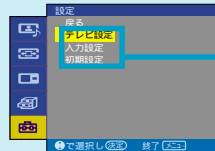
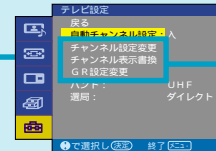
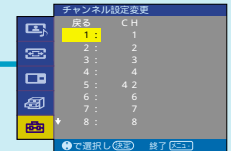
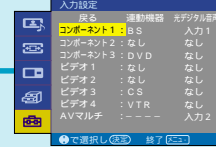
システムオフ/AV電源ボタン☞29〜32ページ
System Off/External Equipment Power buttons pages 29-32

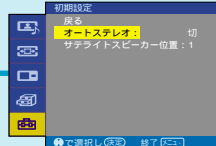
ビデオ操作ボタン☞29ページ
VCR Operation buttons page 29

外部デジタルチューナーBS/CS切換ボタン☞23、31、32ページ
BS/CS Digital Tuner Select buttons pages 23, 31, 32

チャンネル数字ボタン☞5ページ
Channel Number buttons page 5

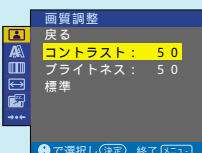
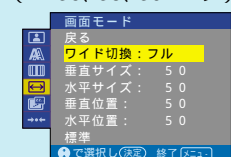
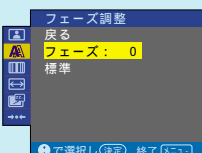
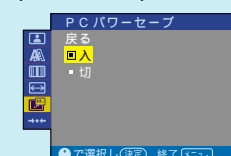
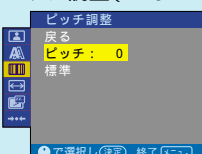
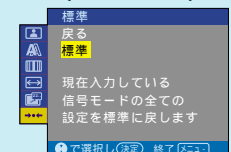
チャンネル+/−ボタン☞5ページ
Channel +/– buttons page 5

消音 画面表示 二重音声 電源
DVD
タイトル メニュー 音声 字幕
d 戻る
ワイド切換 番組説明 お好み画質 番組表
決定
消画 PC 入力切換 システムオフ
VTR DVD AV電源
外部デジタルチューナー
テレビ CS BS
ラジオ/データ 映像 ジャンプ 10キー
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
音量 チャンネル
SONY
テレビ

メニュー一覧

画質/音質
(☞ 45ページ)

画質調整 (☞ 45ページ)

音質調整 (☞ 49ページ)

画面モード
(☞ 48、54ページ)

オートワイド設定
(☞ 54ページ)

2画面 (☞ 14ページ)

各種切換
(☞ 47、74、82、87ページ)

設定 (☞ 26、50、64、67、69ページ)

テレビ設定 (☞ 64、67、69ページ)

チャンネル設定変更
(☞ 64、65、66、68ページ)

入力設定 (☞ 26ページ)

チャンネル表示書換
(☞ 66、69ページ)

初期設定
(☞ 50、51ページ)

GR設定変更 (☞ 69ページ)

PCメニュー

PC入力のときにのみ表示されます。

画質調整 (☞ 41、42ページ)

画面モード
(☞ 36、38、39ページ)

フェーズ調整 (☞ 38ページ)

PCパワーセーブ
(☞ 43ページ)

ピッチ調整 (☞ 37ページ)

標準 (☞ 44ページ)

- メニューは△/▽/◁/▷で選び、真ん中を押しこむかまたは▷で決定します。
- 黄色で表示される部分が選ばれています。
- 青色で表示される部分は選べません。

索引

五十音順

あ行

インデックス 17
衛星放送 .... BSの項参照
オートワイド 12
　切る 54
　設定する 54
お好み画質 6
音場効果 7
音質調整 49

か行

各部の名前 .... 71、100
画質調整 45
画面位置調整
　パソコン 39
　“プレイステーション 2”
　“プレイステーション”(PS one)
　“プレイステーション” 82
　ワイド画像の上下位置調整 48
ケーブルテレビ 65
ゲーム 84
コントラスト 42
コントロールS端子 76
コンポーネント .... 76、78、80、87

さ行

サウンドフィールド 7
サンプリングレートコンバーター 98
自己診断表示 89
シネマドライブモード 47
字幕入 12
主音声 51
消音 4
ズーム 12
垂直画面位置 .... 39、48
垂直画面サイズ .... 38、48
水平画面位置 39
水平画面サイズ 38
接続する
　オーディオ機器 84
　端子の名前とはたらき 71
　デジタルCSチューナー 78
　テレビ（VHF/UHF）アンテナ 62
　テレビゲーム 84
　ハイビジョンベースバンド機器 87
　ビデオ機器 74
　“ プレイステーション 2 ”/
　“ プレイステーション ”(PS one)
　“ プレイステーション ” 82
　BSデジタルチューナー 76
　DVDプレーヤー 80
設定する
　選局方法 67
　チャンネル 63
　S映像切り換え 74

た行

ダイレクト選局 67
縦サイズ調整 .... 38、48
チャンネル合わせ（設定） 63
　自動設定 63
　手動設定 65
　ダイレクト選局 67
　10キー選局 67
チャンネル表示書き換え 66
調整
　音質調整 49
　画質調整 45
　ワイド画面 54
デジタルCS放送 .... 32、78
テレビ（VHF/UHF）アンテナの接続 ... 62
テレビゲーム 83
ドルビーデジタル 11

な行

入力設定 26
二重音声 51
入力切換 33
ノーマル .... 12、36

は行

光デジタル音声 .... 11、26
ピッチ 37
ビデオ
　接続する 74
　見る .... 29、33
表示モード 35
フェーズ 37
副音声 51
付属品 56
ブライトネス 41
フル .... 12、36
ボイス .... 7、10

ま行

メーカー設定 24
メニュー一覧 104
メモ 19

ら行

リモコン
　各部の名前 102
　電池を入れる 57

わ行

ワイド切換 13
ワイドズーム 12

数字・アルファベット順

数字

2画面 14
2CH 11
5.1CH 11
10キー選局 67

アルファベット

AVマウス .... 21、27
AVマルチ画面位置 82
BSデジタル放送 .... 2、31、76
CATV 65
D端子 .... 71、72
DVDプレーヤー .... 30、80
DTS 11
GR（ゴースト・リダクション） 69
HDモード .... 72、87
Macintosh 86
OFF .... 7、9
S映像切り換え 74
VHF/UHFアンテナ 62
VHF/UHFのチャンネル設定 63
Windows .... 36、93